

第 1 部

令和 4 年度の活動報告

第 1 章 協調学習の授業づくりプロジェクト 今年度の展開

第1章 協調学習の授業づくりプロジェクト 今年度の展開

本章では、CoREFが自治体等と連携して行ってきた協調学習の授業づくりプロジェクトの令和4年度の活動について報告します。

第1節では、私たちの研究連携の基本的な枠組みについて解説します。

第2節、第3節では中核となる研究連携事業である「新しい学びプロジェクト」、「未来を拓く『学び』プロジェクト」について、それぞれ今年度の活動報告を行います。

第4節では、自治体の枠を超えて、これらの研究連携の核となる先生方を伸ばす試み、「本郷学習科学セミナー」について報告します。

第5節では、学校外の学びの場をデザインするプロジェクトの一例として、「ジュニアドクター育成塾」事業（科学技術振興機構（JST））について報告します。

第6節では、今年度CoREFが講師を務めた関連の研修等について一覧で報告します。

- 第1節 協調学習の授業づくりプロジェクトとは
- 第2節 新しい学びプロジェクト
- 第3節 未来を拓く「学び」プロジェクト
- 第4節 本郷学習科学セミナー ー連携の核を育てるー
- 第5節 ジュニアドクター育成塾事業
- 第6節 今年度の研修実施状況

1. 協調学習の授業づくりプロジェクトとは

(1) 研究連携の基本的な枠組み

CoREFでは、学習科学の知見を基盤に、平成22年度から全国の教育委員会及び学校や学校間ネットワークと連携し、一人一人の子ども達が自分で考え、考えや視点の違う他者との関わりを通じて自分の理解を見直し、深めていく学び（＝協調学習）を教室で実現するための協調学習の授業づくりプロジェクトを展開してきた。

プロジェクトの基盤となる活動は、「知識構成型ジグソー法」という1つの授業手法を核として、教材検討、実践、学習評価、振り返りという授業研究のサイクルを地域、校種、教科を超えた先生方と研究者が協同で回し続けることである。

またこうした基盤を維持、発展させるために、それぞれのローカル（教育委員会や学校等）な拠点での研修や仕組みづくり、ローカルな拠点間の

ネットワークづくりを行い、それぞれの組織が自分たちの課題に即して実践研究を行いながら、同じ課題を共有する仲間同士のネットワークを生かして発展する関係を構築してきた。こうしたネットワークには、課題に応じて産業界や他組織の研究者等も参画している。

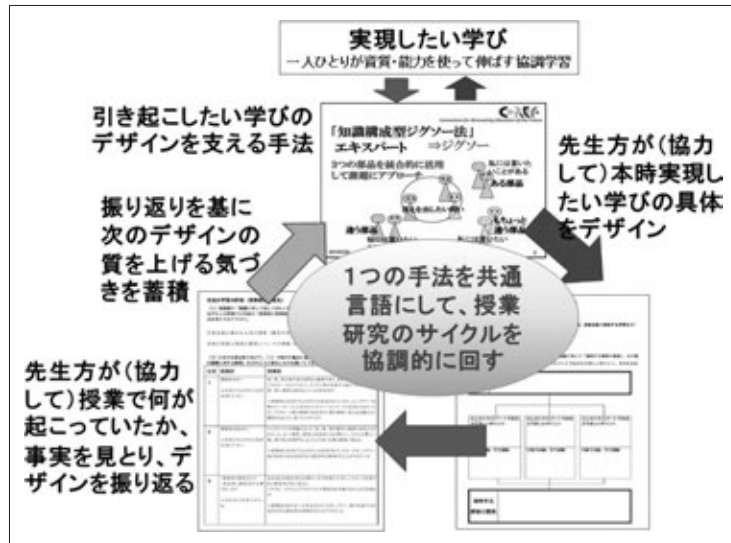


図1：CoREFの研究連携の基本的な枠組み

実践者	研究者（CoREF）	行政関係者
・「知識構成型ジグソー法」の型を使った授業の実践	・「知識構成型ジグソー法」の型の提供	・自治体の教育課題に応じた「知識構成型ジグソー法」の活用
・オンラインでの協調的な授業デザイン検討		・CMSやメーリングリストによる協調的な授業デザイン検討の場の提供
・研修会参加 ・共通の枠組みでの振り返り	・研修や振り返りのためのツールのデザイン・提供	・研修会参加 ・実践や振り返りの共有化
・新しい課題の発見とそれに即した取組の見直し		

表1：プロジェクトにおける実践者、研究者、行政の役割

(2) プロジェクトで目指すもの

プロジェクトで私たちが目指し続ける先は、(1) 一人一人が自分で考え、考えや視点の違う他者との関わりを通じて自分の理解を見直し、深めていくような学び方が学校の内外で当たり前になること、(2) そのために、どうしたらそのような学びを（当面教室で）実現できるか、学びのデザインをする立場の人たち（当面教師や研究者）が自分なりの学習科学を行い続けるのが当たり前になることである。また、(3) その先に、社会全体として、すべての人が生まれ持った賢さを十分に発揮し、伸ばし続けていけるような環境をデザインすることが常識化していくとよい。

例えば、私たちのプロジェクトでは、「知識構成型ジグソー法」という手法を使った授業づくりを行っている。みんなが答えを出したい、しかし一人では十分な答えが出ない課題がある環境下で、一人一人が違った、でもどれも役に立つらしい考えを持っているという状況を作っておけることによって、学習者は、(少なくともそうでない状況よりはずっと) 主体的に考えながら、他者の考えを基に自分の考えを見直し、深めることをしやすくなるのではないか、という仮説に基づいた授業手法である。学習者が自分の持っている賢さをより発揮しやすい／発揮する必然性がある環境、状況を作っておけることによって、その賢さを引き出し伸ばす。これが協調学習の授業づくりプロジェクトの核となるコンセプトである。

そのうえでもう1つ重要なのは、もちろん、(他のどの手法でも同じだろうが)「知識構成型ジグソー法」という手法で授業を進めさえすれば、必ずしも今言ったようなことが起こるわけではないということである。例えば、「一人では十分な答えが出ない課題がある環境」を作っておけるためには、目の前の学習者にとって、了解可能で、かつ一人では十分な答えが出ない課題は何かを学習環境をデザインする側（この場合は教師）が同定し、適切な課題を提示してあげる必要がある。

しかも、それが本当に目の前の学習者にとって適切な課題だったかは、蓋を開けてみるまでは分からない。もちろん、経験を重ねた教師であればより確からしく適切な課題を設定できるようになるが、同じ子ども、同じ授業は二度とない以上、一回一回の授業は常に（これまでの経験と観察事実に基づいて作った）学びの仮説を検証する場になる。

そう考えると、目指す学びをより確からしく実現していくためには、「こんな課題を設定したら子ども達はこう学んでくれるのではないか」「この資料からこんなことを考えるのではないか」といった学びについての仮説を立て、それを実際の授業の中で試していく（＝アクション・リサーチ）ことの繰り返しが欠かせない。この繰り返しの中で、「子どもはこう学ぶのか」「だったらこうしたらより彼らの力を引き出せるはず」と一人一人の実践者が言えること、できることの質を上げ続けていくことこそ、換言すればすべての教師が自分なりの学習科学を行い続けることである。そして、こんな風にすべての教師が自分なりの学習科学を行い続けることは、学びの質を上げ続けていく学校、そのことを楽しみ続ける教師集団につながっていくはずである。

(3) プロジェクトで大事にしていること

協調学習の授業づくりプロジェクトをこのゴールに向けて前進させていくために私たちが大事にしているのは、実現したい学びのビジョンを共有すること、学びの事実に基づくこと、学びのプロセスに着目することである。

授業研究のPDCA（Plan-Do-Check-Act）サイクルの重要性が言われて久しいが、そもそもどんな学びを実現したいのかのビジョンがしっかり共有されていないと、サイクルが次の学びの質を上げることにつながらない。

例えば、全員が同じ答えを同じように再生できることを学びのゴールイメージにしてしまったら、子ども達の頭や心はどう働くだろうか？それは実現したい頭や心の働きだろうか？今日のねらいに向けて、他者との関わりを通じて一人一人の子どもが理解を深めていくときにどんな思考や対話が起こってくれるとよいか。具体的なビジョンを持ち、共有することを大事にしたい（とはいえ、これを最初から行うのはなかなか難しい面もある）。

次に、学びの事実に基づくこと。「子どもがどう学ぶか」を問題に授業づくりをしているのだから、授業について語る時、常に子どもがどう学んだか、つまりいたか、学びの事実即して語ることは大前提である。そのうえで、今強調したいのは、子ども達は今日の授業の中でどのように思考し、対話しているのか、なるべくたくさんの学びの事実を手掛かりに、学びのプロセスに着目することの重要性である。

例えば、授業の最後に全員が及第点の答えを書いてくれた。これも1つの学びの事実である。しかし、この事実からだけで子ども達がどう学んだか、学びのプロセスについて推測できることはあまり確かではない。例えば、全員が1時間自分なりに考え理解を深めた結果そうなったのか、授業の最初から分かっていたのか、授業の大半はぼーっとして最後に先生か誰かのまとめた答えを使って書いただけだったのか。

学びのプロセスに着目すると言ったときには、子ども達の一人一人の話していること、書いていることを材料にして、授業の前後で子ども達一人一人がどのように理解を変容させたか、その間で彼らは何にこだわって、どんな風に理解を進めていたのか、仲間とのどんな関わりが理解を見直すきっかけになったのか、授業の中での彼らの頭や心の働きをなるべく確からしく推測することを目指している。

子ども達の頭の中をそのままのぞき込むことができない以上、学びのプロセスについて私たちの見とりとはあくまでもその断片的な解釈であり、仮説である。しかし、こうして学びのプロセスを丁寧に見とろうとすることは、また次のPDCAサイクルにおいて、より確からしく実現したい学びのイメージを作ることにもつながり、その質を上げていく。

最後にもう一点、プロジェクトで大事にしていることは、こうしたサイクルを一人一人の先生方の問題にせず、先生方のローカルなコミュニティ、そしてコミュニティ同士のネットワークで回していけるようにすること、そのための環境を整備していくことである。

本章第2節以降では、こうしたプロジェクトの具体的な枠組みを紹介し、今年度の活動を報告していく。

2. 新しい学びプロジェクト

(1) 連携事業の概要

「新しい学びプロジェクト」は、平成22年度より開始したCoREFと市町教育委員会、学校等との小中学校における協調学習を引き起こす授業づくりのための研究連携事業である。研究連携の中心的活動は、知識構成型ジグソー法を活用した授業に焦点をあてた授業研究のサイクルを、住む地域、教えている学校、そして教員歴も多様な実践者とCoREFスタッフが、ウェブ上のネットワークも活用しながら協調的にまわしていくことである。平成24年度から「新しい学びプロジェクト」に参加する市町教育委員会等は、「新しい学びプロジェクト研究協議会」という組織を立ち上げ、この研究協議会とCoREFとが連携して「新しい学びプロジェクト」として活動を行っている。

研究連携の具体的な方法として、各参加団体は国語、算数・数学、理科、社会、英語の5教科の部会から任意の部会（複数可）に、研究推進員となる教員を参加させ、研究推進員は教材開発を中心とした活動を行う。研究推進員の数は自治体の任意である。また、研究推進員に加え、サポートメンバーという形で研究に携わる教員も設定されている。参加団体の中には、校内のすべての先生方をサポートメンバーとしている学校もある。

参加団体は、指導主事や学校管理職ないしそれに準ずる職員を1名以上研究推進担当者として用意し、研究連携の事務的なサポートを行っている。また、参加団体間及び研究協議会とCoREFとの連絡業務を円滑に行うために、研究推進担当者の代表が事務局を務める。

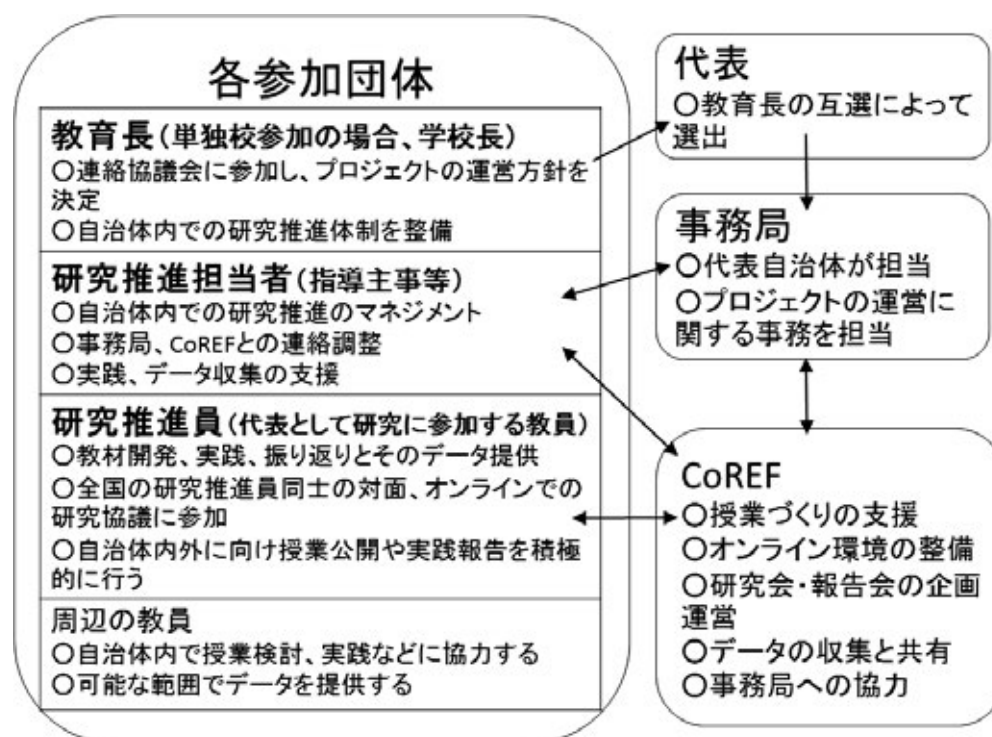


図2: 「新しい学びプロジェクト」研究の進め方

(2) 今年度の事業の報告

①今年度の組織体制

今年度の「新しい学びプロジェクト」参加団体は、表2の19都道府県28団体である。「新しい学びプロジェクト」研究協議会は、参加団体から互選で代表、副代表を選任している。今年度の代表は埼玉県教育委員会高田直芳教育長が務め、埼玉県が事務局を担当した。

北海道様似町、群馬新しい学びプロジェクト・ネットワーク、埼玉県、埼玉県戸田市、埼玉県久喜市、東京都市大学等々力中学校・高等学校、神奈川県清川村立緑中学校、長野県文化学園長野中・高等学校、静岡前向き授業づくりネットワーク、京都市立学校新しい学びプロジェクト研究協議会、和歌山県有田川町、大阪府清風学園清風中学校・高等学校、大阪夕陽丘学園高等学校、兵庫県創志学園クラーク記念国際高等学校、島根県、島根県津和野町、浜田市、岡山県瀬戸（OKAYAMA）新しい学びプロジェクト、広島県安芸太田町、せらにし教育研究会、ひろしま新しい学びプロジェクト研究協議会、山口県新しい学びプロジェクト研究協議会、高知県教育センター、福岡県飯塚市、大分県教育センター、大分県九重町、豊後高田市、宮崎県延岡市

表2：令和4年度「新しい学びプロジェクト」参加団体

また、今年度各参加団体から研究推進員として登録された教員数は表3の通りである。全体で186名の研究推進員が登録された。この他にサポートメンバーとして976名が登録されており、計1,162名が今年度の研究に携わる教員として登録されている。

また今年度は、「協調学習の授業づくりにおいて指導的役割を担う人材」として各参加団体からの推薦で33名の「協調学習マイスター」を任命し、研修等でご活躍いただいた。

国語	社会	算数・数学	理科	英語	その他
37	40	43	25	15	26

表3：令和4年度「新しい学びプロジェクト」教科別研究推進員数（名）

②今年度のスケジュール

今年度の事業の主なスケジュールと概要は表4の通りである。

a) 連絡協議会

「新しい学びプロジェクト」のビジョンと運営方針は、年度の初めと年度末に行われる教育長、研究推進担当者による連絡協議会で決定される。この連絡協議会では、新規参加を検討される団体のオブザーバー参加も歓迎している。

b) 研究推進員等実践者の活動

「新しい学びプロジェクト」で実践研究を行う研究推進員、サポートメンバー、参加団体外に異動したOB等の先生方は、参加団体内のローカルなコミュニティでのやりとりに加え、全国のメンバーとやりとりできるメーリングリスト、過去のメーリングリストのや

りとりや開発教材を閲覧できる「学譜システム」(第2部第3章第2節を参照)を活用した教科部会での授業づくり、実践報告を随時行っている。このメーリングリストには、令和5年1月現在、2,000名超の実践者、教育行政関係者、研究者などが登録されている。

日程	イベント・会場	概要
随時	授業研究	参加団体内のローカルなコミュニティやメーリングリスト、学譜システムを活用した教科部会での授業づくり、実践報告
5月9日	第1回連絡協議会 @京都市立西院小学校 (ハイブリッド開催)	教育長、研究推進担当者が集まって、今年度の研究推進体制と研究の進め方を確認
7月30日	拡大研究推進員会 教育長担当者会議 (遠隔同期)	午前《全体会》 学譜システムを活用した授業研究のワークショップ 午後《教育長担当者会議》 各参加団体内の研究推進に関する教育長・担当者の情報交換 午後《第1回教科部会》 教材検討及び実践交流
12月9日 10日	授業研究会@有田川町 (ハイブリッド開催)	1日目：公開授業研究会 2日目：ビデオ記録による授業研究会及び実践交流
1月20日 21日	授業研究会@京都市立 学校新しい学びプロ ジェクト研究協議会 (ハイブリッド開催)	1日目：公開授業研究会及び研究発表、後援 2日目：各学校や市町における授業研究の進め方についての意見交換及び実践交流
2月4日	第2回連絡協議会/ 教科部会 @聖心女子大学 (ハイブリッド開催)	《第2回連絡協議会》 教育長、研究推進担当者が集まって、各参加団体の研究状況を交流、全体としての今後の研究の進め方を協議 《教科部会》 教科ごとに実践交流を行い、授業デザイン原則をまとめる
2月5日	報告会@聖心女子大学 (ハイブリッド開催)	表5参照のこと

表4：令和4年度「新しい学びプロジェクト」年間スケジュール

日常的に行っている授業づくりのやりとりの他に、授業研究に関するワークショップ、実践者による教科部会と管理職・教育行政関係者による教育長担当者会議からなる拡大研究推進会、年2回の授業研究会、報告会と同時開催で行う教科部会などの研究会がある。

これらへの参加は任意である。

今年度は過去2年間と比べると都道府県をまたぐ移動や対面の授業研究会の開催のハードルがずいぶん下がったが、過去2年間のノウハウを生かし、旅費や時間的負担の軽減といったオンラインのメリットも生かす形でハイブリッド開催での会を多く実施した。

c) 報告会

令和5年2月5日には、「学びの過程に学び、学びの未来を描く」と題し、聖心女子大学を会場にハイブリッド開催で年次報告会を行った。報告会には、新しい学びプロジェクトご関係の先生方106名（対面参加76名、オンライン参加30名）、教育行政関係者、学校関係者、研究機関、一般企業から142名（対面参加35名、オンライン参加107名）の計248名の参加申込をいただいた。

パネルディスカッション①「学びの想定と見とりを軸にした授業研究」では、今年度全国での授業研究会を担当いただいた和歌山県有田川町教育委員会、京都市立学校新しい学びプロジェクト研究協議会の先生方にご登壇、実践のご報告をいただいた。

有田川町の先生方には個々の授業研究から見えてきたことについてそれぞれ中学校3年生数学、小学校2年生国語の事例を基にお話しいただいた。中学校数学では、数学の学びとして重要でかつこれまでの実践から子ども達にとって難しいことが見えてきている

「証明するとはどういうことか？」に焦点を絞った授業を行い、50分の授業の中では考えが収束しなかったが子ども達が休み時間まで自分たちで対話を続けていたこと、次時以降の学習の深まりにつながったことが報告された。小学校国語では、低学年の子たちでも授業の中で日常生活のように対話しながら理解を深めていけること、と同時にそうした対話の中で特に学習苦手群の子ども達がどのようにつまづいているのかが可視化され、授業デザインを見直す契機になることが示された。

京都市立西院小学校の先生方には校内の授業研究のマネジメントと授業研究を通じた子ども達や先生方の変容について話しいただいた。50名近い先生方が「全員授業者」として主体的に授業研究に参加できるようになった背景として、全職員による学びのシミュレーションによる授業検討、学年集団での実践と振り返りの繰り返しによる教材開発、ヘッドセットマイクとweb会議システムを活用した校内オンライン授業観察による丁寧な学びの見とりに基づく仮説検証型授業研究、そして時に嫌われ役になりながらも研究を推進した研究主任のリーダーシップ等の要素が挙げられた。

コメンテーターの先生方からは、子どものつまづき、学びの事実から授業をデザインする重要性、授業研究を通じて子どもを知ることが日々の授業や教師と子どもとの関わりを変えて信頼を築く根本になることなど、取組の価値づけをいただいた。

パネルディスカッション②「学びの想定と見とりを支える先端技術」では、こうした授業研究を支える先端技術の役割とその効果について、今年度教育環境デザイン研究所（CoREF）が文部科学省「令和4年度 教育現場を見据えた先端技術・教育データの利活用推進事業」の委託を受けて行っている「主体的・対話的で深い学びのための授業研究コ

「コミュニティ創成事業」実証地域の先生方にご登壇いただいた。

<p>パネルディスカッション①「学びの想定と見とりを軸にした授業研究」 和歌山県有田川町教育委員会 町立金屋中学校 教諭 上道 賢太／町立藤並小学校 教諭 中 雄紀 京都市立学校新しい学びプロジェクト研究協議会 市立西院小学校 校長 國重 初美／教諭 多々良 晋佑 文部科学省 大臣官房審議官（初等中等教育局担当） 安彦 広斉 山形大学 准教授 森田 智幸 〈司会〉教育環境デザイン研究所 主任研究員 飯窪 真也</p>
<p>パネルディスカッション②「学びの想定と見とりを支える先端技術」 福岡県飯塚市教育委員会 市立立岩小学校 校長 末永 喜美子 広島県安芸太田町教育委員会 主幹 免田 久美子 埼玉県久喜市教育委員会 主幹兼室長 山本 純 鳴門教育大学 教授 藤村 裕一 内田洋行教育総合研究所 主任研究 平野 智紀 共立女子大学 講師／教育環境デザイン研究所 研究員 齊藤 萌木 〈司会〉国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官／ 教育環境デザイン研究所 理事 白水 始</p>
<p>ラウンドテーブル「小・中・高等学校の各教科における『知識構成型ジグソー法』の授業づくりと実践について」</p>

表5：令和4年度「新しい学びプロジェクト」報告会 プログラム

飯塚市からは今年度初めて学瞰システムを授業研究に取り入れた学校における先生方の反応について、久喜市からはこれまで市が展開してきたICT活用事業の中にこの取組がどう位置づくかについて、安芸太田町からは3年間のシステムを活用した授業研究を通じて見えてきた先生方の変化についてそれぞれご報告いただいた。

コメンテーターの先生方からは、先端技術の効果的な活用は、（これまでの授業研究を通じて形成された）子どもの学びについてもっと知りたいという先生方のニーズの上に実現しているということ、見とりの支援と同時に先生方が学びの想定を行うための支援も重要であること、包括的な学びの見とりのためのICT活用は先生方の学びの変革につながるものであること等のコメントいただいた。同時に技術の横展開についての次の課題もご示唆いただいた。授業研究を支える先端技術の詳細については、第2部第3章第2節、第4章第3節で事例とともに紹介している。あわせて参照いただきたい。

③各参加団体の取組

プロジェクト全体の活動と並行し、各参加団体はそれぞれの枠組みで実践研究を進めている。今年度事務局に報告された公開研究授業等（令和3年度の3学期分を含む）420授業を表6、7、8、9、10に一覧で示す。

令和4年度活動報告書 第13集

番号	実施日	参加団体	実践を行った学校	学年	実践者	教科	内容
1	2022年1月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	吉田 朋子	国語	小説「高瀬舟」3 芥川三作品
2	2022年1月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	吉田 朋子	国語	字のないはがき
3	2022年1月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	和田 伴	家庭	お弁当作り
4	2022年1月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	和田 伴	家庭	持続可能な食生活
5	2022年1月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	若林 龍太	理科	生態系について
6	2022年1月14日	安芸太田町教育委員会	広島県立加計高等学校	高1	安本 直史	数学	2方程式・不等式
7	2022年1月14日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中3	藤並 進	社会	国の政治の仕組み
8	2022年1月14日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計小学校	小4	佐々木 裕美	算数	直方体と立方体
9	2022年1月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立岩小学校	小6	上野 靖代	社会	平和で豊かな暮らしをみざして
10	2022年1月19日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	吉田 朋子	国語	小説「高瀬舟」1 安楽死
11	2022年1月20日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中1	五島 映人	理科	大地は語る
12	2022年1月21日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	吉田 朋子	国語	小説「高瀬舟」2 足るを知る
13	2022年1月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小4	井出 綾美	社会	わたしたちの町のまちづくり
14	2022年1月24日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳波西中学校	中3	新田 将登	保健	サッカー
15	2022年1月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小5	伊藤 朋子	道徳	モントゴメリーのバス
16	2022年1月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小2	石田 竜成	算数	1000をこえる数
17	2022年1月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳波西中学校	中1	富田 実来	国語	少年の日の思い出
18	2022年1月31日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳波西中学校	中2	乗松 竜大	数学	確率
19	2022年2月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	吉田 朋子	国語	小説「走れメロス」1
20	2022年2月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	吉田 朋子	国語	小説「走れメロス」2
21	2022年2月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	吉田 朋子	国語	物語文「少年の日の思い出」1
22	2022年2月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	吉田 朋子	国語	物語文「少年の日の思い出」2
23	2022年2月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	若林 龍太	理科	震源について
24	2022年2月7日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町 T 授業	小4	西廣 直明・中村 可南子 佐々木 かおり	理科	ものあたたまり方～あたたまった空気で大空へ～
25	2022年2月7日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立簡賀小学校	小1	三戸 晴加	国語	「どうぶつの赤ちゃん」
26	2022年2月7日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立上殿小学校	小1	新宅 裕美子	算数	おおいかず
27	2022年2月8日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	和田 伴	家庭	持続可能な食生活②
28	2022年2月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小5	花元 真太郎	算数	速さ
29	2022年2月9日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立小中一貫校観星学園	中2	可細 真央	数学	データの比較
30	2022年2月10日	鳥根県教育委員会	鳥根県立浜田高等学校	高1	岡田 正	現代社会	裁判所の役割・裁判員制度
31	2022年2月14日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	原田 優次	道徳	LINEトラブル
32	2022年3月15日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立簡賀小学校	小5・6	河本 聖志	算数	「一筆書き」
33	2022年3月22日	鳥根県教育委員会	鳥根県立出雲高等学校	高1	萬代 峻	数学	線形計画法
34	2022年3月23日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立簡賀小学校	小1・2	河本 聖志	算数	たし算とかけ算の違い
35	2022年4月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	若林 龍太	理科	植物の分類
36	2022年4月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	若林 龍太	理科	生命の連続性
37	2022年4月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中2	大丸 公平	理科	生物の体のつくりと働き
38	2022年4月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	大丸 公平	理科	遺伝
39	2022年4月20日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	原田 優次	理科	メンデルの遺伝の法則
40	2022年4月21日	瀬戸（OKAYAMA）新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高2	高橋 知子	社会	3世紀の「倭」
41	2022年4月21日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	原田 優次	道徳	LINEトラブル
42	2022年5月9日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	若林 龍太	理科	呼吸のしくみ
43	2022年5月9日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中1・中3	1学年・3学年担任	道徳	LINEトラブル
44	2022年5月10日	京都市立学校新しい学びプロジェクト研究協議会	京都市立西院小学校	小6	多々良 晋佑	算数	文字と式
45	2022年5月16日	瀬戸（OKAYAMA）新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高2	高橋 知子	社会	律令国家の形成
46	2022年5月17日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計小学校	小1	河本 聖志	生活	きれいにさいてね
47	2022年5月25日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計小学校	小2	河本 聖志	生活	野菜をどこに植えるか
48	2022年5月26日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	住岡 美徳	数学	式の計算（図形の性質）
49	2022年5月30日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	岩井 恵・森田 翔太 山崎 学月	道徳	オレと孝一
50	2022年6月1日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	原田 優次	理科	ニュートン力学入門
51	2022年6月1日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中2	永井 孝直	美術	プレゼンテーションのレイアウト（表現の構想）
52	2022年6月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	若林 龍太	理科	大地がゆれる
53	2022年6月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	和田 伴	家庭科	食品の選択
54	2022年6月1日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	高野 真仁	社会	江戸幕府の成立と支配の仕組み
55	2022年6月3日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳波東小学校	中3	平尾 智美	国語	視野を広げて（「作られた物語」を超えて）
56	2022年6月7日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	石井 芳直	数学	四則計算
57	2022年6月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小3	西 賢太	総合	「私たちのじまんのまちー伊岐須ー」
58	2022年6月8日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	岩井 恵・森田 翔太 山崎 学月	道徳	伝説のコーチ
59	2022年6月10日	高知県教育センター	青島日本人学校	中2	久万 真史	国語	「短歌に親しむ」短歌を味わう
60	2022年6月13日	瀬戸（OKAYAMA）新しい学びプロジェクト	倉敷市立精思高等学校	高1	山神 大輝	数学	因数分解
61	2022年6月14日	久喜市教育委員会	久喜市立江面小学校	小4	松本 千春	理科	ペットボトルロケット（空気と水）
62	2022年6月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小3	大塚 愛衣	総合	「私たちのじまんのまちー伊岐須ー」
63	2022年6月14日	瀬戸（OKAYAMA）新しい学びプロジェクト	倉敷市立玉島高等学校	高1	高槻 万葉	国語	分かりやすく説明する
64	2022年6月15日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計小学校	小3	甲斐 舞羽	算数	たし算とひき算の筆算（発問問題）
65	2022年6月15日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	池本 七海	道徳	二通の手紙
66	2022年6月15日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	岩井 恵・山崎 学月	道徳	二通の手紙
67	2022年6月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内小学校	小6	尾玉 正昌	社会	私たちの暮らしと政治
68	2022年6月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小6	西 美音	社会	国づくりへの歩み
69	2022年6月17日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計小学校	小3	清住 秀久	理科	植物の育ちとつくりー植物の体のつくりー
70	2022年6月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小3	川原田 暁太	総合	「私たちのじまんのまちー伊岐須ー」
71	2022年6月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	不明	毛利 輝	数学	連立方程式
72	2022年6月22日	広島県せらにし教育研究会	世羅町立世羅西中学校	中1	桒上 耕敏	社会	ヨーロッパ州
73	2022年6月23日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	住岡 美徳	数学	平方根の加法
74	2022年6月24日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	永井 孝直	美術	プレゼンテーションのレイアウト（表現の構想）
75	2022年6月25日	OB等	奥大山江府学園	小6	高田 由佳り	国語	人物どうしの関係を考えよう「風切る翼」
76	2022年6月27日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中2	五島 映人	理科	さまざまな化学変化
77	2022年6月28日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町 T 授業	小5	大久保 優	国語	どちらを選びますか
78	2022年6月28日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町 T 授業	小2	佐々木 かおり	算数	時計を生活に生かそう【時ごとく時間】
79	2022年6月28日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立戸内小学校	小4	細川 隆典	算数	角の大きさの表し方を調べよう
80	2022年6月28日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	石井 芳直	数学	連立方程式の利用
81	2022年6月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中3	大津 リサ	英語	わかりやすい文脈を考えよう
82	2022年6月28日	瀬戸（OKAYAMA）新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高1	小川 風馬	数学	2次元図のグラフ
83	2022年6月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小6	遠藤 彰人	国語	人物同士の関係を考えよう「風切るつばさ」
84	2022年6月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立徳波小学校	小5	金子 久世	算数	合同な図形

表6：令和4年度「新しい学びプロジェクト」に関する協調学習の公開研究授業等一覧（1/5）

第1章 協調学習の授業づくりプロジェクト 今年度の展開

番号	実施日	参加団体	実践を行った学校	学年	実践者	教科	内容
85	2022年6月30日	延岡市教育委員会	延岡市立立上呂中学校	中3	後藤 悠介	理科	ダニエル電池の学習内容を活用して、充電のしくみについて考える。
86	2022年7月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	若林 龍太	理科	大地は語る
87	2022年7月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	若林 龍太	理科	雲の出来方
88	2022年7月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立八木山小学校	小1	齊藤 久美子	国語	どうやってみまもるのかな
89	2022年7月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内中学校	中3	森方 良一	理科	運動とエネルギー
90	2022年7月6日	OB等	甘日市立七尾中学校	中3	岩井 恵・森田 翔太 山崎 学自	道徳	杉原千蔵
91	2022年7月6日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立戸内小学校	小6	中村 可南子	国語	私たちにできること
92	2022年7月6日	延岡市教育委員会	延岡市立北川小学校	小6	長友 強	算数	円の面積の学習をもとにした複合図形の面積の求め方
93	2022年7月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立藤田小学校	小2	廣方 美史	生活	えがおのみつたんけんたい
94	2022年7月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立船田小学校	小1	池上 智子	国語	おきなかぶ
95	2022年7月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内中学校	中2	秋山 知子	国語	短歌に親しむ
96	2022年7月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋本小学校	小3	三木 涉	算数	表とグラフ
97	2022年7月8日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	石井 芳直	数学	文字式の表し方
98	2022年7月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中3	原田 秀輝	理科	単元1 運動とエネルギー
99	2022年7月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中2	木本 義弘	数学	2章 連立方程式の利用
100	2022年7月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中3	高橋 直美	数学	2章 平方根
101	2022年7月8日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	赤磐市立赤磐中学校	中3	棚田 昌代	国語	現代文「一つのメルヘン」
102	2022年7月11日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	石井 芳直	数学	平方根の利用
103	2022年7月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西中学校	不明	山田 誠一	美術	本の表紙デザイン
104	2022年7月13日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中1	竹瀬 恵太	保健	心身の機能の発達と心の健康
105	2022年7月13日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	石井 芳直	数学	連立3元1次方程式
106	2022年7月13日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	住岡 美徳	数学	2次方程式
107	2022年7月14日	高知県教育センター	青島日本人学校	中3	久万 真央	国語	「挨拶一原爆の写真によせて」
108	2022年7月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小6	高熊 亮	社会	武士の政治が始まる
109	2022年7月14日	延岡市教育委員会	延岡市立西原中学校	中2	藤川 比呂美	数学	文章問題を連立方程式で解くよさに気付かせる
110	2022年7月14日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高2	磯山 佳右	数学	三角関数のグラフ作成
111	2022年7月22日	島根県教育委員会	島根県立津和野高等学校	高2	山根 幸久	英語	進路目標を達成する方法について考える
112	2022年8月2日	OB等	甘日市立七尾中学校	横断授業	原田 優次	道徳	どんな勇気なら
113	2022年8月22日	高知県教育センター	青島日本人学校	中1	久万 真央	国語	「大人になれなかった弟たちに…」(米倉斉加年)
114	2022年8月31日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高2	志波 拓弥	物理	物理 熱
115	2022年9月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	若林 龍太	理科	気圧と風
116	2022年9月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	若林 龍太	理科	アユの漁獲量減少について
117	2022年9月6日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	住岡 美徳	数学	一次関数の利用
118	2022年9月6日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	山際 紗月	国語	挨拶一原爆の写真によせて
119	2022年9月6日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	高野 真仁	社会	日本の語地域
120	2022年9月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小5	小野 正大	社会	「これからの食料生産」
121	2022年9月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小5	山藤 寛	社会	「これからの食料生産」
122	2022年9月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小5	八幡 由里	社会	「これからの食料生産」
123	2022年9月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立高田小学校	小6	野崎 湧雅	社会	全国統一への動き
124	2022年9月10日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	中3	松橋 博行	国語	漢字の意味と読みを、部首に注目して、ジグソー活動した。
125	2022年9月12日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高3	片山 大輔	国語	古典「万葉集 山上憶良」
126	2022年9月13日	高知県教育センター	高知県立高知南高等学校	高3	井上 大地	理科	遺伝子検査について、私たちが知っておくべきことは何か
127	2022年9月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小3	服部 心子	体育	けんこうな生活
128	2022年9月14日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	若林 龍太	理科	塩酸の電気分解
129	2022年9月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小1	野中 麻莉	算数	おきさくらべ (1)
130	2022年9月14日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	赤磐市立立岩中学校	中2	渡辺 和人	英語	長文の内容を理解し、英語でまとめる
131	2022年9月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立内野小学校	小1	大塚 健太	算数	大きさをくらべ (1)
132	2022年9月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小5	柏民 暁彦	社会	これからの食料生産
133	2022年9月20日	高知県教育センター	高知県立高知南高等学校	高3	正副担任一同	総合的な 探究の時間	主催者教育
134	2022年9月21日	島根県教育委員会	島根県立大田高等学校	高3	富田 泰範	国語	問題演習 (読むこと)「大学入試の思想に迫る」
135	2022年9月21日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	高野 真仁	社会	アフリカ州
136	2022年9月21日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中2	藤田 恭兵	国語	平家物語から「扇的」
137	2022年9月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小4	藤田 早紀	社会	災害にそなえるまちづくり
138	2022年9月21日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高1	今田 秋紀	数学	定義域や軸が変化する2次関数
139	2022年9月21日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	赤磐市立吉井中学校	中1	西山 大喜	社会	古代国家の歩みと東アジア世界
140	2022年9月22日	島根県教育委員会	島根県立津和野高等学校	高1	山根 幸久	英語	未来の車
141	2022年9月22日	高知県教育センター	いの町立伊野南中学校	中2	上岡 涼太	社会	中国・四国地方 上勝町の地域おこし
142	2022年9月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立高田小学校	小5	花岡 優	社会	これからの食料生産
143	2022年9月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立内野小学校	小3	川原田 佳世	算数	あまりのあるわり算
144	2022年9月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳波東小学校	中3	平尾 智美	国語	状況の中で「故郷」
145	2022年9月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小2	大庭 睦代	音楽	ジェットコースター
146	2022年9月22日	延岡市教育委員会	延岡市立緑ヶ丘小学校	小6	染矢 貴廣	理科	水溶液の性質を利用して、各種液に分ける
147	2022年9月22日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	赤磐市立高陽中学校	中2	片岡 由佳	国語	「益土産」 エビフライに隠れた心情を読み解く
148	2022年9月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小3	鬼塚 恵里	道徳	誰に対しても真心をもって
149	2022年9月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小5	金高 正俊	家庭	食べて元気！ご飯とみそ汁
150	2022年9月26日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高2	磯山 佳右	数学	指数法則
151	2022年9月27日	浜田市教育委員会	浜田市立雲城小学校	小4	竹田 佑季子	理科	とじこめた空気と水
152	2022年9月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中1	大塚 勝正	社会	世界の語地域 アジア州
153	2022年9月27日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高2	金城 和也	生物	半保存的複製
154	2022年9月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小1	川野 春佳	算数	大きさをくらべ (1)
155	2022年9月28日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立戸内小学校	小6	中村 可南子	算数	角柱と円柱の体積
156	2022年9月28日	九重町教育委員会	九重町立野矢小学校	小2	高石 悠	算数	長方形と正方形
157	2022年9月29日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小1	小林 共子	算数	大きさをくらべ (1)
158	2022年9月29日	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中2	大音 剛	技術	エネルギーの変換と利用
159	2022年9月29日	延岡市教育委員会	延岡市立徳小中学校	小6	菊池 真央	算数	複合図形の体積の求め方
160	2022年9月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小3	大村 真矢	国語	サーカスのライオン
161	2022年9月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小4	小山 蓮	社会	自然災害にそなえるまちづくり
162	2022年9月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小6	酒見 直美	国語	海の声
163	2022年10月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	住岡 美徳	数学	関数 $y = ax^2$ の活用
164	2022年10月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	若林 龍太	理科	天気の図
165	2022年10月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	若林 龍太	理科	ダニエル電池の仕組み
166	2022年10月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	大掛 真実	体育理論	運動やスポーツへのたいような関わり方
167	2022年10月3日	OB等	甘日市立七尾中学校	中3	原田 優次	理科	周期表とイオン1「イオン結合」
168	2022年10月3日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	倉敷市立精思高等学校	高1	山神 大輝	数学	連立不等式

表7：令和4年度「新しい学びプロジェクト」に関する協調学習の公開研究授業等一覧 (2/5)

令和4年度活動報告書 第13集

番号	実施日	参加団体	実践を行った学校	学年	実践者	教科	内容
169	2022年10月4日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	岩井 恵・森田 翔太 山崎 淳	道徳	一志の弁当
170	2022年10月5日	OB等	奥大山江府学園	小4	黒見 真由美	国語	物語の題名の意味を考よう「一つの花」
171	2022年10月5日	OB等	奥大山江府学園	小6	高田 由佳り	国語	物語を読んで、考えたことを伝え合おう「海の命」
172	2022年10月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小4	林田 渉	社会	水害にそなえるまちづくり
173	2022年10月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小6	原 有輝	総合	防災一水害一
174	2022年10月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小3	清水 聡子	国語	サーカスのライオン
175	2022年10月7日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	住岡 美穂	数学	変化の割合
176	2022年10月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小6	岡 由美子	社会	明治の新しい国づくり
177	2022年10月8日	文化学園長野中学高等学校	文化学園長野中学高等学校	高1	栗原 賢	国語	古文の読み方
178	2022年10月11日	久喜市教育委員会	久喜市立太田小学校	小2	岩上 航	算数	新しい計算を考えよう
179	2022年10月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小3	竹田 大地	算数	重さ
180	2022年10月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小6	海老原 聖業	国語	海の命
181	2022年10月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小1	井野口 美幸	生活	「きせつとなかよし あき」
182	2022年10月12日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	原田 優次	理科	周期表とイオン②「イオン化合物の化学式」
183	2022年10月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小1	宮原 浩美	算数	たし算(2)
184	2022年10月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小1	小西 由紀恵	国語	のりものことをしらべよう いろいろなふね
185	2022年10月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋本小学校	小5	小野 鮎美	道徳	よりよく生きる「花に思いをこめて」
186	2022年10月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小1	和田 典子	国語	サラダでげんき
187	2022年10月12日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小5	木村 美佳	算数	面積
188	2022年10月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小6	後藤 邑嗣	国語	海の命
189	2022年10月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小6	小路 敏明	道徳	「安全について考えよう」
190	2022年10月13日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	石井 芳直	数学	1次方程式
191	2022年10月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内小学校	小6	石川 美美	社会	幕府の政治と人々の暮らし
192	2022年10月13日	飯塚市教育委員会	飯塚市立大分小学校	小5	下村 隆也	理科	流れる水のはたらき
193	2022年10月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小5	近藤 隼介	社会	これらの食料生産
194	2022年10月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小1	西園 美雪	生活	「きせつとなかよし あき」
195	2022年10月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小6	杉野 優人	道徳	「安全について考えよう」
196	2022年10月14日	有田川町教育委員会	有田川町立藤並小学校	小4	北山 有希	国語	こんごつね
197	2022年10月14日	有田川町教育委員会	有田川町立藤並小学校	小5	生駒 真次	社会	これらの食糧生産
198	2022年10月14日	島根県教育委員会	島根県立立上高等学校	高1	高藤 智子	国語	中原中也「一つのホテルン」
199	2022年10月15日	OB等	奥大山江府学園	小5	黒見 真由美	国語	物語のおもしろさを解説しよう「注文の多い料理店」
200	2022年10月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小6	吉田 和月	家庭	まかせてね 今の食事
201	2022年10月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若葉小学校	小1	横尾 彩加	国語	お話を読もう「サラダでげんき」
202	2022年10月18日	大阪府清風中学校・高等学校	清風中学校	中3	奈良崎 友翔	国語	「挨拶一原簿の写真にだけて」
203	2022年10月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚東小学校	小6	柴田 航	国語	海の命
204	2022年10月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小5	大庭 美佳	道徳	差別のない世界へ「モンゴメリーのバス」
205	2022年10月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小6	赤間 恵美	道徳	「安全について考えよう」
206	2022年10月19日	島根県教育委員会	島根県立出雲高等学校	高1	手島 洋子	家庭	経済的に自立する
207	2022年10月19日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中3	藤並 進	社会	裁判所と人権
208	2022年10月19日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立戸内小学校	小4	細川 隆典	算数	広さの表し方を考えよう
209	2022年10月19日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小1	水間 佳世	生活	きせつとなかよしあき
210	2022年10月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚西小学校	小2	和田 直子	算数	三角形と四角形
211	2022年10月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小2	松尾 多輝子	道徳	友だちとなかよく(B友情と信頼)
212	2022年10月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小6	小島 奈枝	道徳	「安全について考えよう」
213	2022年10月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若葉小学校	小1	吉村 めぐみ	国語	お話を読もう「サラダでげんき」
214	2022年10月20日	瀬戸(OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高2	金城 和也	生物	遺伝情報とタンパク質の合成
215	2022年10月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小6	森方 辰史	理科	大地のつくりと変化
216	2022年10月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若葉小学校	小1	高口 陽子	国語	お話を読もう「サラダでげんき」
217	2022年10月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中3	石川 亜沙美	保健	走り幅跳び
218	2022年10月23-25日	瀬戸(OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高2	高橋 知子	社会	奈良・平安・鎌倉時代の仏教の比較
219	2022年10月24日	久喜市教育委員会	久喜市立江面小学校	小2	飯塚 結基	国語	馬のおもちゃの作り方/おもちゃの作り方をせつめいしよう
220	2022年10月24日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小2	高瀬 咲季子	算数	三角形と四角形
221	2022年10月25日	浜田市教育委員会	浜田市立雲城小学校	小6	村上 哲也	理科	てこのはたらき
222	2022年10月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中2	吉水 勇気	保健	器械運動
223	2022年10月25日	瀬戸(OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高3	高橋 知子	社会	自由民権運動と文化
224	2022年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小2	岡田 健登	生活	えがおのひみつたんけんたい
225	2022年10月26日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋本小学校	小1	田代 祐子	算数	たし算(2)
226	2022年10月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小5	小出 優輔	算数	面積
227	2022年10月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立八木山小学校	特支	梶嶋 昌美	自立活動	たけのこバザーをしよう
228	2022年10月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立内野小学校	小5	出口 功	算数	面積
229	2022年10月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中3	梅本 圭子	英語	program5
230	2022年10月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋本小学校	小4	小山 珠美	社会	くらしと電気
231	2022年10月27日	延岡市教育委員会	延岡市立岡富中学校	中2	谷口 寛子	理科	血液循環の道筋と血液の状態についての説明
232	2022年10月27日 2022年11月4-10日	瀬戸(OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高2	片山 大輔	国語	古典「大鏡」
233	2022年10月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田中学校	中1	田中 陽子	音楽	魔王
234	2022年10月28日	有田川町教育委員会	有田川町立藤並小学校	小2	中 雄紀	国語	馬のおもちゃの作り方/おもちゃの作り方をせつめいしよう
235	2022年10月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋本小学校	小1	高尾 真弓	算数	たし算(2)
236	2022年10月28日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小3	大隈 美央	社会	はたらく人とわたしたちのくらし 工場ではたらく人の仕事
237	2022年11月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	住岡 美穂	数学	ブーメラン形四角形の角度
238	2022年11月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	大掛 真実	保健	自然災害による傷害の防止
239	2022年11月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	石井 芳直	数学	星形五角形
240	2022年11月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小4	川村 雄太	算数	面積
241	2022年11月1日	島根県教育委員会	島根県立立上高等学校	高1	吉村 竜成	数学	三角比(第4章1節)
242	2022年11月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内中学校	中3	山野 高志	音楽	日本の伝統音楽(浄曲)
243	2022年11月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小1	長崎 裕也	算数	かたちづくり
244	2022年11月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小2	松原 祐子	音楽	にっぽんのうたみんなのうた夕やけこやけ
245	2022年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小4	松岡 智子	算数	面積
246	2022年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小2	川上 春菜	国語	ビーバーの大作
247	2022年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋中学校	中1	坂本 千絵	家庭	1日の献立
248	2022年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若葉小学校	小4	高良 敬介	社会	地域で受けつがれてきたもの
249	2022年11月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内小学校	小5	吉野 智子	社会	自動車の生産にはげむ人々
250	2022年11月2日	津和野町教育委員会	津和野町立原中学校	中1	持田 岳	数学	方程式
251	2022年11月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鯉田小学校	小6	田中 時代	総合	鹿毛馬神龍石のひみつをさぐる
252	2022年11月4日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	原田 優次	理科	周期表とイオン③「塩酸の電気分解」

表8：令和4年度「新しい学びプロジェクト」に関する協調学習の公開研究授業等一覧(3/5)

第1章 協調学習の授業づくりプロジェクト 今年度の展開

番号	実施日	参加団体	実践を行った学校	学年	実践者	教科	内容
253	2022年11月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小4	杉元 由香	社会	地域で受けつがれてきたもの
254	2022年11月4日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳渡東小学校	中3	平尾 智美	国語	いにしへの心を受け継ぐ
255	2022年11月7日	京都市立学校新しい学びプロジェクト研究協議会	京都市立西院小学校	小2	南田 早登子	算数	はこの形
256	2022年11月7日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高3	高橋 知子	社会	二十一箇条の要求
257	2022年11月7日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立高田小学校	小2	工藤 裕介	国語	馬のおもちゃの作り方
258	2022年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中1	合原 広美	美術	ピカソ作「ゲルニカ」の鑑賞
259	2022年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋中学校	中2	鏡江 智也	理科	動物の体のつくり
260	2022年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小5	奈良迫 雄大	社会	日本の工業生産と貿易・運輸
261	2022年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立二瀬中学校	中3	崎山 高志	英語	ALTに日本の伝統文化を紹介しよう
262	2022年11月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小6	上田 祥太郎	社会	近代国家を目ざして
263	2022年11月8日	清川村立緑中学校	清川村立緑中学校	中1	南 寿実也	社会	アフリカ州
264	2022年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小2	武田 京子	国語	同じところ ちがうところ
265	2022年11月9日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中3	五島 曉人	理科	天体の動きと地球の自転・公転
266	2022年11月9日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立筒賀小学校	小6	穴田 明香・中村 可南子	算数	順序よく整理して調べよう
267	2022年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中2	江藤 雅彦	保健	飲酒と健康について
268	2022年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋本小学校	小6	鬼塚 恭平	社会	明治の新しい国づくり「解放令」
269	2022年11月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小4	武末 真輔	保健	表現
270	2022年11月9日	山口県新しい学びプロジェクト研究協議会	美祿市立厚保中学校	中2	野村 雅見	数学	一次関数の利用
271	2022年11月10日	飯塚市教育委員会	飯塚市立片島小学校	小2	水上 えり子	国語	同じところ ちがうところ
272	2022年11月10日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小6	村上 未末	道徳	手品師
273	2022年11月10日	島根県教育委員会	島根県立松江農林高等学校	高1	那須 達郎	理科	資源の再利用
274	2022年11月10日	島根県教育委員会	島根県立大田高等学校	高2	安藤 祥汰朗	社会	徳政令は認めるべきか
275	2022年11月11日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小5	山下 舞季	音楽	ききどころを見つけて ハンパリ一舞曲
276	2022年11月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中2	佐伯 知雄	国語	根拠の吟味
277	2022年11月14日	京都市立学校新しい学びプロジェクト研究協議会	京都市立西院小学校	小4	梅垣 克己	社会	市内の伝統や文化と先人の働き 昔から続く～仮園祭～
278	2022年11月14日	徳志学園クラーク記念国際高等学校	クラーク記念国際高等学校	高1	船山 久太	公民	消費者問題
279	2022年11月14日	浜田市教育委員会	浜田市立第三中学校	中3	清水 祥太・青木 智香	数学	標本調査
280	2022年11月14日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	原田 優次	理科	周期表とイオン4「塩酸に溶ける金属」
281	2022年11月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中1	桑原 光希	国語	竹取物語
282	2022年11月15日	島根県教育委員会	島根県立津和野高等学校	高2	山根 幸久	英語	Chihiroへの助言を考える
283	2022年11月15日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	岩井 恵・森田 翔太 山崎 学月	道徳	公害の街から環境の街へ
284	2022年11月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小6	山田 美樹	算数	比例と反比例
285	2022年11月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋本小学校	小2	篠原 朝代	算数	三角形と四角形
286	2022年11月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小4	井上 友紀奈	保健	「体の成長とわたし」
287	2022年11月16日	島根県教育委員会	島根県立浜田高等学校	高1	田中 伸洋	国語	生物の多様性と何らか
288	2022年11月16日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小4	梅野 一朗	国語	ごんぎつね
289	2022年11月16日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高2	高橋 知子	社会	室町時代の一振と徳政令
290	2022年11月17日	飯塚市教育委員会	飯塚市立八木山小学校	小4	黒木 裕千	算数	面積
291	2022年11月17日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小4	太田 千絵	保健	「体の成長とわたし」
292	2022年11月17日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小4	吉岡 真理子	理科	物のあたま方
293	2022年11月17日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小5	篠原 史	社会	日本の工業生産と貿易・運輸
294	2022年11月17日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内小学校	小1	永水 知子	生活	きせつとなかよしあき
295	2022年11月17日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	小野 綾音	音楽	ブルタバ (モルダウ)
296	2022年11月17日	飯塚市教育委員会	飯塚市立内野小学校	小6	上野 奈美	社会	明治の新しい国づくり
297	2022年11月17日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋本小学校	小2	麻生 順子	算数	三角形と四角形
298	2022年11月17日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小2	大場 輝美	国語	同じところ ちがうところ
299	2022年11月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小4	辻 容子	保健	「体の成長とわたし」
300	2022年11月18日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	特支	山上 真弓	その他	コミュニケーション
301	2022年11月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鮫田小学校	小3	堤 早雪	国語	「モチモチの木」
302	2022年11月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内小学校	小3	新田 将士	保健	けんこうな生活
303	2022年11月21日	飯塚市教育委員会	飯塚市立大分小学校	小2	伊藤 千津子	算数	かけ算 (2)
304	2022年11月21日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	赤磐市立高陽中学校	中1	平井 克典	理科	光の世界
305	2022年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鮫田小学校	小3	岡松 浩平	社会	大事からまちを守る
306	2022年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小6	西園 雅典	道徳	手品師
307	2022年11月22日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中1	植田 佳子	音楽	魔王
308	2022年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋本小学校	小2	知久 照太郎	算数	三角形と四角形
309	2022年11月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小2	松下 美香	算数	三角形と四角形
310	2022年11月24日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小4	森方 結	理科	物のあたま方
311	2022年11月24日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計小学校	小6	三角 寿美	社会	江戸の社会と文化・学問
312	2022年11月24日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立戸内小学校	小2	佐々木 かおり	道徳	だれにたいしても
313	2022年11月24日	飯塚市教育委員会	飯塚市立徳渡東小学校	小6	石田 昇一	理科	月の形と太陽
314	2022年11月24日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小3	小椋 智弘	理科	音を出して調べよう
315	2022年11月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田小学校	特支	森谷 昌城	国語	ビーバーの大作
316	2022年11月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小3	久保 瑞奈	算数	一万を超える数
317	2022年11月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内小学校	小2	松岡 志徳	算数	三角形と四角形
318	2022年11月25日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	原田 優次	理科	周期表とイオン5「ボルトの電池」
319	2022年11月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	特支	近藤 清香	その他	未定
320	2022年11月27日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋本小学校	小3	渡邊 さくら	算数	式と計算
321	2022年11月28日	久喜市教育委員会	久喜市立江面小学校	小4	松澤 早弥香	道徳	気持ちの通い合い「温かい言葉」
322	2022年11月29日	九重町教育委員会	九重町立東飯田小学校	小2	櫻田 美穂子	国語	ないた赤おに
323	2022年11月29日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	小5	山下 舞季	音楽	曲想を味わおう「威風堂々」
324	2022年11月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小3	中谷 敬子	算数	一万を超える数
325	2022年11月30日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内小学校	小4	芝山 拓郎	理科	とじこめた水と空気
326	2022年11月30日	浜田市教育委員会	浜田市立三瀬中学校	中3	野村 昇平	理科	地球と宇宙
327	2022年11月30日	OB等	甘日市市立七尾中学校	中3	原田 優次・森田 翔太 山崎 学月	道徳	どんな勇氣なら
328	2022年11月30日	OB等	奥大山江府学園	小4	黒見 真由美	国語	読んで考えたことを伝え合おう「ごんぎつね」
329	2022年11月30日	島根県教育委員会	島根県立出雲高等学校	高1	森脇 健二	数学	11の倍数の判定法の仕組み
330	2022年12月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鮫田小学校	小2	中野 洗二郎	生活	「北風がはこんでくるところはなあに」
331	2022年12月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鮫田小学校	小6	有本 智子	理科	水溶液の性質とはたらき
332	2022年12月1日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小2	岡田 聖孝	算数	三角形と四角形
333	2022年12月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立安芸太田中学校	中1	丸山 智	数学	「平面図形」(いろいろな作図)
334	2022年12月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	若林 龍太	理科	酸化と還元
335	2022年12月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	若林 龍太	理科	ヒートポンプの仕組み
336	2022年12月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	和田 伴	家庭科	郷土料理

表9：令和4年度「新しい学びプロジェクト」に係る協調学習の公開研究授業等一覧 (4/5)

令和4年度活動報告書 第13集

番号	実施日	参加団体	実践を行った学校	学年	実践者	教科	内容
337	2022年12月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	石井 芳直	数学	いろいろな作図
338	2022年12月1日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	和気町立佐伯中学校	中2	網田 昌代	国語	現代文「一つのメルヘン」
339	2022年12月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中3	芝田 博志	数学	図形と相似
340	2022年12月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立立岩小学校	特支	河内 圭一	その他	コミュニケーション
341	2022年12月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	特支	佐藤 新	その他	「クリスマス会の準備をしよう」
342	2022年12月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	特支	末松 恵美	その他	「クリスマス会の準備をしよう」
343	2022年12月5日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第二中学校	中3	吉富 英夫	理科	私たちの暮らしと経済
344	2022年12月5日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	水川 航生	英語	日本で買うべきおすすめのお土産紹介
345	2022年12月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小2	山本 さよみ	図工	「ざいりょうからひらめき」
346	2022年12月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	特支	瀧上 和夫	その他	「クリスマス会の準備をしよう」
347	2022年12月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立若菜小学校	小2	宮原 安彦	算数	三角形と四角形
348	2022年12月6日	延岡市教育委員会	延岡市立東小学校	小3	東坂 将秀	理科	電気を通すものと通さないものについて理解を深める
349	2022年12月6日	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中1	村井 賢子	国語	自分の意見をもとう
350	2022年12月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立伊岐須小学校	小2	福澤 華那	図工	「ざいりょうからひらめき」
351	2022年12月7日	安芸太田町立戸内小学校	安芸太田町立戸内小学校	小1	西村 美雪	国語	たぬきの卒業
352	2022年12月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立筑穂中学校	中1	有本 誠汰	数学	平面図形
353	2022年12月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立椋本小学校	小6	栗山 淳	家庭	まかせてね。今日の食事
354	2022年12月8日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立小中一貫校戴冠学園	中3	河野 友博	社会	財政と国民の福祉
355	2022年12月8日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立小中一貫校戴冠学園	中1	永松 恭	保健	健康な生活と疾病の予防
356	2022年12月8日	豊後高田市教育委員会	豊後高田市立小中一貫校戴冠学園	小3	斉藤 路世	道徳	きまりのない国
357	2022年12月8日	飯塚市教育委員会	飯塚市立鮎田小学校	小4	北内 志麻	理科	ものあたたまり方
358	2022年12月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小3	松浦 亜紀	保健	けんこうな生活
359	2022年12月9日	有田川町教育委員会	有田川町立金屋中学校	中1	堀内 誠也	社会	古代から中世へ 武士の登場
360	2022年12月9日	有田川町教育委員会	有田川町立金屋中学校	中3	上道 賢太	数学	円周角と中心角
361	2022年12月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立高田小学校	小3	福江 真吾	理科	明かりをつけよう
362	2022年12月12日	OB等	甘日市立七尾中学校	中3	原田 優次	理科	周期表とイオン6「ダニエル電池」
363	2022年12月13日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	住岡 美穂	総合	自己の将来の生き方を考えよう
364	2022年12月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚東小学校	小4	古賀 太祐	理科	ものあたたまりかた
365	2022年12月14日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小3	白土 千晶	保健	けんこうな生活
366	2022年12月15日	飯塚市教育委員会	飯塚市立高田小学校	小1	吉村 夕生那	生活	かぞくにここにこいだいさくせん
367	2022年12月16日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	大掛 真実	道徳	みんなととんだ!
368	2022年12月20日	島根県教育委員会	島根県立大田高等学校	高1	中島 優希	国語	紀貫之「土佐日記」
369	2022年12月20日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	山際 紗月	国語	君は「最後の晩餐」を知っているか
370	2022年12月20日	延岡市教育委員会	土々呂中学校	中3	後藤 悠介	理科	金星の動きや見え方について理解を深める
371	2022年12月20日	大阪府清風中学校・高等学校	清風高等学校	高1	山中 葉樹	歴史	国民国家と明治維新(学校の始まりと「国民」)
372	2022年12月20日	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中1	斎藤 亜希奈	数学	5章 平面図形
373	2022年12月21日	島根県教育委員会	島根県立情報科学高等学校	高3	若槻 翔平	商業	販売価格
374	2022年12月22日	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	住岡 美穂	数学	円の接線
375	2022年12月26日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高2	高橋 知子	社会	織田信長の政策
376	2023年1月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	山際 紗月	国語	少年の日の思い出
377	2023年1月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	水川 航生	英語	ジグソーパズル(教材未定)
378	2023年1月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中3	大掛 真実	体育	人々を結びつけるスポーツの文化的な働き
379	2023年1月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	和田 伴	家庭科	持続可能な食生活
380	2023年1月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	和田 伴	家庭科	お弁当作り
381	2023年1月10日	OB等	甘日市立七尾中学校	中3	原田 優次	理科	地球と宇宙
382	2023年1月11日	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高1	佐伯 友紀子	国語	「論語」学ぶということについて
383	2023年1月12日	OB等	甘日市立七尾中学校	中3	岩井 恵・森田 翔太 山崎 学月	道徳	ふさわしきライバル
384	2023年1月19日	OB等	甘日市立七尾中学校	中3	岩井 恵・森田 翔太 山崎 学月	道徳	don't cry anymore
385	2023年1月20日	京都市立学校新しい学びプロジェクト研究協議会	京都市立西院小学校	小3	猪股 俊治	社会	事故や事件をふせぐ
386	2023年1月20日	京都市立学校新しい学びプロジェクト研究協議会	京都市立西院小学校	小5	広橋 幸太郎	国語	固有種が教えてくれること
387	2023年1月23日	久喜市教育委員会	久喜市立江面小学校	小5	園田 萌	社会	情報を生かす産業
388	2023年1月24日	飯塚市教育委員会	飯塚市立八木山小学校	未定	山田 健太郎	その他	防災について考えよう(全校)
389	2023年1月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小5	池田 綾葉	算数	表を使って考えよう(2)
390	2023年1月25日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚第一中学校	中2	浦田 将輝	数学	図形の性質と証明
391	2023年1月27日	京都市立学校新しい学びプロジェクト研究協議会	京都市立西院小学校	小1	藤井 翔子	図工	すずめコロリンだいいさくせん
392	2022年1月上旬	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中2	大田 和美	社会	未定
393	2023年1月中旬	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中2	城丸 響	理科	単元3 電流とその利用
394	2023年1月下旬	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中3	安永 宗孝	社会	第3章 だれを市長に選ぶ?
395	2023年1月下旬	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中3	田中 恵吾	保健	健康と環境
396	2023年1月下旬	有田川町教育委員会	有田川町立藤並小学校	小6	東 恭平	社会	明治時代に活躍した日本人
397	2022年1月下旬	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田中学校	中2	井上 穂菜	家庭	消費生活
398	2022年1月下旬	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田小学校	小3	中国 佳代子	保健	けんこうな生活
399	2022年1月下旬	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田小学校	小3	光井 礼二	保健	けんこうな生活
400	2022年1月下旬	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田小学校	特支	金城 絵美子	その他	お店屋さんごっこをしよう
401	2023年2月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中1	水川 航生	英語	To be a better performer より良く相手に伝えるために
402	2023年2月	安芸太田町教育委員会	安芸太田町立加計中学校	中2	和田 伴	家庭科	持続可能な食生活②
403	2023年2月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立藤田小学校	小5	田中 洋子	保健	表現運動
404	2023年2月2日	飯塚市教育委員会	飯塚市立飯塚小学校	小4	榎 聡広	算数	変わり方
405	2023年2月7日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋小学校	小3	大庭 拓也	国語	人をつつむ形 世界の家めぐり
406	2023年2月9日	飯塚市教育委員会	飯塚市立八木山小学校	小5	岩佐 尚史	算数	速さ
407	2023年2月10日	飯塚市教育委員会	飯塚市立幸袋中学校	中2	奥田 蓮太	社会	江戸幕府の成立
408	2023年2月22日	飯塚市教育委員会	飯塚市立庄内中学校	中2	長 裕介	数学	箱ひげ図
409	2022年2月上旬	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田小学校	小4	語見里 明美	理科	自然の中の水の姿
410	2022年2月上旬	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田小学校	小5	岳野 有紗	社会	自動車の生産にはげむ人々
411	2022年2月下旬	飯塚市教育委員会	飯塚市立額田小学校	特支	北村 嘉乃子	その他	1年間の頑張ったねをしよう
412	2023年2月実施予定	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	赤磐市立高陽中学校	中1	乙部 憲彦	理科	ゆれる大地(地震)
413	2023年2月実施予定	瀬戸 (OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	岡山県立瀬戸高等学校	高1	乙部 憲彦	理科	気象災害を考える
414	2023年3学期	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小1	伊藤 あや	国語	いろいろなふね
415	2023年3学期	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小1	宮本 信吾	算数	かたちづくり
416	2023年3学期	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小3	早瀬 博美	算数	重さ
417	2023年3学期	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小3	大和 怜生	算数	円と球
418	2023年3学期	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小4	三浦 由梨	理科	自然の中の水のすがた
419	2023年3学期	飯塚市教育委員会	飯塚市立上穂波小学校	小6	平田 文世	社会	明治の新しい国づくり
420	不明	九重町教育委員会	九重町立南山田小学校	小6	岡部 大志	社会	今に伝わる室町の文化と人々の暮らし

表10：令和4年度「新しい学びプロジェクト」に係る協同学習の公開研究授業等一覧(5/5)

(3) 今年度の成果と課題

①開発教材

本報告書巻末のDVDには、今年度の本事業での実践例のうちデータの揃っているもの86例含む、これまでの小中高での実践例3,023例について、授業案、教材、実践者の振り返りを収録している。

②授業デザイン原則

また、「新しい学びプロジェクト」教科部会では、毎年、今年度の実践における子ども達の学びのエピソードから見えてきた次の実践に向けての授業デザインの仮説（＝「授業デザイン原則」）を整理している。

教科を超えて見られる授業デザイン原則の例としては、「特に小学生の場合、『書くこと』の負荷が高いため、『書く』『話す』場面の明確な指示が必要」といったものや「子どもの学びの想定を具体的に行ったうえで、資料を焦点化したり、指示を具体的にしたり、説明に使ってほしいキーワードを示したりする」といったもののようにその場面で期待する学びの姿を明確にしたうえで、それを子ども達に明確に伝えるための工夫が目立った。

以下に各教科がまとめた授業デザイン原則のうち、教科の特性がよく表れているものを一つずつ選び、掲載する（英語部会は昨年度作成のもの）。

具体的な学びのエピソード【生徒編】

国語部会③

①資料の文章を読まなくてはならないのに、課題にとらわれすぎて話もりあがり、本文の根拠にすべきところに戻らないことがある。

②オープンエンドの課題の時に、生徒たちは「正解」に寄せていきたり、途中で出ていた面白い観点が消えてしまう。（表現しきれない(◎)・これでもいいのかな?という不安)

③思いを文字に表現できない子どもの姿を見とれる何かがあれば…特に小学校。思いも強く、話し合いもよくできているのに、最後に文章にならないから「嫌」に繋がる。

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則

- ①どこから言えるのかを明確にさせる。（指示・ワークシート）
- ①慣れるまでは特に、本文に戻る指示をして習慣づける。
- ②途中経過をスケールに書き込むようなシート。付け足しもできるとよい。
- ②自分の言葉で表現させる。／繰り返しの中で少しずつ力をつけさせる。
- ②～③書き言葉にできない生徒は、聞き取り支援をする。
- ③発表・成果物はきちんと評価する
→自分が考えたことを発表したという実感＋成果評価＝達成感
- ③「書かせるゴール」設定にこだわらず、「ほかの人の意見を聞く」など、目的別に緩いゴール設定もあっていい。
- ③ゴールは、学年や日によって、変化をつける。

図3：令和4年度国語部会で作成した授業デザイン原則の例

国語部会では、国語の授業の中でよく見かけられる子どもの姿を基に、一つの授業のデザインや支援にとどまらない中長期的なスパンでの学び方の形成を意図したデザインや支援についてもまとめている（図3）。

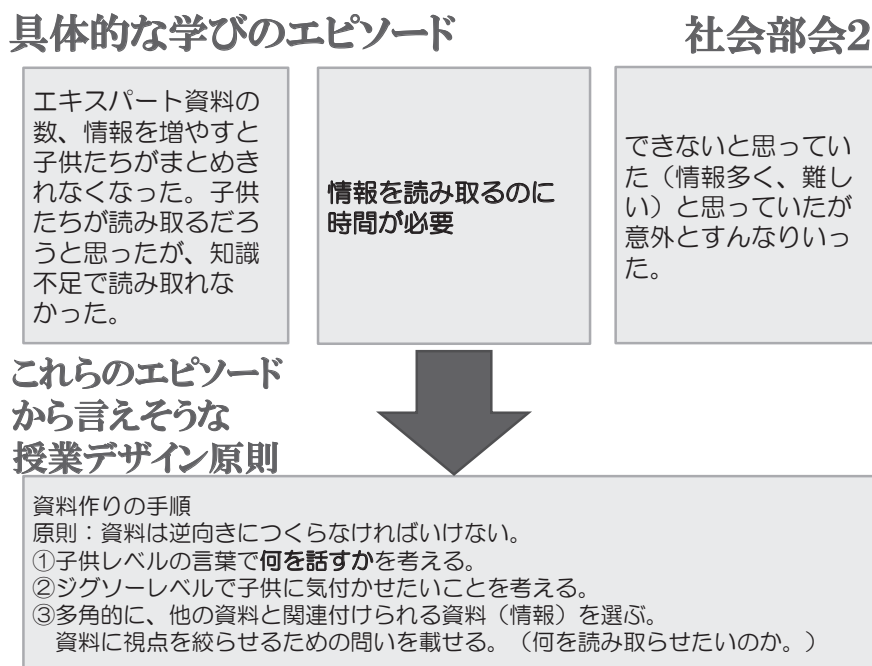


図4：令和4年度社会科部会で作成した授業デザイン原則の例

社会科部会では、エキスパート活動での子ども達の実態を基に、エキスパート資料作成の際に教師に必要な思考の流れについて整理している（図4）。

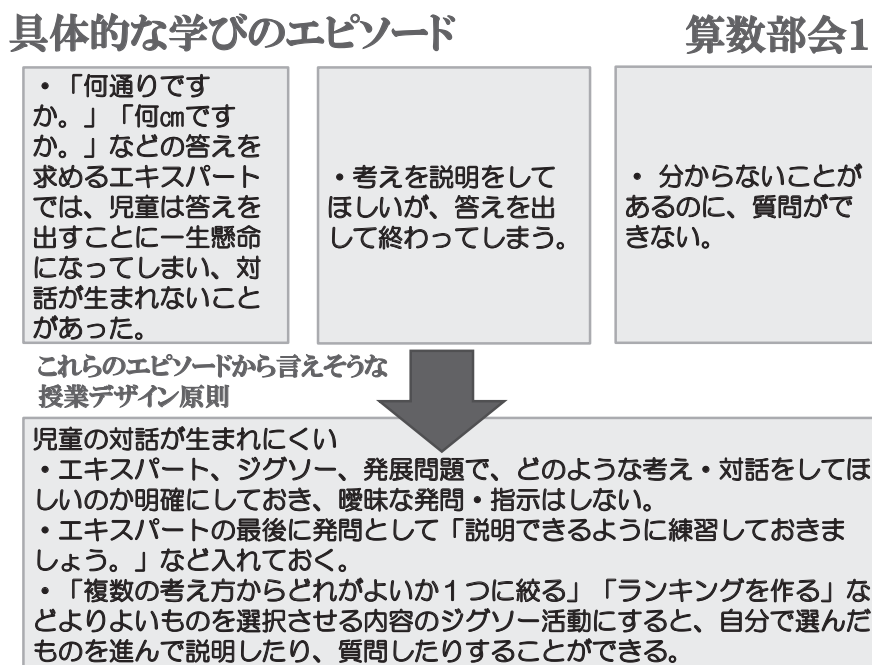


図5：令和4年度算数部会で作成した授業デザイン原則の例

算数部会では、子ども達の対話が生まれにくい状況を挙げ、そうした状況を作り出さないようにするためのデザインや支援の工夫についてまとめている（図5）。

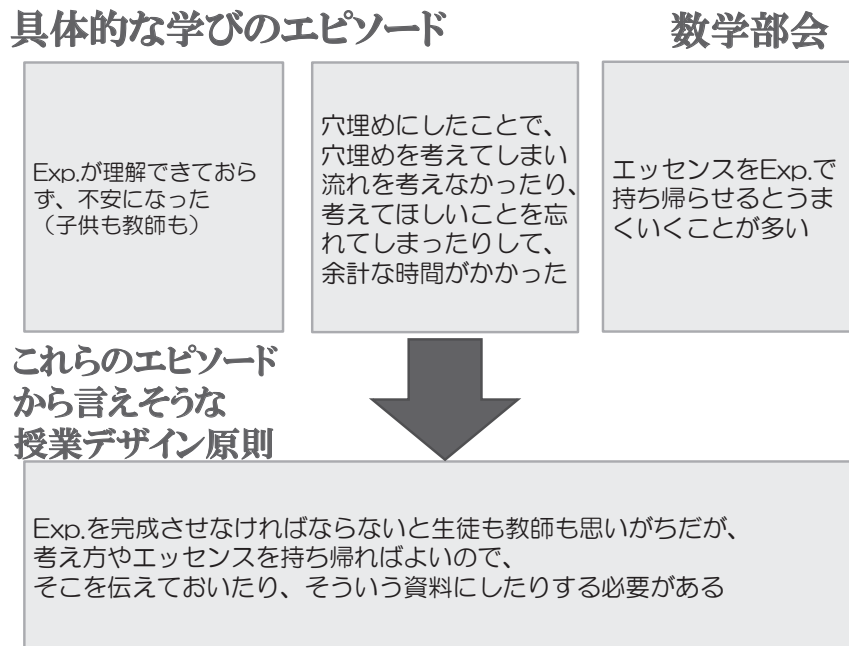


図6：令和4年度数学科部会で作成した授業デザイン原則の例

数学科部会では、エキスパート活動からジグソー活動へのつながりの部分での成功、失敗のエピソードから、知識構成型ジグソー法の授業をデザインする上でのエキスパート活動の位置づけとそれに即した活動の持ち方ポイントについて整理している（図6）。

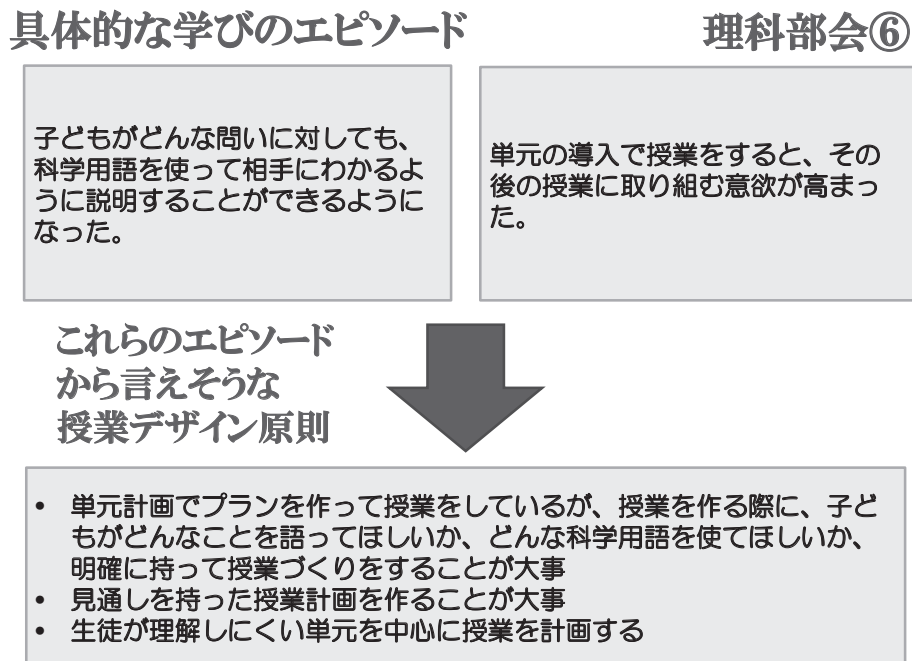


図7：令和4年度理科部会で作成した授業デザイン原則の例

理科部会では、中長期的なスパンでの子どもの変容を基に、単元スパンあるいはより長いスパンでどのように授業を計画していけばよいかについて整理している（図7）。

具体的な学びのエピソード

英語部会

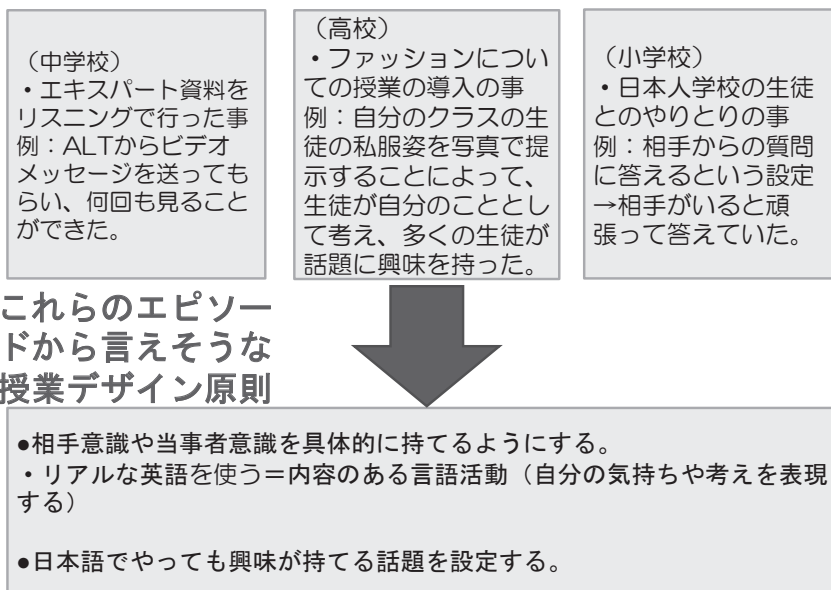


図8：令和3年度英語部会で作成した授業デザイン原則の例

英語部会では、英語で言語活動を行う必然性を子どもが感じてくれた学びの場面に着目しながら、そのためのデザインの原則として「相手意識や当事者意識を具体的に持てるようにする」ことや「日本語でやっても興味もてる話題」の設定を挙げている（図8）。

どの部会の原則も、各教科において協調学習を通じて実現したい学びとはどのようなのかという教師のねらいと、それに即して見えてくる想定外の子どもの学びの姿についての気づきを基に、次のデザインに活かせるような仮説を整理したものとなっている。

③授業づくりのポイント

前項の授業デザイン原則も踏まえて、「教科で知識構成型ジグソー法を活用するときの授業づくりのポイントや使いどころ」について各教科でまとめたものを示す。

a) 国語部会

○ 分かりやすい文章を書くための授業づくり

【説明文】 メインの課題で、間違ったモデル文を提示し、それを書きかえるために、エキスパートで書き方の要素を学び、ジグソー活動で取り組む。

【物語】 感想文の書き方など → 児童どうして文章の書き方を共有できる。

○ 課題の設定

- ・ 教師の意図と児童の思いが繋げる → 教師のねらいを児童と共有できる
- ・ 課題の中に、相手意識や目的意識を持たせるような設定をすることが大切

○ 物語文の場合、登場人物の気持ち、場面全体のこと、様子や言葉に注目できる3つの資料をエキスパートにする。

○ 考えさせたい視点や観点が分かりやすいエキスパート資料にする。

- エキスパート資料同士がつながるようなものにと対話が生まれやすい。
- 「オープンエンド」での話し合いも大切！
 - ・試験で測る知識と、オープンエンドのゴールの自由さを使い分ける。
 - ・「正解を出す」のではなく、「 $+a$ を感じさせる・想像する」ような課題設定は、アクティブラーニング向き。
 - 例)「小説」のラストの解釈
 - ・『こころ』何にも知らないお嬢さん…実際はどうだったんだろう？
 - 例) 詩、短歌、俳句の解釈などにも使えそう。

b) 社会科部会

(授業づくりのポイント)

- 課題を考える際に、単元の中でいかに自分事として考えさせられるか。
- 期待する児童・生徒の回答の要素をより具体的に想定しておくことが必要。そこに迫るために、何を話し合わせるのか、そのためにどんな資料が必要か。
- 資料の内容の羅列・並記ではなく、組み合わせないと解決できないような課題の設定(使いどころ)
- 単元の中で、導入または終末で使うことが多い。
- 導入で使う場合は、単元の内容を広く知ることができる。終末で使う場合は、一連の学習を終えた状態から発展的な課題にステップアップできる。
- どこで使うかを単元計画の際にしっかりと組み込む。

c) 算数部会

- 児童が不必要なところで迷わないために、課題の答えにたどり着くための既習事項は、ワークシートの中に図や表や式などで示しておく。(漢字が苦手な児童がいれば、読み仮名をふっておくことも必要)
- 問題場面や資料を理解させるために、絵や図・具体物を準備する。(知識構成型ジグソー法において問題場面や資料が理解できていないと致命的なので)
- 児童に何を身に着けてほしいのかを明確にしておき、それを達成するための授業デザインにする。
- 例) 4年生のL字型の面積。
 - ・面積の求め方を身につけさせたい。→面積の求め方をスモールステップで学べるようなエキスパートの構成。
 - ・面積を求めるために、どの方法を使えばよいか判断する力を身につけさせたい。
 - 面積の求め方は知る程度にとどめ、ジグソー問題を複数出題し、どの方法が使

い やすいか対話をもとに考えさせる。

d) 数学部会

- 「考えたことがないこと」を考えさせる授業
 - ・証明するとはどういうことか
 - ・本質をつかませる
 - ・単元が狙っていること
 - ・過去に（意図せず）躓いた内容をエッセンスに取り入れる
- そのために、授業の前後や、単元での狙いを考える（単発で考えない）

e) 理科部会

- 理科的な見方・考え方の育成
 - ・「なぜそうなるのか」をしっかり納得させ、生きてはたらく知識・技能を身に付けさせる
 - ・多面的な考え方を養う
- 共通課題（簡単すぎず難しすぎない課題）
 - ・子どもたちの実態をしっかりと把握し、適切な課題を設定する。
- 単元の導入での活用
 - ・対話を通して探究課題を設定する
 - ・学習活動の見通しをもたせる
- 単元の終末
 - ・知識の定着&発展的な問題へのチャレンジ
 - ・獲得した知識を活用して新たな課題を解決する（日常生活と科学とのつながり）

f) 英語部会

- 単元の章末、読み物の総復習として自分の考えを表現するときを使う。
- 「自分だったらこうします」などの提案をするなどの表現活動のときに使う。
- 自分たちが読んだ内容の復習として自分たち独自の結論を生み出し、その後教科書の結論と比較するために使う。
- 「思考・判断・表現」の観点の見取りとして使う。
- Pre-writing と Post-writing で対話を通しての生徒の思考の変化を見るために使う。
- 制限つき自由英作文の視点を広げるために使う。
- Retelling、writing、reading、listening の総まとめとして使う。

④取組の状況

今年度の取組状況について令和5年1月に研究推進員等の先生方を対象にアンケートを行った（n=113）。表10は、今年度「知識構成型ジグソー法」をどんな場面で、どんな教材を使ってどの程度実践したかの平均値を示している。カッコ内は前年度（n=160）の同じ項目の数字である。「研究授業以外で実施」の数及び割合が増加し、過去の教材を利用した実践の数及び割合が増加していることが分かる。

	今年度新規教材として開発	過去の教材をアレンジして活用	過去の教材をそのまま利用	計
研究授業で実施	0.5 (0.5)	0.4 (0.3)	0.1 (0.0)	0.9 (0.8)
研究授業以外で実施	0.8 (0.5)	0.8 (0.6)	0.7 (0.4)	2.2 (1.6)
今後実践を行う予定	0.3 (0.3)	0.3 (0.3)	0.2 (0.1)	0.8 (0.7)
計	1.6 (1.3)	1.4 (1.2)	0.9 (0.6)	3.9 (3.1)

表11：今年度の「知識構成型ジグソー法」の平均実践教材数（n=113）

このアンケートでは、「知識構成型ジグソー法」か否かに関わらず子どもが主体的、対話的に学ぶ場面を取り入れた授業をどのくらいの頻度で実施しているかについても尋ねている。表11に示す通り、昨年度から比べて大幅に向上しているだけでなく、コロナ禍前の令和元年度と比べても向上していることが分かる。全体として、本プロジェクトに参加する先生方において「知識構成型ジグソー法」に限らず幅広く子どもが主体的、対話的に学ぶ場面を取り入れた授業が常識化しつつある状況が見て取れる。

	R4年度（n=127）	R3年度（n=161）	R元年度（n=117）
ほぼ毎時間	20.5%	9.4%	9.4%
半分以上	34.6%	30.3%	35.0%
月に数回程度	25.2%	30.3%	29.9%
学期に数回程度	16.5%	23.8%	24.8%
それ以外	3.1%	7.5%	0.9%

表12：子どもが主体的、対話的に学ぶ場面を取り入れた授業の実施頻度

⑤授業づくりに関する考え方

またこのアンケートでは、「知識構成型ジグソー法」を用いて研究授業を行う際に、特に意識しているポイントを表12の17項目から最大5項目選択する形で回答してもらった。

表13では、今年度と昨年度の全体の回答割合の比較、今年度の「知識構成型ジグソー法」

項目	R4 全体 (n=113)	R3 全体 (n=160)	R4 KCJ 高頻度 (n=48)	R4 KCJ 低頻度 (n=63)
教科のねらいやつけたい資質・能力を意識して課題を設定する	53.1	57.5	56.3	50.8
具体的な児童生徒の解答を想定しながら教材を見直す	50.4	48.8	58.3	46.0
児童生徒の実態に即して課題や資料等の難易度を調整する	39.8	41.3	45.8	34.9
児童生徒の興味関心を喚起するような内容を扱う	38.1	48.1	31.3	44.4
児童生徒が課題や活動の流れをきちんと把握できるようにする	28.3	14.4	18.8	36.5
3つのエキスパートに分けやすい内容を見つける	27.4	31.9	29.2	25.4
他の先生方の意見や視点を取り入れながら授業づくりを行う	27.4	26.3	29.2	25.4
ICTを効果的に活用する	25.7	29.4	27.1	25.4
指導方法を工夫する(例:ジグソー法のアレンジや他の指導法との融合など)	24.8	20.6	27.1	23.8
なるべく普段遣いできるような授業の進め方を提案する	23.9	29.4	29.2	19.0
児童生徒が話しやすいグルーピングを心がける	23.9	20.6	22.9	25.4
本時と前後の学習との効果的なつながりを意識する	23.0	15.0	16.7	28.6
過去の授業研究での気づきや仮説を生かして授業づくりを行う	19.5	20.0	20.8	19.0
これまであまり実践例がない内容や分野に取り組む	14.2	8.8	14.6	11.1
決まった答えがなくどんな解答がでてきてもよいような課題を設定する	13.3	9.4	14.6	12.7
児童生徒の学習を見とるための評価の規準を具体的に設定する	12.4	11.3	10.4	14.3
設定した授業時間内に一連の学習活動が収まるように内容や時間を調整する	9.7	14.4	10.4	9.5

表13:「知識構成型ジグソー法」を用いて研究授業を行う際に特に意識しているポイント(%)

授業の実施頻度(以下、「KCJ頻度」)。3教材以上を「高頻度」(n=47)、未満を「低頻度」(n=113)と分類)別の回答割合の比較を示している。項目は今年度回答割合が高かった順に並べている。また、それぞれ比較対象と比べて10%以上回答割合が高い項目の回答率には色を付けた。

今年度と昨年度を比べて最も回答割合が上がったのは「児童生徒が課題や活動の流れをきちんと把握できるようにする」である。特にKCJ低頻度群で回答割合が高いが、高頻度群の回答割合も昨年度の全体平均より高い。後述するように子どもの学びの事実に着目した授業研究が広がってきたことで、思った以上に授業者が伝えたつもりの課題や活動と子どもが受け取っている課題や活動がずれることがあるという実態が多くの先生方に実感として把握されてきた結果ではないかと考えられる。

逆に今年度と昨年度を比べて最も回答割合が下がったのは、全体4位の「児童生徒の興味関心を喚起するような内容を扱う」である。またこの項目は、KCJ低頻度群と比べてKCJ高頻度群の先生方が選ぶ傾向が特に低い項目でもあった。「児童生徒が課題や活動の流れをきちんと把握できるようにする」の回答割合が大きく上がったこととあわせて考えると、授業者が「この内容なら子ども達は興味を持ってくれるはず」と考えて題材等を選ぶことも大事だが、それと同じくらい、きちんとその内容や課題が子ども達自身に引き受けられ、子ども自身の課題になるかも大事だ、という解釈ができるだろうか。だとすると、子どもの認知過程に寄り添った授業づくりの目線が先生方に育ってきている証拠な

のかもしれない。

KCJ 低頻度群と比べて KCJ 高頻度群の先生方が選ぶ傾向が強かったのが「具体的な児童生徒の解答を想定しながら教材を見直す」、「児童生徒の実態に即して課題や資料等の難易度を調整する」である。これらは全体としても上位であり、全体で半数以上の先生方が選んでいる「教科のねらいやつけたい資質・能力を意識して課題を設定する」とあわせて、「知識構成型ジグソー法」を用いた授業づくりを重ねてきた先生方が最も大事にしているポイントだと言えそうである。

⑥授業研究スタイルの広まりと課題

アンケートでは、あわせて「新しい学びプロジェクト」で近年力を入れている授業研究の取組、子どもの学びのシミュレーションによる事前検討及び仮説検証型の授業研究（内容については、それぞれ第2部第3章第3節及び第4章第1節を参照のこと）の活用状況及びその手ごたえや課題について聞いた。活用状況は表14のとおりである。カッコ内は前年度（n=160）の同じ項目の数字である。

項目4と5を合わせると、「子どもの学びのシミュレーション」による事前検討については、64.6%（昨年度+5.8%）、「仮説検証型授業研究」による研究協議については、71.6%（昨年度+8.3%）が自校で行ったことがあるという結果となっている。また、自分が進行役になって行ったことがあるという回答も増えている。研修等で体験する段階から、実際に学校で活用していく段階に移行しているといえるだろう。

授業研究の手法（%）	「子どもの学びのシミュレーション」による事前検討	「仮説検証型授業研究」による研究協議
1. 聞いたことがない	8.0 (14.4)	4.4 (9.7)
2. 聞いたことはあるが経験したことはない	8.8 (10.5)	8.0 (9.0)
3. 研修等で経験したことはあるが自校で行ったことはない	15.9 (16.3)	14.2 (18.1)
4. 自校で行ったことがある	40.7 (40.5)	45.1 (45.2)
5. 自分が進行役になって自校等で行ったことがある	23.9 (18.3)	26.5 (18.1)

表14：授業研究の手法の活用状況（n=113）

組織的にこうした授業研究に取り組んでくださっている学校の先生方からは、「事前に授業者がどのように授業を考え、進めていこうかということが参観者にわかりやすい。授業についてより深く理解したうえで授業を参観できる。授業者としては研究授業について理解を深めたうえで参観してもらえると。授業者が全体の思考をとらえにくいので、参観し

てもらった方々に子どもたちの細かい思考を見取ってもらえるので、授業者が、「子どもたちの思考がどのように変わっていったのかを理解しやすい。」などの声をいただいている。

その一方で課題だと感じることを伺うとやはり多いのは時間の確保である。こうした課題について例えば、広島県安芸太田町立安芸太田中学校では、「子どもの学びのシミュレーション」による授業検討を行う際、先生方が集まって行うのは授業体験だけにして、体験を通じて感じた子ども目線の気づきを校内の共有フォルダ上の「模擬授業の気づきシート」（図9：学校が独自に作成したシート）にみんなで書き込んでいく形式にすることで時間短縮を図っているということである。この形式だと、授業者が先生方からの意見を落ち着いて咀嚼して取捨選択できるメリットもあるという。

模擬授業の気づきシート			
体験したエキスパートの種類	エキスパートで生徒がつまづきそうな所	ジグソー活動で生徒がつまづきそうな所	改善案（グループで出たものもまとめて）
	理科の苦手な生徒にとっては、どの資料も情報量がやや多いかと思いました。ただ、課題を解決するにはある程度の情報も必要ですね。原子モデルをいじる操作で少し手間取りました。	酸化マグネシウムの状態をモデル化する際に、分子をつくる物質が分子をつくらぬ物質かという既習事項が意識できているとよいですね。本時では正しいモデル図の共有は全体でのですか？各グループモデルの比較や検討ができるとう面白いですね。	・モデルの操作性の改善。
C	原子記号？の名前を覚えていないと少し想像しにくいかもしれないと思いました。	原子のパーツをコピーしてから動かす作業は少しやりにくいと感じました。	
B	「酸素」と「酸素原子」が分けて書いてあるのですが違いが分からないので混乱するかも...	原子と分子については触れてなかったのですが、最終的に説明の語彙として出てきているので	個人思考で問いが何か途中で分からなかったときに確認できる箇所があった方が良いと思いました。
A	原子モデルを移動させるときに、文字だけ移動させる枠とモデル全体を移動させる枠があるので、移動させるのが難しい。いっそのこと画像として保存し、画像を張り付けておくとよいのかも。	既習事項なのだと思いますが、資料Cの酸素と反応しやすい順はすべて記号であらわされているので、どれがどの原子かわからない生徒が出るのではないかと思います。あと、原子と分子のちがいが分かりませんでした。さらに、モデルで表すときに、Cはバラバラに離しておくのか、くっつけて表現したほうがいいのか資料からは分かりませんでした。	「反応後」のびんの中に、初めから使用する原子を置いておく？（必要な数がどれくらいかを考えるステップがひとつ減りますが、作業時間の短縮を狙った方がよいのかも） 酸化マグネシウムが「Mg」+「O」なのか、「O」+「Mg」+「O」なのか分からない生徒が出るかも…。「二」酸化炭素と酸化マグネシウムという言葉のちがいが、使う酸素原子の数のちがいにしんごうグループの生徒たちが気付けるとよいのですが、何かヒントがあってもいいのかも？

図9：模擬授業の気づきシート（安芸太田町立安芸太田中学校作成）

他にも「仮説検証型授業研究」の事前協議にあたる部分は、別の日に指導案や教材を見ながら個人で課題を解いて考える形で代替したり、授業者の説明ビデオを作って事前に視聴しておいてもらう工夫をしている学校もある。

もう一つ何名かの先生方（特に小学校）から挙がっていた気になる課題は、「子どもの学びのシミュレーション」による授業検討を行う際、いろんな先生からいろんな意見が出てきて授業者が混乱してしまうというものである。中高等学校の場合、模擬授業を体験する（他教科の）先生方と子どもの目線は自然と近いものになり、また他教科の先生方も素直に分からない人の立場から意見を言ってくれるので授業者も参考にしやすい。それと比べて小学校の場合、大きく二つの点で注意が必要だろう。

一つは、授業者が事前にねらいをしっかりと持ったうえでシミュレーションに臨むこと、他の参加者は授業者のねらいを尊重することである。授業者のねらいが定まらない状態だったり、ねらいレベルで多様な意見が出てしまうと当然授業者は混乱してしまうだろう。

特に若い先生が授業者の場合、お一人で準備していきなりシミュレーションという流れだとうまくいったことが起こりやすい。例えば、学年や研究主任、管理職等と事前に相談してねらいを固めておく（＝授業者のバックアップ、補足ができる人を作っておく）ことができるとよいし、メーリングリストもその目的に大いに活用していただきたい（＝校内でシミュレーションをやる前にメーリングリストを活用できるとよい）。

また、もう一つは、シミュレーションに参加する先生方の想定している子ども像もあくまで仮説であることを自覚し、実際の授業を通じて全員が自分の想定を見直すつもりで授業研究に臨むことである。特に小学校の場合、（大人にとっては簡単でも）「子どもはこう考えよう」「ここでつまずきそう」「これだと簡単すぎるのでは」などと考えることになるが、これらはすべてそれぞれの先生方のこれまでの経験からの想像である。そう考えると、「子どもの学びのシミュレーション」の場は、校内の様々な先生方が今ご自身を持っている子どもイメージ、学習観を交流させる場でもあると言える。もちろん、こうした想像が的外れで授業者をミスリードし、不本意な授業になることもあるだろう。しかしそれが「的外れだった」ことを参加者もみんな確かめることができれば、学校全体の先生方が子どもの学び方について学び、明日の授業をよりよいものにする貴重な財産になるはずである。

その意味では「子どもの学びのシミュレーション」は、「仮説検証型授業研究」とセットで行う必要があるだろう（その場合、もちろん事前協議の時間を特別に設ける必要はなくなる）。参加者が言いっぱなしで終わってしまうなら、「子どもの学びのシミュレーション」を繰り返しても次の授業改善につながりにくい。今年度研究発表会を担当して下さった京都市立西院小学校では、50名以上の先生方がいる学校でありながら「全員授業者」のつもりで一回一回の授業研究を行う組織作りと計画的な授業研究を行ってきたという。そうしたマネジメントの視点も重要だろう。

授業研究のスタイルに慣れエッセンスをつかんできたら、そのエッセンスを損なわない形でそれぞれの学校等がやりやすいスタイルや約束事、そのための組織や研究の進め方等を作っていけるとよい。第2部第3章第3節及び第4章第1節、第4節では、こうした授業研究のエッセンスやアレンジ例、アレンジの際の考え方についても詳述している。特に校内で授業研究の進行役を行う先生方はご覧いただきたい。

⑦マネジメントの視点から

授業研究の自走を支え、プロジェクトの質的深化と量的拡大を実現するために、教育行政や管理職といったマネジメントの視点からはどんな成果と課題が見えていて、また今後どんな取組が可能なのか。今年度も引き続き2回の連絡協議会及び教育長・担当者会議で協議を行っている。

7月の教育長・担当者会議では、昨年度挙がっていた課題の一つである情報発信やビジョン共有の重要性に対応し、プロジェクトの取組を学習指導要領や県、市町の取組の中に位置づけ、その意義を説明するワークショップを行った。プロジェクトの取組に関するキー

ワードと近年の教育政策や教育に関するトレンドのキーワードをスライド上に並べ、それらがどのように結びつくのか、その全体像をどう説明するのかを考えるという課題である。

図10で示した成果物を作成したグループでは、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体化することで、『コンピテンシー育成』に向けて『主体的・対話的で深い学び』を実現する。そこに向けて一番有効なのが『知識構成型ジグソー法』。『仮説検証型授業研究』によってありたい姿、どんな力を育成するのかを考えることは『カリキュラムマネジメント』につながる。また、『カリキュラムマネジメント』に関連して、学年・校種を超えて学習を俯瞰できる『単元マップ』は参考になる。『データサイエンス』や『コミュニティ』という点で言えば、他自治体の取組を参考にできるよさがある。『観点別評価』のための見とりを補うのが『学瞰システム』。それが『指導と評価の一体化』につながる。といった整理を行っている。

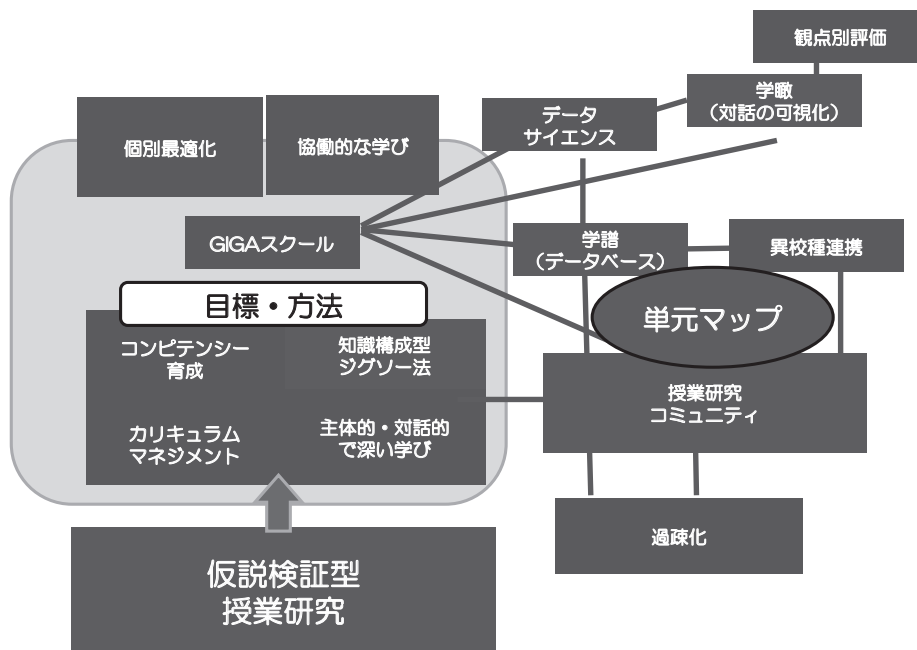


図10：グループ協議の成果物の例

(4) 今後に向けて

ここまで見てきたように、新しい学びプロジェクトにおいては、コロナ禍でも新しい授業研究の視点や方法が年々普及し、参加する先生方の授業づくりについての視点も変わりつつある。ただこうした変化は、自治体や学校によってはすべての先生方を巻き込むような変化であるし、また自治体や学校によってはまだまだ一部の研究に積極的に取り組む先生方だけの变化かもしれない。

次の課題は、一つ一つ授業研究をいかに組織的な取組にしていけるか、それぞれの学校や自治体が授業研究のエッセンスを自分たちのものにして、現在一部の自治体や学校で実現しつつあるような学習科学の視点に立った継続的な授業研究のサイクルの自走を実現し

ていくかであるだろう。1月に京都で行った研究会では、各学校における授業研究の取組や課題について意見交換する機会を設けたが、参加したミドルリーダークラスの先生方が西院小学校の組織的な取組をはじめ、他校の授業研究の工夫から刺激を受け、次に取り組みたい課題を持って帰っておられた。こうした機会を今後一層設けていきたい。

またその際、新しい学びプロジェクトの強みは、自治体・学校単位のプロジェクト、実践者だけでなく管理職や教育行政担当者など、多様なレベルの先生方が参加するプロジェクトだという点である。この先に、ミドル・リーダーと管理職や教育行政の先生方が自治体・学校レベルの授業研究のマネジメントやファシリテーションについて、それぞれの視点の考えをジグソーしながら次のアクションを創出するような機会も設けられればと思う。

3. 未来を拓く「学び」プロジェクト

(1) 連携事業の概要

埼玉県教育委員会では、CoREFとの連携による「知識構成型ジグソー法」を活用した協調学習の授業づくりを柱の一つに、生徒の主体的な学びを引き出す継続的な授業改善を行う研究連携事業を平成22年度から継続してきた。平成22、23年度は「県立高校学力向上基盤形成事業」、平成24～26年度は「未来を拓く『学び』推進事業」、そして平成27年度からは「未来を拓く『学び』プロジェクト」を開始し、令和2年度からは、さらに「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組を行い、進化と深化による新しい学びによる授業改善をめざしている。令和4年度からは、年度を限った特別な事業ではなく、県立学校の恒常的な授業改善のための取組として位置づけられるようになった。

研究連携の中心的活動は、「知識構成型ジグソー法」による教材の開発、授業実践、実践の振り返りである。研究の具体的な進め方としては、研究連携に参加を希望する学校（研究開発校）を県内の公立高等学校及び県立中学校から募り、各研究開発校が校内で中核的に研究を進める教員（研究開発員）を申請する。研究開発員は教科等の部会に組織され、対面とネット上のやり取りによって、協力して教材開発と実践、効果検証を行う。

研究推進の進行管理及び連絡調整は、埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課及び県立総合教育センターがリードし、CoREFはこれらと協力しながら、協調学習の理解を深めるためのワークショップのデザインや教材開発の支援、授業実践評価など、研究推進上の様々なサポートを行う。また、埼玉県教育委員会からCoREFにマイスター認定教員（後述）1名が派遣され、協力研究員として研究連携のコーディネートを行っている。

①事業規模の推移

13年間の研究連携における事業規模の推移を図11に示す。

研究連携がスタートした平成22年度には、研究開発校が県立高校の約7%にあたる10校であったものが、今年度は全ての県立高校139校に加えて市立高校2校、県立中学校1校の計142校に拡大している。

また、今年度の研究開発員数は494名であり、1校あたり平均3.5名の研究開発員が登録されている。

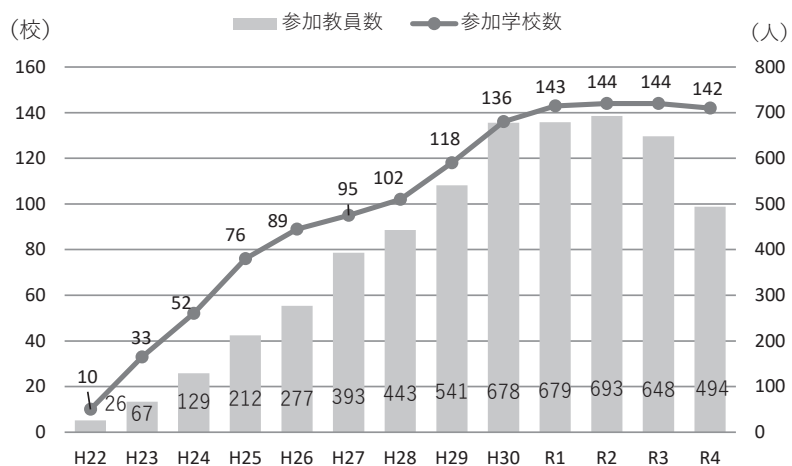


図11：研究開発校及び研究開発員数の推移

②事業の目的

本事業の目的を表15に示す。本事業は、協調学習の授業づくりに関する埼玉県の出組の結実期として位置づけられ、これまで取り組んできた「知識構成型ジグソー法」による協調学習の授業づくりをより広いアクティブ・ラーニングの文脈から捉えなおし、協調学習の授業を特別なものではなく日常化することを射程にデザインされている。そのため、事業の目的としては、学びの評価についての研究に一層注力すること、「協調学習」の授業づくりを軸とした教員同士の学びのネットワーク形成を一層意識的に行うことが掲げられている。

未来を拓く「学び」プロジェクトの事業目的・事業内容	
1	事業の目的 協調学習による授業づくりを中心とする主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組む。
2	事業の内容 (1) 県教育委員会は、県内各高等学校から研究開発員を募集する。研究開発員は、上記事業の目的の達成を通じて、生徒の資質・能力を向上させる。 (2) 研究開発員は、「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、教員ネットワークによる協働的活動を取り入れ、授業や教材の研究及び実践を行う。併せて、これらの振返りを通じて授業改善に取り組む。 (3) 県教育委員会は、教科部会ミーティング及び公開授業・研究授業を主催する。また、専用ウェブサイト（以下、「情報交換サイト」という）を運営する。 (4) 本事業の目的を達成するため、一般社団法人教育環境デザイン研究所 CoREF プロジェクト推進部門（以下、CoREF という）等、専門の知見を有する機関と連携して取り組む。

表15：「未来を拓く『学び』プロジェクト」の事業目的・事業内容

③未来を拓く「学び」プロジェクトを中心とした事業展開

埼玉県と CoREF との研究連携は、本事業に留まらず、多角的な事業展開とそれらを有機的に組み合わせた教員の学びのシステムづくりを行ってきた。その展開を図12に示す。

平成22年度に「知識構成型ジグソー法」を用いた協調学習の授業づくり研究連携がスタートし、平成24年度には、授業力向上研修として、その成果を生かした初任者研修がスタートした。授業力向上研修の講師は、CoREF とともに、研究開発員や各教科部会を運営する指導主事が務めている。初任者研修による県内高等学校への全面展開に伴って、各学校管理職や教育行政関係者にビジョンの共有を行うための管理職研修が平成25年度にスタートした。平成28年度からは、悉皆の新任校長、教頭研修にも協調学習の授業改善支援が組み込まれた。

また、平成26年度には、研究連携に携わる実践者の中からさらに中心的な役割を果た

す教員を対象に月1回のワークショップ型の研修を1年間行う協調学習マイスター研修がスタートした。このマイスター研修は、次節で扱う CoREF の「本郷学習科学セミナー」を活用したものであり、他県から同様のねらいで参加する多様な校種・教科の実践者や研究者と共に意見交換や実践検討を行うことが可能になっている。

埼玉県協調学習マイスター認定教員は今年度当初 67 名であり、知識構成型ジグソー法による協調学習に基づく授業改善を推進している。さらに、県内の研修会講師等を務めるほか、県外で協調学習の授業づくりに取り組む学校に出前授業を行うなどその活躍の場を広げている。

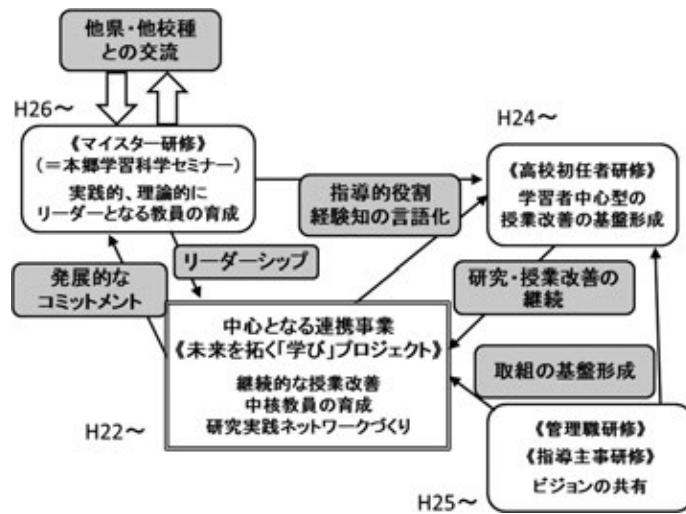


図 12：埼玉県高等学校における協調学習関連事業の展開

13 年間という流れの中で、研究開発員が指導主事や管理職に就き次代の教員の育成を支える例も増えてきた。多角的な事業展開と教員の学びのシステムづくりによって、埼玉県における協調学習の授業づくりの取組は、単に新しい授業手法の研究開発に留まらず、「知識構成型ジグソー法」を使った協調学習の授業づくりという1つの取組を核に、大学やその先の社会で求められる資質・能力の育成に向けて、県内の先生方が高等学校における学びの変革を考える1つの基盤を形成してきたと言える。

(2) 今年度の事業の報告

続いて、今年度の「未来を拓く『学び』プロジェクト」の実施状況について報告する。

①今年度の研究開発員

今年度の教科部会別の研究開発員数は表 16 のとおりである。

なお、研究開発員 494 名のうち、62 名（12.6%）が昨年度初任者研修で協調学習を学んだ受講者である。これは初任者研修受講者全体の約 37.3%にあたる。また、今年度研究開発員の 364 名（73.7%）が、平成 24 年度以降の授業力向上研修の受講者である。協調学習関連事業を有機的に展開することによって、初任者の段階から授業改善に前向きな

教員を後押しし、教員経験年数に関わらず授業改善の中核にまで育て上げるシステムが機能していると言える。

国語	地理歴史	公民	数学	理科	保健体育	音楽	美術工芸	書道	外国語	家庭	情報	農業	工業	商業	看護	福祉
98	56	18	67	58	33	7	5	5	76	10	10	3	21	20	3	4

表16：令和4年度「未来を拓く『学び』プロジェクト」教科部会別研究開発員数一覧（494名）

②今年度のスケジュール

今年度の事業の主なスケジュールと概要を表17に示す。事業の性質変更や新型コロナウイルス感染症拡大への配慮により、大規模な参集のイベントを避け、オンラインを活用し、かつ教科ごとに研究開発員の都合にあわせた柔軟なスケジュールリングを行いながら取組を進めた。2学期には対面での公開授業や事後協議を設定・実施するなど、昨年度以上に授業研究の質の充実を図った。公開授業にあたっては、研究開発員だけでなく、初任者研修受講者や参加希望教員など、広く参加を呼びかけ、研修と事業との接続を図った。こうした取組は次年度以降もより組織的に行っていきたい。

日程	イベント・会場	概要
4月25日	指導主事対象 説明会 (埼玉県立総合 教育センター)	重点研究授業を中心とした教科部会運営の全体的なイメージをつかみ、各教科部会で足並みを揃えた運営を行うために、事前研究・授業観察・事後研究の一連の流れを体験し、目的の共有を図った。
7月	第1回 教科部会 (オンライン)	各教科でプロジェクトのビジョン・目的を確認し、そのための年間取組を共有する機会とする。ねらいを十分理解した上で、そのために何ができるのか意見交換を行い、今年度の進め方について確認を行った。
(2学期)	事前教材検討 (オンライン)	各教科で公開授業実施に向けた教材検討をオンラインで行った。
(2学期)	公開授業	新型コロナ等の影響により中止となった教科もあったが、最終的には10教科による公開授業を行うことができた。当日は事前協議・授業参観・事後協議を、他教科の先生なども含めて対面で行った。
(3学期)	第2回 教科部会 (オンライン)	今年度の活動について振り返り、公開研究授業やその他の授業実践から見てきたことを交流し、次年度の研究の進め方について話し合った。

表17：令和4年度「未来を拓く『学び』プロジェクト」年間スケジュール

(3) 今年度の研究推進

①開発教材

今年度全体で10教科の公開研究授業を定め、オンラインでの事前教材検討及び対面による授業参観・事前事後協議を行うことを中心とした研究となった。

本報告書巻末のDVDには、今年度の本事業実践のうち公開授業10例、その他38例の48例を含む本事業を中心とした高等学校での実践2021例について、授業案、教材、授業者の振り返りをPDFファイルで収録している。ご活用いただきたい。

②公開研究授業

授業改善を目的とした公開授業は、新型コロナウイルス感染症が拡大する中では実施が難しく、令和2年度及び令和3年度は、オンラインによる授業研究会を実施した。グループ協議を行う生徒たちにフォーカスすることで、生徒が話し合う様子や反応を繰り返し確認できるなど、大きなメリットを享受することができた。しかし、限られた画面の中では教室の空気感をつかむことが難しかったり、画面の外にいる生徒たちの様子を見ることができないなど、授業全体をデザインする中で必要ないくつかの要素をつかむことができないという面もあった。そこで今年度は、授業実施の前に行う教材検討や授業デザインの検討はオンラインを活用し、実際の授業見学や研究協議は対面で行うこととして、10教科について公開研究授業を実施した。

(1) 目的

協調学習による授業づくりを中心とする主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善に取り組む。併せて、生徒の学びを直接見るとともに、事後の協議を通じて、評価改善の一助とする。

(2) 実施時期 10月中旬から12月上旬まで

(3) 実施教科 10教科

・国語 ・地理歴史 ・数学 ・理科 ・芸術
・保健体育 ・家庭 ・情報 ・農業 ・工業

(4) その他

各学校において、教科等横断的な視点で授業改善に取り組むことができるよう、他の教科にも参加することができる。

公開研究授業は、仮説検証型授業研究のスタイルで行い、そのファシリテーションは本事業の事務局担当指導主事、又は埼玉県からCoREFに派遣されているマイスター教員が行った。公開研究授業にあたっては、次ページの図13～15のように、研究授業の目的と進め方を図に整理し、周知した。次年度以降、各教科担当指導主事やマイスター教員が授業研究のファシリテーションを行っていけるよう取組を発展させたい。

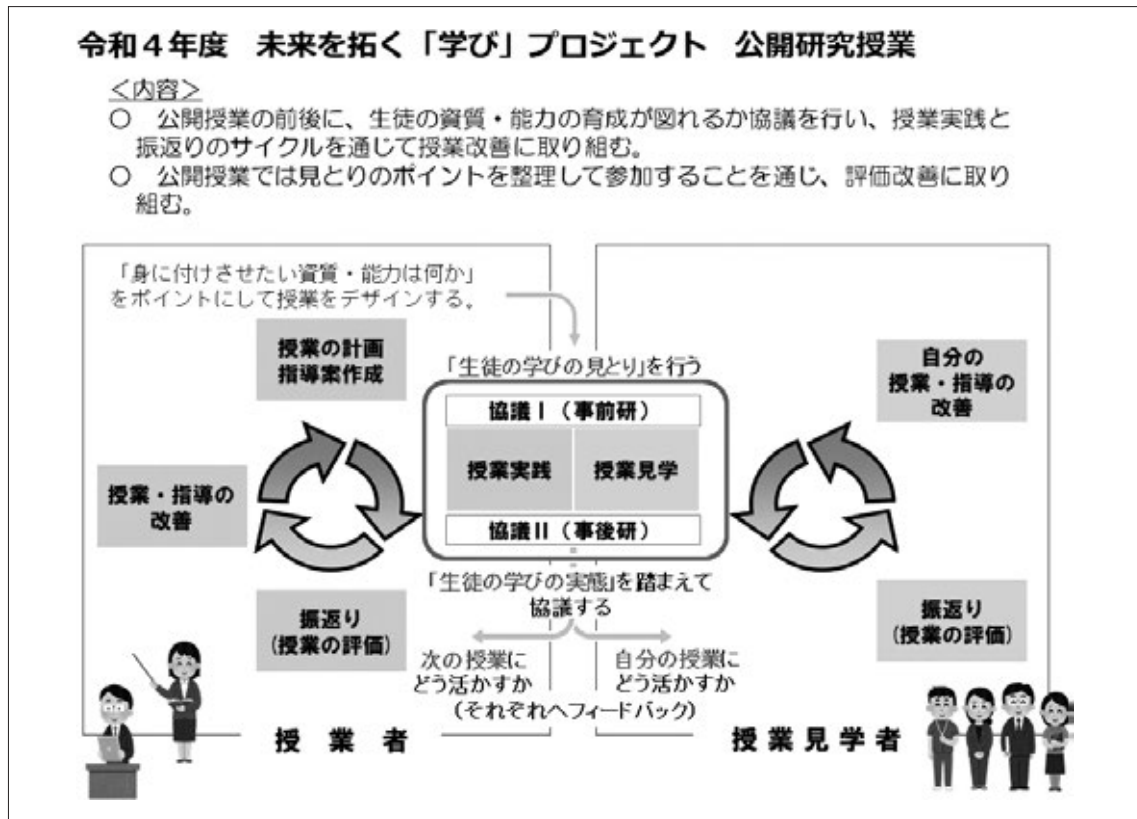


図13：未来を拓く「学び」プロジェクト 公開研究授業のねらい

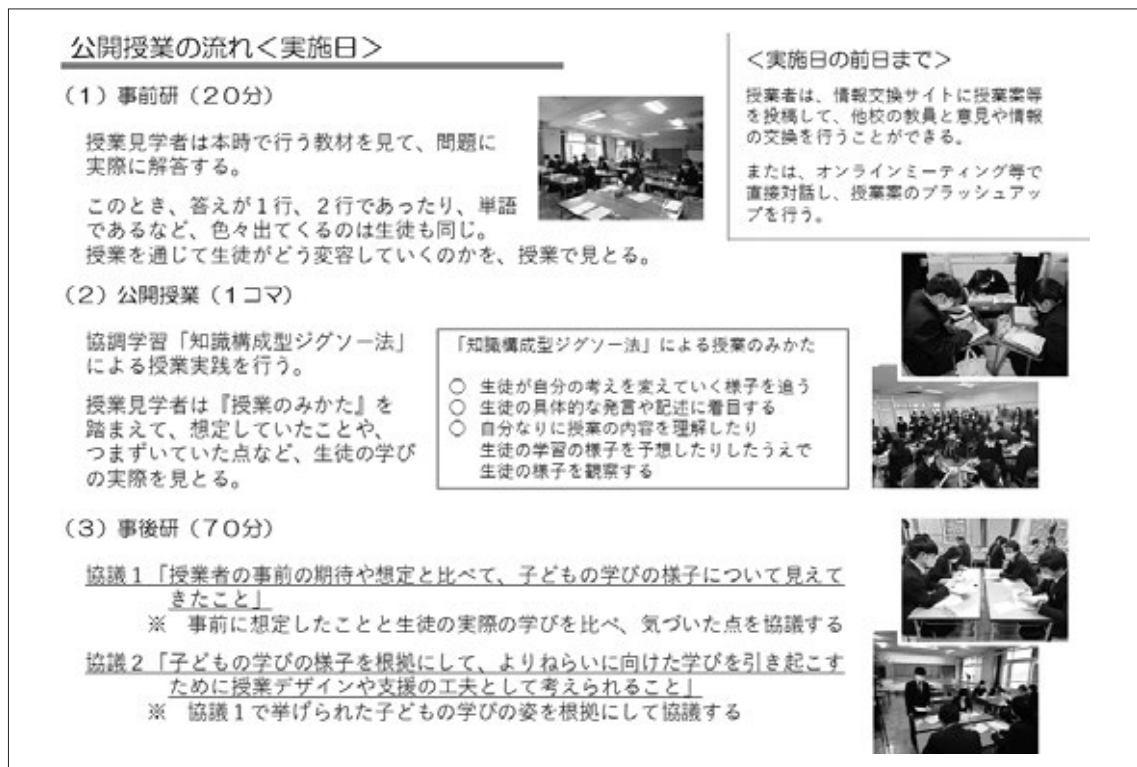


図14：未来を拓く「学び」プロジェクト 公開研究授業の流れ

令和4年度の実施例

教科・科目 数学A（3の倍数の判定法：数学S1301約数と倍数）
実施日 令和4年12月2日（金）
会場校 県立志木高等学校

①協議Ⅰ 12:55～13:15



- 1) 授業者より、前時までの学習内容等を説明
- 2) 参観者が問題を解く
- 3) 授業者より、授業のねらい等の説明
- 4) 生徒は期待通りの活動ができそうか、協議

【参加者の声】

- ・ Exp.Cを核に、Exp.AやBがどう入り込んでいくかが大事だが、そこがわかりにくく止まる班もあるかもしれない

③協議Ⅱ 14:25～15:35



- 1) 事前想定と比べた生徒の学びの実態
【参加者の発表（クロストーク）】
 - ・ 想定通り、Exp.Cをとっかかりにチャレンジしていた
 - ・ $a+b+c$ が各位の和、と言い換えができていなかったのは想定外だった
 - ・ Exp.Aの前提条件とジグソー活動の前提条件が混ざってしまっていた
- 2) ねらいに向けた学びをより引き起こす工夫
【参観者の発表（クロストーク）】
 - ・ 「なぜ9でくるのか」を考えさせる問いがあるとよい
 - ・ 「3の倍数」を先に考えさせてから、「9の倍数」に取り組む流れでもいいのでは
 - ・ 解答の比較などをさせるときは、「良い」「悪い」をはっきり提示してはどうか

②授業見学 13:25～14:15



参加者は生徒もしくはグループの発言・活動を追う

図15：未来を拓く「学び」プロジェクト 公開研究授業のイメージ

③公開研究授業を核とした教科部会の研究推進

続いて、公開研究授業を核とした教科部会の研究推進の具体的な様子について、国語部会を例に紹介する。研究推進は、公開研究授業以外すべて放課後の時間を利用した遠隔同期での教科部会と情報交換サイトを活用した掲示板でのやりとりで行っている。

a) 第1回教科部会

今年度の国語部会の取組は、第1回教科部会から始まった（7月25日（月）；遠隔同期）。自己紹介をはさみながら今年度の活動計画や情報交換サイトの活用方法についてなどの確認を行い、後半では、今までの実践の紹介や、そこから見えてきた教材づくりのポイント、生徒の変容、知識構成型ジグソー法の授業をしてよかったことなどを共有した。長年取り組んでいる先生から、過去の教材の利活用や、情報交換サイトへの教材の積極的なアップ、ICT機器の利用などについて話題が挙がり、新規に研究開発員になった先生にとっても参考になった。

その後、今年度の公開研究授業を、大宮高校の横山大基教諭による高校3年生「現代文B」と決定した。

b) 公開授業の事前検討過程

横山教諭の授業案についての最初の検討はオンラインでの教科部会で行った（10月31日（月）；遠隔同期）。授業デザイン（第一案）の概要は表18の通りである。

課題（概略）	なぜ文学を学ぶのか。（なぜ文学が必要とされるのか）
Exp X	1984年共通第一次試験（黒井千次『華の道標』）と2022年共通テスト（黒井千次『庭の男』）の、同じ作者の違う問題を比較し、出題の意図の変化・不変化を考察する。
Exp Y	1999年センター試験（追試 阿部昭『あの夏』）と2022年共通テスト（黒井千次『庭の男』）の、「内向の世代」の作者の問題を比較し、出題の意図の変化・不変化を考察する。
期待する解答の要素	個人的な楽しさだけでなく、複数の視点を読み取ったり、他者の内部の変化を理解したり、実生活や社会における有用性を説明することができる。また、問題の変容を読み取ったうえでの解答が望ましい。

表18：公開授業（横山教諭）デザインの概要（第一案）

横山教諭から授業のねらいなどを説明した後、主に現在の教材で授業者のねらいや期待する生徒の姿が実現できそうかについて協議を行った。協議では生徒の活動の予想として「テストの比較はできると思うが、『なぜ学ぶか?』まで考えられるだろうか。もう少しステップがあってもいいのではないか。」といった意見や、教師のねらいと比較して「『学ぶ意義』＝『テストで問われている資質』なのか。そこにギャップはないのか」などの意見が挙げられた。ここで出た意見は、横山教諭の授業への課題や改善案となるが、同時に、他の参加者が自身の授業を作成する際に気を付けなければならないポイントでもある。横山教諭だけでなく、参加した先生にとっても、自身の授業を振り返るきっかけとなっていた。

この教科部会を踏まえ、横山教諭により情報交換サイトに改善した授業案がアップロードされた。それに対し、研究開発員などから、以下のようなコメントが寄せられた。

- ・問いが細分化されていますが、問2、問3の方が具体的に考えやすい課題になるかと思しますので、問2→問3→問1の流れの方が、生徒は考えやすいのではないのでしょうか。
- ・「意義が見出されているに違いない」と主語を転化した分、今授業意図が曖昧になった反面、「また、(以下)」に問題作成の基本的な考え方が補足され、「主体的な授業への改善」の狙う出題は、生徒の社会生活・日常生活の中で、問題解決についての学習過程を意識した場面想定に限られるという狭隘さへの批判という授業者の狙いも少なからず感じられました。

これらの指摘等を受け、横山教諭は再度教材等を検討し、授業のねらいと照らし合わせ、必要な修正を行った。最終的には表19のようになった。教材の問い等も変更されている。（授業の詳細については、本報告書付属DVD「開発教材」フォルダ内の「国語 S1303 文学」を参照のこと）

課題（概略）	<p>プレポスト</p> <p>問1 なぜ文学を学ぶのでしょうか。</p> <p>問2 なぜ文学が試験で問われるのでしょうか。</p> <p>問3 試験で十分に問える文学の意義、試験では問えない文学の意義はありますか？それはなんですか。</p> <p>ジグソー</p> <p>ステップ2で考察した変化（試験問題の変化）によって、身につく力にはどのような影響があるのでしょうか。また、その変化により、文学を学ぶ意義・本質に近づいているといえますか。それでも拾えない価値はあるのでしょうか。</p>
Exp A	1984年共通第一次試験(黒井千次『華の道標』)と2022年共通テスト(黒井千次『庭の男』)の、同じ作者の違う問題を比較し、出題の意図の変化・不変化を考察する。
Exp B	1999年センター試験(追試 阿部昭『あの夏』)と2022年共通テスト(黒井千次『庭の男』)の、「内向の世代」の作者の問題を比較し、出題の意図の変化・不変化を考察する。
期待する解答の要素	個人的な楽しさだけでなく、複数の視点を読み取ったり、他者の内部の変化を理解したり、実生活や社会における有用性を説明することができる。また、問題の変容を読み取ったうえでの解答が望ましい。

表19：公開授業（横山教諭）デザインの概要（最終案）

このように、オンラインでの協議と情報交換サイトを組み合わせることで、時間や場所の制約なく積極的な意見交換を行うことができる。また、授業者とCoREFのやりとりだけでなく、研究開発員同士でのやりとりができることで、学校を超えた連携がとりやすくなるとともに、それぞれの教員がこれまでの経験から得た視点を共有しながら教材の改善ができる。

また、公開研究授業以外の教材についても同様に情報交換サイトによる意見交換が行われており、事前検討の場として活用されている。今年度国語部会では、横山教諭の教材も含め15教材について、延べ73のやりとりが行われた。第1回教科部会に先んじて投稿されているものもあり、研究開発員による掲示板の積極的な活用がみられた。

c) 公開授業の実施と事前協議・事後協議

こうした一連の授業案の改善を行った後、11月9日（水）に授業実践が行われた。当日は対面による実施とし、授業前に20分程度の事前協議、授業後に70分程度の事後協議を併せて行った。全体の進行については未来学び担当指導主事が行い、事後協議についてはCoREFが進行を行った。当日は研究開発員をはじめ、初任者、外部の研究者など約20名が参加した。参加者の教科も国語に限らず、外国語など他教科の先生も参加した。

事前協議では、授業者から前時までの様子を話した後、参加者が実際に課題を解いた。

その後横山教諭から授業のねらいや想定する生徒の活動や解答などを説明したうえで、各自で生徒の活動の予想をした。生徒の活動を予想することで、生徒の実際の活動がこちらの期待したものかどうか、比較・検討することができる。また、授業を参観するときには、1人の生徒やグループを観察し続け、具体的な発言や行動から生徒が自分の考えを変えていく様子を追うようお願いした。これらにより、その子が今何をどう考えているのか、つまずいているとするとどんなところでつまずいているのかを丁寧に見ていくことができる。事後協議では、これらの事実に基づいた協議ができるとよい。

事後協議では、グループに分かれ、まずは「授業者の事前の期待や想定と比べて、子どもの学びの様子について見えてきたこと」を協議した。ここでは子どもの学習について、期待や想定通りの姿、想定外につまずきなど、気づいたことだけを話してもらい、改善点などはこの後の協議で交流する。ここでは「生徒は最初の難しい問いにも積極的に挑戦していた」「生きるための技術を文学に求めようとしていたのは想定外で、話し合いが成熟しているとも思ったが、自分たちなりの面白さを大事にする心をひっこめたようにも感じた」などの生徒の様子が共有されていた。

次に、これらの生徒の学びの様子を根拠にして、「よりねらいに向けた学びを引き起こすために授業デザインや支援の工夫として考えられること」を議論した。デザインや支援の良かった点はもちろん、より良い思考や対話に向けてできる問いや支援の工夫などが中心となる。研究開発員からは、「XとYのクロストークの際に、共通項を探すあまり消された意見もあった。メモの枠を広げておくだけでも、それらの意見を生かせるのではないか」「表だけを見て問題文を見ない生徒もいた。活動をもう少しシンプルにしてもいいのではないか」「ねらいと題材がどこまでマッチしているか、が大切だった。今回のねらいであれば、もっと昔の題材などでも面白いかもしいない」などの意見が挙げられた。これらの意見は、横山教諭の授業だけでなく、それぞれの授業への改善点にもつながると考えられる。

d) 第2回教科部会

第2回教科部会は1月25日(水)に行われた。横山教諭による公開授業の実践報告では、授業のねらいの紹介や、教材の提案から改善した点、生徒の解答の説明などが詳細に行われた。「問いと活動にギャップがあることから、問いの細分化を行ったが、結果、生徒は悩みながらも問いにチャレンジすることができ、こちらのねらいを達成できた」「『実用』に終始するのではないかと、いう懸念があったが、生徒は発表段階で『試験で問える能力』『試験で問えない能力』を分析しており、想像以上に深い視点で考えているようだった」など、事前の想定と比較しながら報告していた。また、参加した研究員の実践報告では、「ステップの細分化をすることで、生徒がよく考えられるようになった」といった、似た成果をあげている先生もおり、授業デザインの提案としても他の教諭の参考になった。また、「ファシリテーターになるだけでなく、ジェネレーターになることも必要」との意見も出ており、各自が知識構成型ジグソー法を使いながら、生徒がもう一步踏み込んで考え

てもらうために、様々な取組をしていることがわかった。

昨年度はこれらの事例を根拠にしながらデザイン原則の作成を行ったが、今年はスケジュールの都合により作成することができなかった。しかしながら、上記のような共通する「うまくいった事例」「うまくいかなかった事例」などは共有できており、各自がデザイン原則を考えることができる。これらのデザイン原則等も情報交換サイトで持ち寄ったり、新たな教材検討の際に視点として取り入れたりすることで、より生徒の学びにあった授業改善につなげることができる。

④教科部会のまとめ

前項で挙げた国語部会の例のように、それぞれの教科部会が公開研究授業を軸とし、オンラインも活用しながら授業研究を推進してきた。次ページ以降、教科部会ごとに担当指導主事がまとめた今年度の活動報告及び各教科における協調学習の授業づくりにおけるデザイン原則を掲載する。

なお、今年度はスケジュールの都合で新たな授業デザイン原則を作成することができなかったため、過年度に作成したものを再掲している。

未来を拓く「学び」プロジェクト 国語部会 活動報告

(1) 研究開発員数 98名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月25日/オンライン]
 - ・これまでの実践共有
 - ・「授業デザイン原則」の作成
- 第2回教科部会 [令和4年10月31日/オンライン]
 - ・重点研究授業についての教材検討
- 公開授業 [令和4年11月9日/対面]
 - 県立大宮高等学校 横山大基 教諭
 - 現代文B『なぜ文学を学ぶのか』
- 第3回教科部会 [令和5年1月25日/オンライン]
 - ・横山教諭発表
 - ・今年度の実践内容の共有

(3) 今年度のまとめ

教科部会では、研究開発員の実践内容の共有をはじめ、意見交換が活発に行われた。また、重点研究授業については、「主体的・対話的で深い学び」の視点を強く持った授業が実施され、参加された国立教育政策研究所の永山所長からも高い評価をいただき、次代の教育に向けて大きな成果を挙げることができた。

具体的な学びのエピソード

国語部会

【連携不足】
・教科間の連携がうまく取れなかった。

【話し合いの発散】
・様々な話題は出てきたが、生徒たちがねらいである一般化に届かなかった。
・それぞれの意見の共有はできたが、収束に向かわせる手立てがなかった。

【モチベーション】
シグソー活動・クロストークは盛り上がったが、ポスト記述が充実しなかった。
・学校の実情によってはモチベーションや学力に直結しなかった。

これらのエピソードから言えそうな
授業デザイン原則

【教科間連携・学校間連携を進めるために】
各教科や各学校のねらい・指導事項を教員間で共有すべきである。

未来を拓く「学び」プロジェクト 地理歴史部会 活動報告

(1) 研究開発員数 56名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月28日/オンライン]
・本年度の事業及び教科部会の取組について、情報交換等
- 第2回教科部会 [令和4年10月14日/オンライン]
・公開授業の指導案等の検討
- 第3回教科部会 [令和4年10月17日/オンライン]
・実践に向けたアイデア、教材等に関する意見交換
- 公開授業 [令和4年10月24日/対面]
県立桶川高等学校 三浦資生 教諭
日本史B『恐慌の時代と軍部の台頭』
- 第4回教科部会 [令和5年1月25日/オンライン]
・今年度の実践の振り返りと改善に向けての協議及び
来年度の活動に向けての意見交換

(3) 今年度のまとめ

公開授業では、対話を重視した学びにより生徒の主体的・対話的な学びが効果的に引き出されていた。対話を通じて、様々な観点の相関性を見出させる授業デザインにより、生徒が自発的に資料を批判的に読み込んだり、歴史の展開や評価について構想、議論できるようになることが期待される。

具体的な学びのエピソード

「学習の理解度」を生徒の振り返りだけでは測りきれないし、定期考査でも過去に協調学習で扱った内容から誤答してしまう。

シグソー活動で生徒が政治体制の概念を理解して説明できず、既習事項を活用して思考・判断・表現の活動の深まりが見られなかった。

単元のどこで協調学習を行えば、生徒が単元全体としての理解を高めることができたか、見とることが難しい。

これらのエピソード から言えそうな 授業デザイン原則

授業者のねらいを明確にしたうえで、単元の指導計画を考え、単元の中で効果的な場面で協調的な学習を行い、既習の知識・技能や単元を通して育成した資質・能力をまとめの学習で活用できるようにする。

地理歴史部会

未来を拓く「学び」プロジェクト 公民部会 活動報告

(1) 研究開発員数 18名

(2) 今年度の主な取組

■第1回教科部会 [令和4年7月11日/オンライン]
・本年度の事業及び教科部会の取組について、情報交換等

■第2回教科部会 [令和4年11月4日/オンライン]
・重点授業の指導案等の検討

■公開授業
中止

■第3回教科部会 [令和5年2月1日/オンライン]
・今年度の実践の振り返りと改善に向けての協議及び
来年度の活動に向けての意見交換

(3) 今年度のまとめ

今年度は、掲示板での情報交換などを中心に、「『公共』の教材開発」、「既存の教材のブラッシュアップ」、「新たな教材の開発」を行った。今年度、教科部会で協議した教材には、「公共」において「A 公共の扉」で身に付けた見方・考え方を働かせたり、現代の諸課題とつなげたりする教材づくりのヒントがあり、来年度の活動につながるものだった。

具体的な学びのエピソード

公民部会

授業の最初と最後の課題に対する「答え」にあまり違いが見られなかった。
(生徒の学びの変容を見取ることができなかった)

各グループから様々な意見が出ることを想定していたが、どのグループもほぼ同じような意見になった。

生徒が考える時間を十分に確保できなかった。

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則

生徒の学習履歴を踏まえた、「社会的な見方・考え方」を働かせることができる指導計画の作成と課題の設定を行う。

未来を拓く「学び」プロジェクト 数学部会 活動報告

(1) 研究開発員数 67名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月28日/オンライン]
 - ・これまでの実践共有
 - ・「授業デザイン原則」の作成
- 第2回教科部会 [令和4年11月16日/オンライン]
 - ・重点研究授業についての教材検討
- 公開授業 [令和4年12月2日/対面]
県立志木高等学校 武正 健太郎 教諭
数学A『約数と倍数』
- 第3回教科部会 [令和5年2月6日/オンライン]
 - ・公開授業報告および参加者の今年度の実践内容の共有
 - ・来年度にむけて

(3) 今年度のまとめ

- ・教科部会では、研究開発員の実践内容の共有をはじめ、授業デザインや教材、実践に向けての注意点について活発な協議も行われた。
- ・重点研究授業については、生徒が苦手とする証明問題を題材として実施し新たな教材を残すことができた。

具体的な学びのエピソード

数学部会

グーグルクラスルーム内でエキスパートの意見交換を促したが、誰も意見交換をしなかった。

授業時間内に生徒が解くことを想定していたが、解くことができなかった。しかし、放課後に他のクラスメイトと話し合い、解いた生徒が現れた。

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則

- ・日常的にグーグルクラスルームを活用。
(解答フォームの事前準備等、操作しやすい環境づくり)
- ・クイズ形式で出題しあう等役割を与えて、生徒同士の学び合いを促す。

未来を拓く「学び」プロジェクト 理科部会 活動報告

(1) 研究開発員数 58名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月8日/オンライン]
 - ・令和4年度の取組の共有
 - ・単元マップの活用
- 第2回教科部会 [令和4年11月7日/オンライン]
 - ・重点研究授業についての教材検討
- 公開授業 [令和4年11月22日/対面]
 - 県立寄居城北高等学校 平塚雄一郎 教諭
 - 地学基礎『中生代』
- 第3回教科部会 [令和5年2月1日/オンライン]
 - ・公開授業の振り返り
 - ・授業実践の共有

(3) 今年度のまとめ

ICTも取り入れつつ、教材づくりから、教材案検討、実践、実践結果の共有と検討までのPDCAサイクルが確立しつつある。その中で、生徒の実態を把握しつつ、生徒の思考力を育成するような「問い」の設定の重要性を確認した。

具体的な学びのエピソード

理科部会

「宇宙の星の数と、500 mLペットボトル中の水分子の数はどちらが多い？」
物質量の計算を確実に定着させるため、興味を持たせ、話し合いではじめて課題解決できる目標の設定を心掛けている。

教科書に記載している内容をゴールに設定したところ、生徒が調べて解決し、対話に発展しなかった。

生活（コロナウイルスや臓器提供）や他教科と関連させて生徒に興味を持たせる。

これらのエピソード
から言えそうな
授業デザイン原則

- ・エキスパート資料は教科書内容にして、興味を持たせ解決にいたる時事内容などを盛り込んだ目標を設定する。

未来を拓く「学び」プロジェクト 保健体育部会 活動報告

(1) 研究開発員数 33名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月13日/オンライン]
 - ・参加者の自己紹介の後、今年度のこれまでの取組について情報交換
 - ・今年度の教科部会についてスケジュールの確認
- 第2回教科部会 [令和4年11月21日/オンライン]
 - ・公開授業における授業内容協議
- 公開授業 [令和4年11月29日/対面]
 - 県立宮代高等学校 萩原育未 教諭
 - 体育『球技』ゴール型 アルティメット
- 第3回教科部会 [令和5年2月3日/オンライン]
 - ・参加者の今年度取組について情報交換、公開授業報告
 - ・次年度の教科部会について連絡

(3) 今年度のまとめ

教科部会に参加した開発員の情報交換が活発に行われ有意義な活動が行えた。公開授業でも授業者があまり授業で取り上げることの少ない種目を選択し、新たな教材を残すことができた。課題は、教科部会における参加者が登録開発員に対し、大幅に少ないので参加を促していきたい。

具体的な学びのエピソード

保健体育部会

動画の視聴等により
授業時間・運動量の
確保が難しくなって
しまった。

協調学習を行うタイ
ミングを見誤り、関
わり合いや運動量を
低下させてしまった。

生徒の実態（技能レ
ベル・理解力等）を
考慮しないと効果が
低くなってしまう。

これらのエピソード
から言えそうな
授業デザイン原則

取り上げる領域や種目と生徒の実態を照らし合わせ、関わり合いや運動量の確保、ICTの活用を加味しながら、技能レベルの低さや既習事項の復習などに充てられるようにする。

未来を拓く「学び」プロジェクト 音楽部会 活動報告

(1) 研究開発員数 7名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月20日/オンライン]
 - ・これまでの実践共有
 - ・研究内容についての検討
- 第2回教科部会 [令和4年10月14日/オンライン]
 - ・研究内容についての経過報告と検討
- 第3回教科部会 [令和5年2月1日/オンライン]
 - ・稲田教諭発表
 - ・今年度の実践内容の共有

(3) 今年度のまとめ

教科部会では、研究開発員の実践内容の共有を行った。昨年度は、音楽の3要素である、旋律（メロディー）・リズム・ハーモニーを各エキスパート活動として設定したが、今年度は、ビート、リズム、テンポを各エキスパート活動として設定した。音楽の3要素と比較すると、「ビート、リズム、テンポ」の3つはそれぞれ重なる部分が多い。クロストーク時には、その重なりが共感と安心感を生み、活発な話し合いとなり、深い学びにつながった。結果として、教師の予想を超える表現の工夫も生まれた。

具体的な学びのエピソード

音楽部会

音楽において、エキスパートA：メロディー、B：リズム、C：ハーモニーは常に関連しているので、それぞれの棲み分けや関連性を理解するのが難しかった。

楽譜（総譜）を読みながら異なるパートとの合同での話し合い活動は、それぞれの楽器の役割や全体の構成を理解するために有効的であった。

楽器で演奏する際の演奏意図について、自分の言葉で他者に伝えることが難しい。

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則



- ・話し合いの際に、実際に楽器を演奏したり演奏を聴いたりしながら、音楽を根拠にした活動にすることが重要である。
- ・目的に応じた言語活動を指導計画に意図的に位置づけることで、楽曲における各楽器の役割や全体の構成を理解して、演奏につなげることが重要である。

未来を拓く「学び」プロジェクト 美術・工芸部会 活動報告

(1) 研究開発員数 5名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月20日/オンライン]
 - ・令和4年度の年間計画と授業者の決定
 - ・研究内容についての検討
- 第2回教科部会 [令和4年9月5日/オンライン]
 - ・公開授業についての教材検討
- 公開授業 [令和4年10月18日/対面]
県立進修館高等学校 茂木 祥宏 教諭
美術Ⅱ『ロゴマークをデザインする』
- 第3回教科部会 [令和5年2月1日/オンライン]
 - ・公開研究授業の振り返り
 - ・実践報告と情報交換

(3) 今年度のまとめ

公開授業を実施することができた。しかし、参加者が少なく、とても残念であった。日程調整や広報の仕方などを検討する必要があると感じた。
実践からは、教師の発問や導き方により、学びの深まりが大きく変わること気づくことができた。

具体的な学びのエピソード

《学びの実態》

3つの知識をくっつけて終わってしまう。エキスパート深まりがなかった？（それなりにそれぞれの試行錯誤があった。さらに発展させるにはどうすればよいか？）

《学びの実態》

エキスパートA+B+C以上（想定以上のことはある？）のことはなかったか？（評価の設定の基準）

《学びの実態》

エキスパートA、B、Cに分けているが、監督役（タイムキーパー、リーダー等）を生徒から選出できればよかったのではないか？

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則

- ・エキスパート資料は必ずしも3つでなくてもよく、扱う題材によって熟慮し、必要に応じて設定。（答えが1つではないので、問いしか与えず、エキスパートの答えを生徒自身で考えて導き出させる。）
- ・エキスパート資料の知識を発展させ、「応用的な内容につなげていく」と作業に至るのはなかなか難しい。3つの知識の習得で終わらざるを得ない題材もある。（そもそも題材設定の段階で考慮が必要）

未来を拓く「学び」プロジェクト 書道部会 活動報告

(1) 研究開発員数 5名

(2) 今年度の主な取組

■第1回教科部会 [令和4年7月20日/オンライン]

・本年度の事業及び教科部会の取組について、情報交換等

■第2回教科部会 [令和4年10月14日/オンライン]

・公開授業の指導案等の検討

■公開授業 [令和4年10月19日/対面]

県立進修館高等学校 茂木 祥宏 教諭
美術『ロゴマークをデザインする』

■第3回教科部会 [令和5年2月1日/オンライン]

・今年度の実践の振り返りと改善に向けての協議及び
・来年度の活動に向けての意見交換

(3) 今年度のまとめ

今年度の書道部会は、教科部会への参加者が少なかったため、音楽部会、美術・工芸部会との芸術3部会合同開催となった。美術の公開授業について事前に検討し、授業後の振り返りを行ったが、書道に通ずる部分も多く、大変参考になった。次年度は、書道部会単体で研究開発を進めていきたい。

具体的な学びのエピソード

書道部会

エキスパート活動における課題資料が、どこからでも取り組めるようなデザインであったため、生徒の足並みが揃わず、会話が生まれにくくなってしまった。

エキスパート活動における課題資料が、語群のある穴埋め形式であったため、生徒が空欄補充に集中してしまい、会話が生まれにくくなってしまった。

鑑賞の時間（クロストーク）があっさりと流れてしまった。

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則

- エキスパート活動における課題資料の空欄を順序立て、生徒それぞれの足並みを揃えることで、会話が生まれやすい環境を作る。
- エキスパート活動において、各グループの生徒が一つの課題（例：大きな模造紙）に取り組むよう設定することで、会話を活性化させる。
- 授業のねらいを明確にし、生徒に伝えたいことで、それぞれの活動における時間配分にゆとりを持たせる。

未来を拓く「学び」プロジェクト 外国語部会 活動報告

(1) 研究開発員数 76名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月25日/オンライン]
 - ・昨年度の授業実践報告
 - ・検索機能を活用した教材作成について
- 第2回教科部会 [令和4年11月21日/オンライン]
 - ・教材についての意見交換会
- 第3回教科部会 [令和5年1月27日/オンライン]
 - ・今年度の授業実践報告

(3) 今年度のまとめ

教科部会では授業実践報告を中心に行い、生徒が主体的に学ぶ意欲をはぐくむ授業案について検討を重ねた。課題として、授業の中で生徒に英語でアウトプット活動をどのようにさせるかが挙げられた。生徒が英語を使いたいと思わせる授業デザインが必要である。

具体的な学びのエピソード

外国語部会

ジグソー活動など、生徒同士の話し合いでは、ほぼ日本語になってしまう。

内容を重視すると、英語の使用頻度が下がり、英語の使用を重視すると内容が希薄になってしまう。

クロストークの時のみにしか英語を使わない形になりがち。

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則

- ・英語活動を保ちつつ重みのある内容とするために、教科横断的な課題を設定する。
- ・日頃からグループ活動、英語の活動を取り入れておく。
(英語で授業をする意義の確認・伝達、単元の指導に沿ったKCJ法の実施)

未来を拓く「学び」プロジェクト 家庭部会 活動報告

(1) 研究開発員数 10名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月11日/オンライン]
 - ・家庭科の今年度の取組みについての協議
 - ・これまでの授業実践についての情報交換
- 第2回教科部会 [令和4年8月31日/オンライン]
 - ・今年度の授業実践にむけて授業デザイン及び教材の検討、意見交換
- 第3回教科部会 [令和4年11月2日/オンライン]
 - ・公開授業についての教材検討
- 公開授業 [令和4年11月9日/対面]
 - 県立桶川西高等学校 山崎元美 教諭
 - 家庭総合『消費生活（家計管理）』
- 第4回教科部会 [令和5年1月31日/オンライン]
 - ・公開授業の報告、振り返り
 - ・今年度の授業実践報告

(3) 今年度のまとめ

今年度はチームではなく個人での教材開発および授業実践を行った。生徒が「自分ごと」として取り組めるテーマ設定や求めるゴールにたどり着けるような資料作成の難しさを改めて感じた。今年度の実践教材は金融や防災、環境など学校に合わせてアレンジして実践しやすいものが多かったため、来年度は教科部会でブラッシュアップしていけるよう働きかけたい。

具体的な学びのエピソード

家庭部会

【話し合い・
進め方】

話し合い活動が進まず、自分の意見を深められない。

【ワークシート・
エキスパート資料】

資料の中で、大切なポイントを見落としてしまう。(ポイントに気付くことができない。)
シグソー活動の際、自分の意見が出てこない。

【既習内容・課題】

既習内容が生徒の実際の姿や実生活に結びつかない。

これらのエピソードから言えそうな
授業デザイン原則



生徒にとって「自分ごと」として取り組めるテーマ設定と、押さえてほしいポイントを逆算できるような活動構成(資料・時間配分)にする。
そうすることで、生徒の話し合いが円滑に進み、学びが深まると考えられる。

未来を拓く「学び」プロジェクト 情報部会 活動報告

(1) 研究開発員数 10名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月15日/オンライン]
 - ・令和4年度の取組の共有
 - ・情報科に係る情報共有
- 第2回教科部会 [令和4年11月16日/オンライン]
 - ・重点研究授業についての教材検討
- 公開授業 [令和4年11月28日/対面]
 - 県立新座柳瀬高等学校 泉田 駿 教諭
 - 情報デザイン『情報の理解を助けるデザイン』
- 第3回教科部会 [令和5年1月25日/オンライン]
 - ・公開授業の振り返り
 - ・それぞれの授業実践共有

(3) 今年度のまとめ

教科部会では、研究開発員同士で活発な協議を行った。教科特性から1校1名配置であることが多いため、教科部会の際に授業実践だけに留まらず、新たに始まった情報Iに関する内容や、各校におけるICT関係の話題についても共有することができた。

具体的な学びのエピソード

情報部会

教員が期待する回答からのずれが目立つ。

端末に入力するのに注力し、議論があまりできていない。

身近なテーマとして考えを深められる工夫が必要。

「最終的な考え」も「途中の議論」もデジタル化・ツールの使い分けによって変わる。

動画によるエキスパート資料は生徒のペースで見返すことができる。

デジタル・アナログどちらでもいいが議論が進むエキスパートづくりが大切。

out

in

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則

児童生徒の学びが深まるように、その場面で使う適切なツールを見極める。

未来を拓く「学び」プロジェクト 農業部会 活動報告

(1) 研究開発員数 3名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月8日/オンライン]
 - ・本年度の事業及び教科部会の取組について
- 第2回教科部会 [令和4年8月31日/オンライン]
 - ・研究開発員の教材検討
 - ・参加者による体験と学びのシュミレーション
- 第3回教科部会 [令和4年11月10日/オンライン]
 - ・研究授業についての教材検討
 - ・参加者による体験と学びのシミュレーション (想定)
- 公開授業 [令和4年11月18日/対面]
 - 県立杉戸農業高等学校 高野 知恵 教諭
 - 農業 食品微生物『人間生活と微生物 食中毒・食品衛生』
- 第4回教科部会 [令和5年1月27日/オンライン]
 - ・公開授業を行った高野先生の発表
 - ・先生方の授業実践などの意見交換

(3) 今年度のまとめ

研究開発員が3人と少ない人数での実施となった。公開授業者の授業から教科や学科間の結びつきの重要性が述べられた。特に実践から教員がカリキュラムマネジメントの視点を意識し、関連する教科で何を生徒が学んでいるのか、また、他教科の視点から教職員同士が意見交換する必要性も意識された。教科担当だけでなく、他教科の教員とも協力し合うことで良い授業につながることに気づきを与えた。

具体的な学びのエピソード

農業部会

《学びの実態》

エキスパート活動で、真に学びを深めて欲しい部分(各施設を「そこに」設置する意図)以外での対話が続いてしまう。
《考えられる要因・改善点等》
生徒が資料内の特定の言葉につまづき(固執し)、深い思考と対話にならず、期待する議論に移行しない。

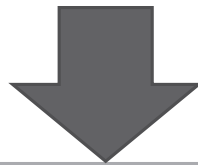
《学びの実態》

日頃の机間巡視では気がつかない、生徒の「進行能力」の高さが読み取れた。想定してよりも、スムーズに進められる。
《考えられる要因・改善点等》
授業では対話的学習にかけられる授業が少なく、生徒の既有知識以外の部分(今回は進行能力)を見積もりにくい。

《学びの実態》

シグソー活動でのエキスパート活動の共有、クロストークでの全体共有が乏しかった。
《考えられる要因・改善点等》
学習方法に対して不慣れ(方法への習熟度の低さ)であり、ICT機器の操作についても浸透していない。

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則



- ① エキスパート活動では「何にフォーカスをあてるのか」「どの視点の議論を深めるのか」を常に生徒が意識できるよう、適切な箇所への明示や活動中の声掛けの工夫が必要である。
- ② 既有知識の見積もりから学習課題の難易設定を心掛けていたが、今度は同時に対話的能力の見積もりもして、与える課題を判断する。
- ③ 対話的な学習方法に生徒に慣れさせることと、タブレット端末やプロジェクトなど、ICT機器の積極的な活用で学習の効果を高める。

未来を拓く「学び」プロジェクト 工業部会 活動報告

(1) 研究開発員数 21名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月11日/オンライン]
 - ・年間計画の説明
 - ・情報交換 (過去の実践報告や取組みの方向性など)
- 第2回教科部会 [令和4年10月25日/オンライン]
 - ・公開授業について(授業者より公開授業の内容説明)
 - ・協議「各自の実施内容について」(授業概要の説明及び実践のポイント)
- 公開授業 [令和4年11月29日/対面]
県立新座総合技術高等学校 坂田希究 教諭
工業・デザイン『ビジュアルデザイン』
- 第3回教科部会 [令和5年2月3日/オンライン]
 - ・公開授業の振り返り及び各委員の振り返り
 - ・来年度に向けて

(3) 今年度のまとめ

今年度は集合型での公開授業を実施し活発な研究協議を行った。3回の教科部会は全てオンラインで実施した。部会の中で研究開発員間の情報交換及び交流のために研究協議の時間を設定した。授業案や教材、実践に向けての注意点について活発な協議が行われた。

具体的な学びのエピソード

工業部会

Chromebookを使うことで、気になることをすぐに調べることができた。

英語を読み込めるように工夫すると良い。英語を使用することでポイントが伝わりやすく、ねらいがはっきりする。

英語を使うというハードルと、内容の難しさで2つのハードルができてしまった。

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則

- ・ICT機器に慣れることによって、わからないことをすぐに調べる習慣が身につく。
(日ごろからChromebookを活用、教材・資料のQRコード表示など)
- ・内容に集中できるよう、授業のフォーマットに合わせた支援を準備する。

未来を拓く「学び」プロジェクト 商業部会 活動報告

(1) 研究開発員数 20名

(2) 今年度の主な取組

- 第1回教科部会 [令和4年7月25日/オンライン]
 - ・今年度の予定、計画、目標設定などを協議。
 - ・事務連絡
- 第2回教科部会 [令和5年1月30日/オンライン]
 - ・授業実践報告
 - ・情報交換、助言

(3) 今年度のまとめ

今年度は公開授業は行わず、各校での授業実践、そして、第2回はそれぞれ研究開発員の報告会となった。アドバイザーとして浦和商业高校内田校長を迎え、協調学習マイスターの松本教諭（大宮商業）とマイスター研修受講経験者の片桐教諭（所沢商業）の2名が中心的存在となって協議を進めた。他に3名の研究開発員も出席し、活発な情報交換及び意見交換ができた。来年度以降も、商業の教科特性である「検定試験の学習と年間指導計画」に協調学習の余地を見出し、生徒により深い学びを促すことを目指すことでまとまった。

具体的な学びのエピソード

商業部会

＜話し合い活動＞

- ・前時までの知識が定着していなかったため、想定した通りの話し合いがなされなかった。
- ・話し合いの内容をまとめようとするときに何を話したか忘れてしまうことがあった。

＜資料の読み込み＞

- ・資料の情報量が多くなると、生徒が、内容を読み取れなかった。

＜書き込み・記述＞

- ・生徒のメモ書きや記述の量にばらつきがある。

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則



- ・エキスパートの資料と問いをシンプルにする。
- ・計画をしっかりと立てて、単元の流れで実践する。

未来を拓く「学び」プロジェクト 看護部会・福祉部会 活動報告

(1) 研究開発員数 (看護部会) 3名・(福祉部会) 4名

(2) 今年度の主な取組

■第1回カンファレンス [令和4年7月21日/オンライン]

- ・昨年までの取組について情報共有。
- ・本年度の取組について打合せ。
本年度は、各自で研究を進め、第2回のミーティングの際に授業実践について報告し合う旨を申し合わせた。

■教科部会ミーティング [令和5年2月6日/オンライン]

- ・各校での授業実践について報告。
- ・授業デザインについて。
- ・情報、意見の交換。

(3) 今年度のまとめ

今年度は、個人での授業研究を中心に活動を行った。
看護科、福祉科は、少数の設置校であり、研究委員の数も少数なのが現状である。この中で、研究授業を行うのは厳しい現状がある。
何年かサイクルでの研究を進める必要がある。これらのことが来年度以降の課題であると考ええる。

具体的な学びのエピソード

学校、学科や学年を越えての対話を通して、多様な視点があることがわかり、根拠の大切さを生徒に意識させることができた

視点が定まらない中での対話になり、中身が深まらなかったグループがあった。

実習直後の授業であり事前準備に至らない部分があった

これらのエピソードから言えそうな授業デザイン原則

- ・意見が異なる立場の議論を通して新たな価値を見いだすために、授業のねらいを共有する。
- ・年間指導計画と照らし合わせ、適切な学年、時機や教材を検討する。

(4) 今後に向けて

「未来を拓く『学び』プロジェクト」は、今年度から年度を限った特別な事業ではなく、県立学校の恒常的な授業改善のための取組として位置づけられるようになった。今後は、これまでの資産を活用し、より包括的な授業改善の試みの軸としてプロジェクトの取組を位置づけ、活用していく道筋を考える必要がある。

これまで築いてきたプロジェクトの資産は、大きく二つあるだろう。

一つは、授業改善の共通言語としての協調学習、知識構成型ジグソー法である。関わり方に濃淡はもちろんあるが、県内すべての先生方が知識構成型ジグソー法を知っており、その手法を手掛かりに「主体的、対話的で深い学び」の具体的なイメージを持つことができるようになってきている。そのため、協調学習、知識構成型ジグソー法は、生徒主体の学習に関する様々な取組について埼玉県先生が考える上で一つのベースとして機能するものにもなりうる。例えば、今年度初任者研修の最終報告会では、観点別評価、単元デザイン、カリキュラム・マネジメントといったテーマについて、自身のジグソー実践を具体的な切り口として教科を超えた協議を行った。他教科の先生の初めて聞く実践の話でも、ジグソーという共通のベースがあるためお互いに理解しやすく、関心をもって聞くことができる。また、国際バカロレアの研究事業でもジグソー法を活用したり、このプロジェクトで身につけた授業デザインの視点を活用したりされているケースもあった。

もう一つは、この共通言語を媒介にした先生同士のつながり、それも学校を超えた、そして世代を超えたナナメのつながりである。これまでも部活動等でこうしたつながりを持っておられる先生は少なくなかったが、授業について多くの先生がこうしたつながりを形成できているのは大きな財産である。

これらの資産を基盤に、より包括的な授業改善の試みの軸としてプロジェクトを根付かせていくための次の課題は、授業研究のスタイルの定着であろう。生徒の学びに着目した授業研究のスタイルを取り入れ始めた矢先にコロナ禍に突入し、教科間で足並みをそろえて取組をじっくりと進めることが叶わなかった。この点については、今年度を仕切り直しの一年として、まずは事務局担当指導主事らコアメンバーがファシリテーターを行う形で手応えを得ることができた。そのノウハウも整理している。次年度は、各教科担当指導主事やマイスター教員にこうしたファシリテーターとしての役割を広げていきたい。

そのためには、校内や教科部会の組織的な取組としての授業研究をどう進めればよいかという課題により多くの先生の目を向けることも重要だろう。現状マイスターの先生の関心も自身がよりよい授業を行う、他の先生の個別具体の授業にアドバイスをするといった点が主眼になっている。こうした関心ももちろん重要だが、それとまた別の角度から、組織的な取組としての授業研究をどう進めればよいか、そのマネジメントやファシリテーションに焦点をあてたマイスターや指導主事、校内のミドルリーダーの先生の学びの場を組織することができれば、プロジェクトの取組がカリキュラム・マネジメント等各学校の授業改善における次の課題にも自然とつながっていくはずである。

4. 本郷学習科学セミナー ―連携の核を育てる―

(1) 「本郷学習科学セミナー」のねらい

「本郷学習科学セミナー」は平成26年度より開始したCoREF主催の月例研究会である。CoREFと連携する教育委員会等において「知識構成型ジグソー法」を用いた協調学習の授業づくりプロジェクトの中核を担う先生方を主な参加者とし、学習科学に基づく継続的な授業改善を支えるための自治体や学校の枠を超えた学びの場として運営されている。カリキュラムと各回プログラムは、その年度の参加者と協調学習の授業づくりプロジェクトの課題に応じて、CoREFがデザインし、運営もCoREFが行っている。

セミナーの実施目的は、「人はどのように学ぶか」やそれに基づいた授業デザインに関する実践的見識をもとに協調学習の授業づくりを推進するミドルリーダーの育成を支援すること、また、授業研究の質向上を支えるネットワークの構築および発展を支援することである。CoREFでは、2つの目的の達成をとおして、授業改善のための取組を、学びのデザインと実践及び振り返りのサイクルをとおして人の賢さを探究する「学習科学」の研究として日常化させ、参加者の主体的な取組として継続的に発展させていきたいと考えている。

連携する教育委員会のうち、埼玉県、鳥取県、鳥根県では、授業改善を推進するミドルリーダーの資格認定制度を設け、本セミナーへの参加を認定要件の1つとしている。こうしたシステムレベルの工夫とも連動させながら、授業改善ネットワークの核を育てる学びの場としてデザイン、運営されているのがこのセミナーである¹。

(2) スケジュールおよび参加者

令和4年度の「本郷学習科学セミナー」の日程と参加者数を表20に示す。コロナ禍以後、基本的にはオンライン形態による開催（資料電子データの事前配布とZoomでのWeb会議）となっている。ただし今年度は、一部オンラインと対面の併用で実施することができた。

各回の参加者は基本的には30名前後であり、半数以上が、昨年度以前からセミナーに

回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	
日付	5/28	6/18	7/23	8/20	9/24	11/26	12/17	1/7	3/4		
形態	オンライン	オンライン	オンライン	併用	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	併用		
人数 (継続)	29 (14)	29 (15)	35 (17)	29 (23)	26 (16)	15 (11)	26 (17)	28 (22)	未実施	77 (41)	
内訳	教員	18	18	19	20	17	7	15		21	49
	その他	11	11	16	9	9	8	11		7	28

表20 令和4年度本郷学習科学セミナーの日程と参加者数及びその内訳

¹ 昨年度までの本セミナーの展開については、平成26年以降の報告書第1部第1章（本書巻末DVDにも収録）に詳しい。あわせてご参照いただきたい。

継続して参加している。継続参加者の多くは、埼玉県または島根県の資格取得者である。また、参加者の内訳については、教員とその他に分けて示した。「教員」は教諭、指導教諭や非常勤講師等、小中高等学校で実践を行っている立場の参加者である。「その他」は、指導主事などの教育行政関係者、学校管理職、研究者などである。教員以外の参加者には、かつて教員として協調学習の授業づくりを推進し、ミドルリーダーの資格認定を経て今は別の立場でプロジェクトにかかわってくださっている方も多し。以上のような参加者内訳からは、本セミナーが、教員だけでなく、様々な立場で協調学習の授業づくりプロジェクトの核を担う人々が、立場や地域を超えて継続的に学び合う場となっていることがうかがわれる。またこうした参加状況が実現していることは、(1)に記載したセミナー実施目的が、参加者を派遣する自治体等の関係者にも浸透しつつある結果と言えそうである。

なお、参加者の地域分布としては、首都圏外も含む1都1府7県であった。1人あたりの参加回数も継続して多かったところから、場所や時間の制約が少なく、少ない費用で参加できるオンラインのメリットも引き続き生きていると考えられる。

(3) 令和4年度「本郷学習科学セミナー」年間カリキュラム

令和4年度のカリキュラムを表21、22に示す。今年度も、カリキュラムは昨年度以前から一貫した方針でデザインした。具体的には、参加者一人ひとりが学びの仮説検証による授業研究のサイクルをより質高く回せること、サイクルを回すことで見えてきた気づきを教科やプロジェクトの単位で生起している課題と結びつけて言語化し、取組の次の指針を得ることを目指し、下記に示す4つの要素を組み合わせている。

要素は表のカッコ内に示した。また、プログラムタイトルの後に【新】とあるものは、今年度新規に開発したプログラムである。回の欄には半日/全日の別を記載した。オンラインによる活動の負荷や旅費の効率性を考慮し、オンラインと対面併用の形態で実施した回を全日のプログラムとした。

- I. 「知識構成型ジグソー法」による協調学習の授業づくりの基本的な考え方に関する内容
- II. 学びの質を支える授業研究の考え方や進め方に関する内容
- III. 学びの質を支える授業研究の実践
- IV. 協調学習の授業づくりから見えてきたことを周辺の様々な課題に活用してみる試み

年間のカリキュラムは、「知識構成型ジグソー法」と「仮説検証型授業研究」による協調学習の授業づくりのねらい、基本的な考え方と手順等を再確認するプログラムから始まる。ミドルリーダーの育成に主眼があるため、CoREFプロジェクトにおける協調学習の授業づくりに各自で取り組んだ経験があることを前提に、取組の概要や特性を自身で言語化することを出発点としている。続いて、第3・4回では、近年の新しい教育課題に触れ、取組をより広い視野から見直してみるプログラムを位置づけている。今年度はGIGAスクール構

想の進展を受け、大規模テストデータの活用や授業研究での ICT 活用に焦点を当てた²。

更に、9月以降各学校等で公開授業等の機会が増える時期に合わせ、第5-8回では、「学びのシミュレーションによる授業案検討」「実践報告ラウンドテーブル」のプログラムを

回	プログラム	内容
1 (全日)	<p>〈午前の部〉 講義・演習「一人ひとりの学ぶ力を引き出す授業のデザイン」(Ⅰ)</p> <p>〈午後の部〉 講義・演習「主体的・対話的で深い学びの質を支える授業研究の進め方」(Ⅱ)</p>	<p>〈目標：授業づくりのビジョンと前提の共有〉</p> <p>午前の部では、「知識構成型ジグソー法」を使った協調学習の授業づくりの基本的な考え方と目指す学びのイメージ、手法の特徴等を確認した。</p> <p>午後の部では中学校社会の授業の事前研・授業観察・事後研を、説明を聞きながら実際にやってみることで、児童生徒の学びの想定と検証を軸とした授業研究(仮説検証型授業研究)の進め方とポイントを学んだ。</p>
2 (半日)	<p>講義「このセミナーで目指すこと」(Ⅰ)</p> <p>教科部会「『知識構成型ジグソー法』による協調学習の授業づくりにおけるデザイン原則の交流」(Ⅲ)</p> <p>講義・演習「協調学習の授業づくり説明スライド作成」(Ⅰ)</p>	<p>〈目標：これまでのまとめと新たなスタート地点の共有〉</p> <p>参加者のこれまでの実践から見えてきた学びの仮説を各教科で共有すると共に、「協調学習の授業研究」とはどんなものかをスライド説明にまとめる活動をとおして、引き起こしたい学びの姿「知識構成型ジグソー法」の役割/授業研究の進め方といった視点から確認した。</p>
3 (半日)	<p>講義・演習「テストから見える学び・見えない学び」(Ⅳ)</p>	<p>〈目標：学びの質を支える授業研究の観点から大規模ペーパーテストの活用可能性を見直す〉</p> <p>「全国学力・学習状況調査」の正答数別類型割合グラフ(Good-Poor 図)を題材に、「テスト」で得られるデータから「子どもたちはいかに学ぶか」についてどんな情報が得られるかを見直し、それをもとに、アクティブ・ラーニングの視点にたった授業改善において「テスト」をいかに活用できるとよいかを検討した。</p>
4 (全日)	<p>〈午前の部〉 教科部会「授業デザイン検討」(Ⅲ)</p> <p>〈午後の部〉 講義・演習「学びの過程を『見える化』する」「学瞰システムの活用」(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)【新】</p>	<p>〈目標：「仮説検証型授業研究」における ICT の活用〉</p> <p>午前の部では、第5回で行うシミュレーションを見越し、教科部会で授業のアイデア検討や意見交換を行った。</p> <p>午後の部では、主体的・対話的で深い学びを引き出し、見とる授業研究を ICT の力も借りてより良く進めるための方策について、体験的に検討した。</p>
5 (半日)	<p>教科部会「学びのシミュレーションによる授業案検討」(Ⅲ)</p>	<p>〈目標：「仮説検証型授業研究」による授業デザイン検討〉</p> <p>参加者が持ち寄った授業デザイン案を題材に、教科 MIX グループによる教材案体験と子どもの学びの想定と、想定に基づく教科部会での教材改善策の検討という2つの活動をとおして、学習者目線でどんな学び/つまずきが起こりそうかを予想し、それに基づいて授業の改善点を考えた。</p>

表 21：令和4年度「本郷学習科学セミナー」年間カリキュラム (1/2)

² 「学瞰システム」については、本報告書第2部第4章3節等に詳しい。

回	プログラム	内容
6 (半日)	「実践報告ラウンドテーブル」2事例(Ⅲ) 教科部会「授業案検討と実践紹介」(Ⅲ)	〈目標:「仮説検証型授業研究」による事前検討と事後協議〉 ラウンドテーブルでは、教科を超えたグループで「仮説検証型の授業研究会」の進め方による実践報告と協議を行った。教科部会では、その他検討中の授業案の検討や簡単な事例紹介を行った。
7 (半日長め)	「実践報告ラウンドテーブル」4事例(Ⅲ) 教科部会「授業案検討と実践紹介」(Ⅲ)	〈目標:「仮説検証型授業研究」による事前検討と事後協議〉 ラウンドテーブルでは、教科を超えたグループで「仮説検証型の授業研究会」の進め方による実践報告と協議を行った。教科部会では、その他検討中の授業案の検討や簡単な事例紹介を行った。
8 (半日)	「実践報告ラウンドテーブル」6事例(Ⅲ)	〈目標:「仮説検証型授業研究」による事前検討と事後協議〉 教科を超えたグループで「仮説検証型の授業研究会」の進め方による実践報告と協議を行った。
9 (全日・未実施)	〈午前の部〉 教科部会「『知識構成型ジグソー法』による協調学習の授業づくりにおけるデザイン原則の生成」(Ⅲ) 〈午後の部〉 講義・演習「学躰システムを活用した仮説検証型授業研究」(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)【新】	〈目標:次年度の見通しを得る〉 ※午前の部では、第2回と同様の活動を、今年度の授業研究実績に基づいて改めて行う。 午後の部では、第4回で実施した講義・演習についてGIGAスクール構想の実現を見越した学習環境(内田洋行Future Classroom)の設備も活用して実施することで、ICTを活用した授業研究における学びの仮説検証の充実について体験的に学ぶ。

表 22: 令和4年度「本郷学習科学セミナー」年間カリキュラム(2/2)

連続で実施し、学びの質を支える授業研究の実践をじっくり行う。最終の第9回は、第2回で実施した「『知識構成型ジグソー法』による協調学習の授業づくりにおけるデザイン原則の生成」を、今年度の授業研究の成果をふまえて改めて行うことで、参加者一人ひとりが今年度の研究の深まりを実感すると共に、授業づくりにおける次の課題を共有する。併せて、GIGAスクール構想といった近年の新しい教育課題にも改めて触れておくことで、次年度の取組へのモチベーションを高める。

(4) 活動の実際—立場や地域を超えて学びの事実から学ぶラウンドテーブル—

次に、プログラムの一部を取り上げ、活動の具体を紹介する。立場や地域、経験を超えた学び合いのイメージが見えやすいプログラムとして「実践報告ラウンドテーブル」(以下RT)を取り上げる。

RTは、教科を超えたやや大きなグループで「仮説検証型の授業研究会」の進め方による実践報告と協議を行うプログラムである。毎年度10月頃に当該年度のセミナー参加者全員を対象に報告希望者を募る。申し込みは任意だが、ミドルリーダーの資格認定要件の一環としてセミナーに参加している参加者には報告を推奨している。そこで、報告内容は毎年度の参加者に応じて変わり、参加者は自身の専門とする校種・教科に関係なく、様々な内容について協議を行うことになる。ただし、基本的な進め方は「仮説検証型授業研究」

<p>〈一実践につき 75～90 分程度で実施〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業者より授業のねらいと想定・デザインの仮説について説明 ○協議1：参加者が学習の予想を行う ○授業者より実践結果の報告（授業前後の変容など、児童生徒の学びの事実を確認できる資料を提示） ○協議2：実践結果に基づく授業デザインの振り返り

表 23 RT の基本的な流れ

の事後協議に準じて統一し（表 23 参照）、ファシリテータは CoREF スタッフが務める。そのため、報告の基本的な要件として、「知識構成型ジグソー法」を活用した1つの授業実践を中心に報告内容を準備すること、授業のねらいと事前に想定していた学習プロセスについて説明できること、授業を受けた児童生徒の学びの事実を把握できる資料（最低限、授業前後の変容の実例を含めた「授業者振り返りシート」）を準備することを報告者に求めている。

表 24 に今年度の報告内容の一覧を示す。今年度は5教科12実践の報告があった。「新/継」は報告者が今年度初めて本セミナーに参加したか、昨年度以前から継続的に参加しているかの別を表す。

以下、協議の実例を示す。一般的に、新規の参加者が報告を行う場合、主要な問題関心は1コマの授業においてよりねらいに即した学びを実現するための課題や資料づくり、ファシリテーションのコツなどにあることが多い。そこで、協議2「授業デザインの振り返り」では、実践者のねらいを改めて整理すること、報告で提示された実際の生徒の解答の変容をもとに実際に起こった学びがねらいに比べてどうだったかを解釈すること、実際に起こった学びが授業デザインとずれていた場合の改善点・改善策検討などが主な論点となる。

例えば、通し番号(5)「確率」の回のある班の協議では、報告者からのねらいの確認、授業前後でねらいにせまった1課題の残る生徒の解答例をもとにした実践報告の後、まず数学主幹教諭が、ねらいと学びの事実のズレの原因として「発問」の課題を指摘した。これを受け、理科指導主事が報告者から示されたねらいを、生徒に期待する発話や思考のレベルで具体的に表現し直した。これに対し、ベテラン数学教諭が、ねらいと単元の学習事項との兼ね合いが要検討である旨を指摘した。理科指導主事はそれをふまえ、「『仮に』報告者のねらいの実現をねらうとしたら？」というスタンスで発問の具体案検討を促し、数学主幹教諭と中堅数学教諭が各自アイデアを出した。

このように、1コマの授業の振り返りに焦点がある場合でも、同一教科の参加者がねらいや授業デザインの改善策について教科の視点から検討するだけでなく、他教科の参加者がねらいを学びの具体像で翻訳したり、同一教科の参加者に提案を促すファシリテータの役割を担ったりなど、このプログラムでは、参加者が自身の経験や専門性に即した形で授業研究に主体的に参画している。

回	通し番号、内容、付属 DVD 収録記号 (収録有の場合のみ)	対象	教科	新/継
6	(1) 大地のつくりと変化「屏風ヶ浦の地層誕生生物語をつくろう」(理科 A1305)	小学校	理科	継
	(2) 拡大と縮小「食器(小)の2倍の直径を持つ食器(大)を水でいっぱいにするのに、食器(小)で何杯の水をいれればよいか」(算数 A1312)	小学校 (学外)	算数	継
7	(3) 『こころ』『なんにも知らないお嬢さん』は、実は「策略家」なのではないか。自身の立場を、根拠を明らかにして説明しよう」(国語 S1211)	高校	国語	継
	(4) 『鼻』「芥川が本作をとおして表現した人間の姿とは、どのような姿か」	高校	国語	新
	(5) 確率「AさんとBさんがあるゲームで続けて試合を行い、先に3勝した方を優勝とする。過去のデータから、『Aさんが優勝したとき、Aさんが初戦を勝っている確率』が75%となっていた。このゲームで、Aさんが優勝するためには初戦に勝つことは重要であるといっているか？理由も考えて答えよ。ただし、AさんとBさんが試合をすると、何も影響がなければAさんは50%の確率で勝つものとする」(数学 S1306)	高校	数学	新
	(6) STEAMの統合的学習と数学的思考力(提案)	高校	数学	継
8	(7) 『土佐日記』「紀貫之は、なぜ女のふりをして日記を書いたのだろうか」(国語 S1323)	高校	国語	継
	(8) 『枕草子』『この宮の人』にふさわしいのはどんな人か」(国語 S1324)	高校	国語	継
	(9) 日本史「なぜ、農業技術は向上したのに、食料生産を行う農村が飢饉になったのだろうか」(地歴 S1303)	高校	地歴	継
	(10) 歴史総合・近現代史「なぜ世界恐慌後にアメリカ合衆国で福祉国家の原型ができあがったのか」(地歴 S1304)	高校	地歴	継
	(11) 日本史「誰が太平洋戦争を“選択”したのか？」(地歴 S1305)	高校	地歴	継
	(12) 神経系と内分泌系による調節/情報伝達「脳死とは何か。また、日本の臓器移植の現状を説明せよ」(理科 S1303)	高校	理科	継

表 24：令和4年度のRT一覧

更に、セミナーに継続的に参加し、授業研究のサイクルを回し続けている参加者が報告を行う場合には、問題関心も変わり、提示される資料も変わる。そうなればまた協議の様子も変わってくる。続いて、通し番号(10)歴史総合・近現代史「なぜ世界恐慌後にアメリカ合衆国で福祉国家の原型ができあがったのか」の報告の様子を紹介する。

この報告では、『問いの構造図』に基づく授業デザインを軸に、歴史的事象の因果関係について理解を深める」という試みの成果及び課題が報告された。この試みは、報告者が教科教育や認知科学に関する専門研究を参考に授業研究に取り組むなかで見出した報告者独自の問題関心によるものである。「問いの構造図」に基づく授業デザインとは、本時のメインの課題に答えるために探究すべき課題を階層的に整理し、エキスパート活動とジグソー活動に割り振っていくデザインである。報告者は、こういった学習プロセス支援の機能を詳細に振り返るため、6名分の授業前後の解答例、クラス全体の評価分布、ジグソー班の対話記録の抜粋など、多様なデータを示しながら実践結果を報告した。

その結果、協議では表25のよう意見が交流された。ここでは、報告者が提示した対話記録に登場した「O子さん」の学びの事実をもとに、理解の深まりにつながる学習活動の生じるメカニズムや支援のあり方が詳細に協議されている。自身でも現在授業づくりに取り組んでいる他教科の教諭は、「エキスパートの分量を減らして対話の時間を増やす」「内容を自分の言葉にするための『ゆとり』を持った資料や活動のデザイン」など、「学習者どうしの理解の深まりにつながる対話」を支えるための、教科を超えた方策について意見を出している。一方、認知科学の専門研究を踏まえてこの実践に取り組んだ報告者は「素朴理論」などの概念も参照しながら、O子さんの学びの意味を丁寧に解釈している。更に、研究者が「様々なタイプの知識の漸進的な変容」という観点から報告者の解釈を整理し、支援策についての議論とつないでいる。対話記録を媒介として、参加者の間で、授業で実現したい「協調学習」のイメージを豊かにしつつ、授業デザインの基本方針を確認するような協議が展開したと言えるだろう。

(5) 今後に向けて

以上、様相の異なる2つのRT協議の様子を紹介した。ここで言いたいことは、2つの協議のどちらがよりレベルが高いということではない。協調学習の授業づくりを推進するミドルリーダーには多様な資質が求められる。自身の教科の授業づくりについてデザインの提案やねらいの妥当性について意見を出せることは勿論、他教科の授業研究において学習者目線の意見を出したりファシリテーションができたりすること、さらには「協調学習」という実現したい学びのイメージを豊かに語れること、その豊かなイメージに基づいて教科を超えた授業デザインの指針を表現できることも重要である。こうした多様な資質・能力を育成するには、協調学習の授業について、学びの事実を共通の媒介にしつつも、様々な観点から繰り返し語れる場が重要である。これが当セミナーの提供したい学びの場の基本的なイメージである。

他方、セミナーで育成するミドルリーダーの資質は、実際に各参加者の所属する学校や

中堅英語教諭	<p>対話分析まで見せてくださったので、気づきが多かった。対話をとおして解答が修正されたO子さんの話があったので、エキスパートの分量を減らして対話の時間を増やせるとさらに深まりが期待できるのではないかと思った。</p>
数学主幹教諭	<p>やはりこちらも、O子さんの話題になった。彼女が資料はきちんと読めていたにもかかわらず、(福祉国家の原型が出来上がった理由について)「ルーズヴェルトの美しい心」というところで納得したのはなぜかというところで、答えに対する納得感というキーワードが挙げられた。資料の内容を伝えることはしっかりできていたものの、(知ったことが)心にひっかからなかったので、いざ課題に答えようとする、自分が納得しているほうの「美しい心」という意見が出てきてしまったということではないか。</p>
報告者	<p>ルールを敷いたところをしっかりと考えさせるだけでなく、把握した内容を自分の言葉にするような「ゆとり」のある資料づくりが重要かもしれない。</p> <p>O子さんの考えは、「出てきてしまった」というよりは、出たからこそ理解が深まったというように評価しています。彼女なりの素朴理論ですよね、それが出たからこそ理解の深まりにつながったと考えています。これが、教師主導の掛け合い授業だと、O子さんの素朴理論は表出もされないの、最終的に書けたとしても、素朴理論が修正されないまま残って、やがてはそっちに戻ってしまうということになると思うんですよね。じゃあ何が、その素朴理論を出し、それだけで終わらずに、理解を深めようと思わせたのかということ、協調的な対話場面だよね、というのも、その次のB太、C太との対話にも現れているので、「一人では十分な答えが出ない問」をみんなで探究するような状況が重要ということではないか。</p>
研究者	<p>深い学びの場面では、私たちの頭の中で、様々なレベルの知識の構造的変化が起こっていると考えられる。一口に知識と言っても、「いつどういう出来事が起こったのか」というような個別具体的な知識もあれば、いま「素朴理論」とおっしゃったような、「福祉国家とは何か」を説明するモデルとなるような知識もある。理解を深めるプロセスでは、個別具体的な知識の取入れや関連づけを繰り返しているうちに、モデルの変化が少しずつ進んでいくはず。O子さんの場合は、色々な問を手掛かりに資料から具体的な知識を取りこみつつ課題について考える過程で、「美しい心が歴史を動かす」モデルを言葉にすることができた。言葉になれば、細かい知識だけでなくモデルも変化の対象になり、さらに理解が深まっていったと言えそう。</p> <p>だから、ある程度の時間やゆとりも必要だし、その時間のなかで、間違いも含めていろんな知識を表現したり/聞いたりを行き来し続ける過程を支えるデザインを、しっかり作りこんでおくことも大、両方大事になるのではないか。</p>

表 25 令和4年度 RT 継続参加者の報告における協議の様子(抜粋。カッコは執筆者補足)

自治体等の取組のなかで発揮されてこそ意味のあるものである。そのためには、ミドルリーダーの資質育成の成果をより丁寧に評価し、取組をマネジメントする行政関係者などに普及していくことも重要になる。次年度以降の課題としたい。

5. ジュニアドクター育成塾事業

(1) 事業の概要

「ジュニアドクター育成塾事業」は、科学技術振興機構（JST）が主催する、小中学生を対象とした理数情報分野における次世代人材育成の委託事業であり、平成29年度から継続的に展開されている¹。

東京大学は、NPO法人「日立理科クラブ」との連携による「アクティブ・ラーニング（AL）と専門家シニアによるきめ細かい指導を活用したジュニアドクターの育成」（H29 - R3）の企画を経て、今年度から新たに「産官学連携によるSTEAM学習²を通じた未来の科学者育成」の企画をスタートした。CoREFは、東京大学で人材育成のための社会連携を担う「生産技術研究所次世代育成オフィス（ONG）」と協力してプログラムの企画運営等を担当している。また、「日立理科クラブ」は日立製作所の退職者を中心に同市周辺の地域に密着した理数教育支援を10年以上着実に取り組んできた実績を持つ組織であり、今年度からの企画でも引き続き密に連携をいただいている。

企画の目標は、STEAM的な見方、考え方と未来を拓く資質・能力を併せ持ち、自ら「問うべき問い」を立てて仲間と探究できる未来の科学者の育成をとおして、小中高にわたるSTEAM資質・能力育成のプロセスモデル及び、シニア技術士人材を活用したSTEAM人材育成プログラムのモデルケースを提案することである。対象は理数情報分野に高い関心を持つ児童生徒に絞った企画になるが、育成したい人材の具体像は協調学習の授業づくりプロジェクトで育てたい児童生徒像と重なっている。また、様々な地域で科学教室の実施などによる草の根教育支援に携わるシニア技術士人材ネットワークを活用する体制づくりの方針は、協調学習の授業づくりプロジェクトにおけるネットワーク・オブ・ネットワークスの考え方を応用したものである。

他方、特定の教科内容に関連する幅広いコンテンツを扱い、多様なアプローチを用いて教科も横断した総合的な育成を試みられること、また、こうした試みをとおした学習者の資質能力の育ちのプロセスを学年や学校段階を超えて見とることができることは、学校外の教育活動の強みである。そこでCoREFでは、協調学習の授業づくりプロジェクトで開発された教材や評価手法、授業研究の考え方を活用しながらこうした企画を実施し、得られた知見をプロジェクトにも還元することで、子どもたちが学校内外の学びをつなぎ、資質能力を発揮しながら伸ばし続ける環境の構築に貢献したいと考えている。

以下、今年度からの新たな展開を中心に活動について報告する。

¹ 令和3年度までの活動については、各年度の報告書第1部第1章（巻末付属DVDにも収録）を参照いただきたい。

² 「STEAM」とは、Science, Technology, Engineering, Art, Mathの頭文字。5つの領域の密接な関連を意識し、統合的に学習していこうとする考え方が、理数情報教育分野において現在1つの潮流となっている。

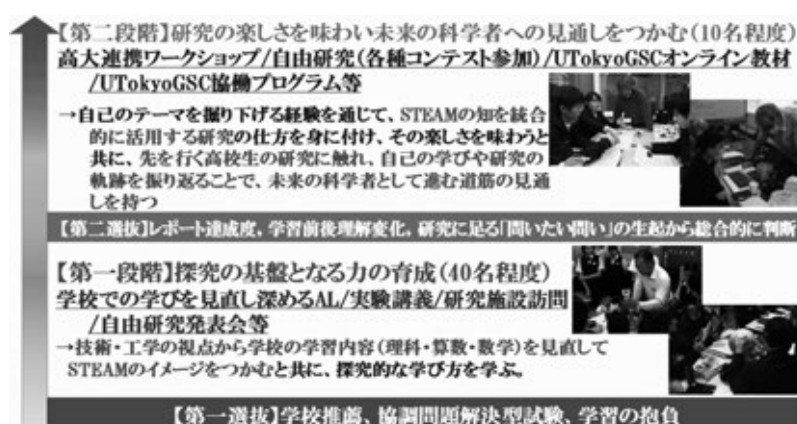


図16 ジュニアドクター育成塾(東京大学)のプログラム

(2) プログラムの概要

受講生の育成のためのプログラムは、事業スキームに即して2段階で構成される(図16)。

第一段階育成プログラムでは、学校での学びを見直し深めるAL/シニア技術士による実験講義/研究施設訪問等により、技術・工学の視点から学校の学習内容(理科・算数・数学)を見直し、STEAMのイメージをつかむと共に、探究的な学び方を学ぶ。そのための一つの柱が「知識構成型ジグソー法」による協調学習である。

第二段階育成プログラムは、シニア技術士の指導による「自由研究」と、CoREFが新型高大連携事業として展開してきた「実践学講座」をベースとした「高大連携ワークショップ」、東京大学が企画・運営する高校生向けの人材育成事業であるグローバル・サイエンス・キャンパス(GSC)との連携によるプログラムを主な内容としている。「自由研究」はコンクールや学会における成果発表を視野に、実験やシミュレーション、工作等をとおして自身の設定した課題を探究する活動である。「高大連携ワークショップ」は、SSH,SGH高校生との協調問題解決、大学院生、研究者との交流を通して大学レベルの科学的探究に触れるプログラムである³。加えて、GSC連携プログラムでは、GSC受講生の自由研究成果発表会を聴講し、事後交流会を行ったりすることで、先を行く高校生の研究に触れ、未来の科学者として進む道筋の見通しを持つことを目指している。

第二段階育成プログラムは、第一段階育成プログラムを1年以上受講した受講生で第二段階選抜試験を通過受講者のうち希望者を対象としている。ただし、第二段階へ進んだ受講生も、第一段階のプログラムは受講できる。なお、育成塾は中学校卒業時に修了となるが、ONGではJSTが主催する高校生対象の次世代育成人材事業「グローバルサイエンスキャンパス(GSC)」を実施しており、修了生には応募を勧めている。

³ このプログラムの基盤となった「実践学講座」については、平成25-30年度の報告書第1部第1章(本書巻末DVDにも収録)を参照いただきたい。

	平成30-令和2年度	令和3年度
取組	「川口サテライト講座」 「日立教室」プログラムの一部を転用した1-2日程度の科学教室を年に1-2回程度開催	「ジュニアドクター育成塾@川口」 月例科学教室へ発展。実験講座は「日立教室」プログラムの録画視聴
体制	CoREF・近隣地域のシニア技術士・ 川口市教育委員会関係者	CoREF・近隣地域のシニア技術士・ 川口市教育委員会・川口市立高校附属 中学校
成果 (○) 課題 (×)	○当該地域での理数情報分野のハイレベルな学習機会に対する潜在的ニーズ確認 (×) 質の高い「実験講座」を実施できるメンターの育成と定期的確保、マネジメント	○市立学校の広報活動と取組を連携させることで、会場と企画運営人員の確保 ○「日立教室」プログラム視聴をとおして、近隣知識のシニア技術士の「実験講座」準備

表26 ジュニアドクター育成塾「川口教室」立ち上げの経緯

(3) 令和4年度の展開—「川口教室」の立ち上げ—

育成プログラムの実施拠点は、昨年度まで日立市教育プラザ（日立教室）1か所だったが、今年度より「日立教室」と「川口教室」の2教室展開とした。これは、条件の異なる地域における複数ケースの比較検討や、ケース間の連携協力の効果検討をふまえ、より実効性・汎用性の高いモデルケースの提示・普及することを目指したためである。

とは言え、「川口教室」は今年度急にスタートしたわけではない。立ち上げには4年間の準備期間があった。表26に経緯を示す。出発点は平成30年度に実施した単発イベントの科学教室である。事業を主催するJSTでは、平成29年度当初から、取組の成果を広く普及させることを目指していた。そのためCoREFでも「日立教室」の様子を協調学習の授業づくりプロジェクトで連携させていただいている自治体・学校にご紹介するなどして、企画の横展開の可能性を探っていた。その結果川口市教委及び、近隣地域のシニア技術士のご協力を得てイベントを実施するはこびとなったのである。これに思いのほか多くの参加があり、また参加したいという声も大きかったため、3年間は同規模のイベントを継続的に実施しながら、今後のより良い展開について検討を重ねた。イベントを継続的に展開する過程で、地域の実態に即した成果と課題が具体的に明らかになり、成果を発展させながら課題も解決していくための、無理のない企画運営体制が次第に整っていった。その結果、今年度は理数教育支援について長年の実績を持つ「日立理科クラブ」と連携して運営する「日立教室」と同様の内容で、第一段階育成プログラムを実施することができた。

(4) 今後に向けて

今年度「川口教室」では、「ワイヤレス充電器」の仕組を「知識構成型ジグソー法」で

学んだ生徒たちが、授業前の「携帯と充電器の反応」といったおぼろげな理解を「電磁誘導」を軸に深めると共に、「携帯側のコイルはどのようになっているのか分解してみたい」「直流から交流への変換にロスはないのか」といった疑問を見出すといったような、STEAM 各分野を統合的に学ぶ協調学習が着実に生まれている。他方、彼らの疑問をより本格的な探究にどうつなぎ、学年を超えた資質能力育成をどう支援するか、また、高校での学びにどう結びつけていきうるのかなど、継続的に取り組む必要のある課題は多い。「日立教室」や協調学習の授業づくりプロジェクトとも連携を密にしながら、企画を発展させていきたい。

6. 今年度の研修実施状況

今年度 CoREF で実施した研修、講演等の一覧（全 161 回）を次ページの表 27、28 に示す（1 月以降のスケジュールについては 12 月末日時点での予定）。

研修のカテゴリ別内訳を見ると、最も多かったのが専門研修の 79 回である。専門研修には、第 2,3 節で紹介したプロジェクトの研究会や第 4 節で紹介した本郷学習科学セミナーのようなプロジェクト参加者を対象にしたものから、教育センター等が主催する希望者向けの研修まで含む。前者については、ビデオや対話記録を活用した授業研究の演習や子どもの学びのシミュレーションによる授業検討会、実践交流など、授業研究に関わる実践的な内容が中心である。後者ではそれに加え、授業体験を中心とした入門研修も含まれている。

専門研修の開催形態については遠隔同期が 36 回と最も多かったが、対面 27 回、対面と遠隔同期のハイブリッドも 16 回を数え、目的や状況に応じて様々な形態での研修実施が可能になっていることが分かる。専門研修におけるオンラインの活用については、すでにコロナ対策としての意味合いだけでなく、働き方改革等の観点からもニュースタンダードになりつつあるようである。他方、今年度対面の専門研修が増えたことで、対面ならではの良さを感じる機会もしばしばあった。目的や制約に応じてベストな形態を考えていけるとよいだろう。

次いで多かったのは授業研究会の 55 回である。授業研究の開催形態の内訳を見ると、対面のみ 44 回、対面＋遠隔同期（校内の先生方が対面で授業研究を行うところに他校の先生方や研究者が遠隔同期で参加するような形態）6 回、遠隔同期のみ 3 回、オンデマンド＋遠隔同期（授業ビデオを事前視聴したうえで遠隔同期で研究協議を行うような形態）2 回となっている。授業研究会については対面の研修が大きく増加した。対面の授業研究会にお邪魔すると、子ども達や先生方の雰囲気をつかめるという点では、やはりオンラインにはないよさがあると感じる。他方、まだまだ回数は少ないが、オンデマンドでの授業ビデオ視聴と遠隔同期による授業研究会のスタイルが普及してくると、多忙な先生方がより柔軟に全国の先生方とつながる機会を持つことができるだろう。これも目的に応じて多様な形態の活用を考えられるとよい。

次いで多かったのは、6 回の年次研修（初任者研修、中堅教員研修等）、5 回の校内研修、3 回の管理職、1 回の指導主事研修である。それ以外にシンポジウム等の一般向けイベントでの情報発信を 12 回行った。

いずれの研修等のデザインでも、授業と同様、実現したい学びの姿を具体的に想定しながら、それぞれの実施形態で現状可能だと考えられる活動に落とし込み、実施、そこで見えてきた気づきを蓄積しながら次のデザインに活かしている。近い将来、多様な開催形態を積極的に選択できる状況になるだろう。その際、これまで以上にそれぞれの研修のねらいや参加者の制約を意識しながら、研修のあり方について考えていく必要がある。

第1章 協調学習の授業づくりプロジェクト 今年度の展開

番号	日時	主催	名称	主な対象	カテゴリ
1	4月25日	埼玉県教育委員会	令和4年度 未来を拓く「学び」プロジェクト 指導主事研修会	指導主事	指導主事研修
2	4月27日	埼玉県教育委員会	令和4年度 高等学校初任者研修 授業力向上研修	県内高等学校初任者	年次研修
3	5月10日	京都市立西院小学校	第1回校内授業研究会	校内教職員	授業研究会
4	5月11日	九重町教育委員会	協調学習ミニ研修	市内教職員	専門研修
5	5月17日	埼玉県教育委員会	「国際バカロレア等特色ある教育検討事業」における「第1回特色ある教育課程 編成研究会」	本事業運営協力員、高校教育指導課担当者	専門研修
6	5月25日 6月8日	埼玉県教育委員会	令和4年度 高等学校初任者研修 授業力向上研修	県内高等学校初任者	年次研修
7	5月27日	安芸太田町教育委員会	令和4年度第1回安芸太田町「学びの革新」推進協議会	町内教職員	専門研修
8	6月1日	安芸太田町教育委員会	安芸太田中学校授業研究	校内教職員	授業研究会
9	6月1日	せらにし教育研究会	協調学習研修会	校内教職員	校内研修
10	5月28日	CoREF	令和4年度 第1回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
11	6月4日	New Education Expo 実行委員会	New Education Expo 2022 (東京)	主に教育委員会、小学校・中学校・高等学校の教員	一般向け
12	6月11日	日本教育方法学会	2022年度日本教育方法学会第25回研究会	学会会員、一般	一般向け
13	6月11日	New Education Expo 実行委員会	New Education Expo 2022 (大阪)	主に教育委員会、小学校・中学校・高等学校の教員	一般向け
14	6月17日	清川村教育委員会	令和4年度「きよかわ学びづくり推進事業」における校内研究会(緑中学校)	校内教職員	校内研修
15	6月15日	人工知能学会 OS 招待講演	OS-16 知識・学習の転移可能性〜ヒトとAI〜	学会会員、一般	一般向け
16	6月17日	人工知能学会 一般セッション	4K3-GS-1-05 対話で生まれ変わる臨床の知	学会会員、一般	一般向け
17	6月20日	春日部市立武里中学校	授業研究会	校内教職員	授業研究会
18	6月22日	せらにし教育研究会	協調学習研修会	校内教職員	授業研究会
19	6月23日	豊後高田市教育委員会	第2回 まなびの扉	町内教職員	専門研修
20	6月24日	飯塚市教育委員会	令和4年度 飯塚市協調学習推進に係る研修会第1回	校内で協調学習を推進する立場の教員	専門研修
21	6月25日	厚木市教育委員会	令和4年度 厚木市教育研究所「寺子屋講座(主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善)」	市立小中学校教職員	専門研修
22	6月27日	安芸太田町教育委員会	安芸太田中学校授業研究	校内教職員	授業研究会
23	6月28日	安芸太田町教育委員会	令和4年度第2回安芸太田町「学びの革新」推進協議会	町内教職員	授業研究会
24	6月27日	静岡総合教育センター	「主体的・対話的で深い学び」を支える授業研究	公立小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の教員 100人	年次研修
25	6月18日	CoREF	令和4年度 第2回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
26	6月29日	九重町立野矢小学校	校内研修会	校内教職員	校内研修
27	6月30日	高根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」協調学習に係るキックオフ会	県内で協調学習を推進する立場の教員	専門研修
28	7月1日	国立情報学研究所	第52回「大学等におけるオンライン教育とデジタル変革に関する サイバー・レポート」	一般	一般向け
29	7月7日	茨城県教育研修センター	令和4年度ベテラン教員研修講座(中学校)	中学校教諭 89人	専門研修
30	7月8日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」理科部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	授業研究会
31	7月8日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」農業部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	授業研究会
32	7月10日	College Summit for Peace in The University of Tokyo 実行委員会	College Summit for Peace in The University of Tokyo	SDGsに関心のある大学生	一般向け
33	7月11日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」公民部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	授業研究会
34	7月11日	高根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」に係る協調学習研修会	県内で協調学習を推進する立場の教員	専門研修
35	7月13日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」保健体育部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
36	7月15日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」情報部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
37	7月23日	CoREF	令和4年度 第3回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
38	7月17日	独立行政法人国際協力機構「JICA」東京センター	2022年度教師海外研修代替国内研修(東京センター所管地域)「教員のためのSDGs 研修」	所管1都5県(東京・埼玉・千葉・群馬・新潟・長野)の教員 20名	専門研修
39	7月20日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」芸術部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
40	7月21日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」看護・福祉部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
41	7月25日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」外国語部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
42	7月25日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」国語部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
43	7月25日	久喜市立太田小学校	夏季研修会	校内教職員	校内研修
44	7月27日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」地歴部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
45	7月28日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」数学部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
46	7月30日	新しい学びプロジェクト研究協議会 CoREF	令和4年度 新しい学びプロジェクト拡大研究推進委員会	プロジェクト参加教員	専門研修
47	8月1日	長崎県教育センター	ステップアップセミナー	県内小・中・義務教育、高等学校・特別支援学校教職員、教育センター所員 500名	専門研修
48	8月3日	浜田市教育委員会	令和3年度浜田市協調学習(知識構成型ジグソー法)研修会	浜田市内各小中学校管理職及び教員	専門研修
49	8月3日	日本私学教育研究所	R1 慶私立学校初任者研修北陸地区研修会	新規採用及び希望する私立中・高校教員約 40名	専門研修
50	8月4日	静岡県立浜松東高等学校	校内研修会(静岡県立浜松東高等学校)	校内教職員	授業研究会
51	8月5日	有田川町教育委員会	有田川町教職員クラブ 協調学習を取り入れた授業づくり研究クラブ研修会	町内教職員	専門研修
52	8月5日	日本学校教育学会	日本学校教育学会第36回研究大会	学会会員	一般向け
53	8月8日	新潟県立教育センター	新潟県立教育センター 新潟県立教育学会 新潟県立教育学会 新潟県立教育学会 新潟県立教育学会 新潟県立教育学会	県内小中高特別支援学校中教職員	年次研修
54	8月8日 8月9日	琉球大学教育学部附属中学校	令和4年度 夏季研修会	校内教職員	専門研修
55	8月9日	山口県教育庁	令和4年度山口県高等学校等教育課程研究協議会	県内小中高特教員約 100名	専門研修
56	8月17日	京都市立西院小学校	第2回校内授業研究会	校内教職員	授業研究会
57	8月20日	CoREF	令和4年度 第4回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
58	8月22日	鶴ヶ島市立西院中学校	小中合同研修会	校内教職員	専門研修
59	8月22日	瀬戸(OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト	瀬戸(OKAYAMA) 新しい学びプロジェクト研修会	プロジェクト参加教員	専門研修
60	8月24日	豊後高田市教育委員会	第4回 まなびの扉	町内教職員	専門研修
61	8月24日	EDUtech Japan	EDUtech Japan パネルディスカッション講演	一般	一般向け
62	8月25日	逗子市教育委員会	令和4年度逗子市教育研究相談センター夏季研修会	市内教職員	専門研修
63	8月31日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」農業部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
64	8月31日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」家庭部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
65	9月6日	安芸太田町教育委員会	加計中学校授業研究及び令和4年度第3回安芸太田町「学びの革新」推進協議会	町内教職員	授業研究会
66	9月10日	日本認知科学会第39回大会	OS 教育の世界に知識を取り戻す〜単元マップを媒介に〜	学会員	一般向け
67	9月12日	川口市立稲家中学校	稲家中学校校内研修会	校内教職員	授業研究会
68	9月21日	高根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」大田高校授業研究会 兼 第3回協調学習研修会	県内で協調学習を推進する立場の教員及び校内教員	授業研究会
69	9月24日	CoREF	令和4年度 第5回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
70	9月26日	全国高等学校長協会	令和4年度教育課程研究協議会	協会員(全国高等学校長) 50名	管理職研修
71	9月26日	久喜市教育委員会	令和4年度第1回久喜市研究委員会	研究委員教員 50名	専門研修
72	9月28日	安芸太田町教育委員会	令和4年度安芸太田町 立戸河内小学校校内研修会	校内教職員及びプロジェクト参加教員	授業研究会
73	9月30日	京都市立西院小学校	第3回校内授業研究会	校内教職員	授業研究会
74	10月4日	クラーク記念国際高等学校	「知識構成型ジグソー法」研修1	校内教職員	専門研修
75	10月5日	江府町立江府小学校	江府町立奥大山江府学園 プラトンの高校舎授業研究会	本校教員	授業研究会
76	10月5日	埼玉教育委員会	令和4年度 高等学校初任者研修 授業力向上研修	県内高等学校初任者	年次研修
77	10月11日	久喜市教育委員会	次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの活用推進事業に係る先進技術導入研修	関係教職員	専門研修
78	10月19日	静岡県立浜松東高等学校	浜松東高等学校校内研修研究授業及び事後検討会	50人程度(本校教員・校外参加者)	授業研究会
79	10月14日	有田川町教育委員会	令和4年度新しい学びプロジェクト授業研究会(藤並小学校)	町内教職員	授業研究会
80	10月14日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」芸術部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
81	10月14日	埼玉教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」地歴部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修

表 27：令和4年度の研修実施状況一覧(1/2)

令和4年度活動報告書 第13集

番号	日時	主催	名称	主な対象	カテゴリ
82	10月17日	鳥取県立本子高校	令和4年度高等学校課事業「主体的・対話的で深い学び」教員スキルアップ事業」に係る「学習評価研修会」	校内教員及び限内教員	専門研修
83	10月17,18日	福井県教育庁	「引き出す・楽しむ教育」推進事業講演会	講演会 県内小中学校教職員（希望制）100名程度	専門研修
84	10月18日	清風学園 清風中学校・高等学校	校内授業研究会	校内教職員	授業研究会
85	10月19日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」芸術部会における授業研究会	プロジェクト参加教員	専門研修
86	10月19日	安芸太田町教育委員会	校内授業研究会（戸河内小学校・安芸太田中学校）	校内教職員	授業研究会
87	10月20日	鳥根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」隠岐島前高校授業研究会	限内で協働学習を推進する立場の教員及び校内教員	授業研究会
88	10月23日	豊後高田市教育委員会・九重町教育委員会	協働学習が結ぶ自治体を超えた繋がり！第1回授業実践 研究協議	町内教職員	授業研究会
89	10月24日	鶴ヶ島市立西中学校	校内研修会	校内教職員	授業研究会
90	10月24日	久喜市立江面小学校	校内授業研究会	校内教職員及び市内教職員	授業研究会
91	10月24日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」地歴部会における授業研究会	プロジェクト参加教員	専門研修
92	10月25日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」工業部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
93	10月28日	飯塚市教育委員会	次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの活用推進事業に係る先端技術導入研修	関係教職員	専門研修
94	10月31日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」国語部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
95	11月1日	鳥根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」矢上高校授業研究会	限内で協働学習を推進する立場の教員及び校内教員	授業研究会
96	11月1日	埼玉県立総合教育センター	令和4年度県立高等学校等新任校長研修会（第3日）	県立高等学校等新任校長	管理職研修
97	11月2日	津和野町立日原中学校	フォローアップ研修訪問指導 兼 町学力向上対策研究会公開授業	校内教職員及び町内教員	授業研究会
98	11月2日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」家庭部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
99	11月5日	飯塚市教育委員会	第17回小中一貫教育全国サミット in 飯塚	サミット参加教員他500名	一般向け
100	11月7日	豊後高田市教育委員会	「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習・指導方法改善実践研究会（高田小学校）	校内教職員	授業研究会
101	11月7日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」理科部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
102	11月8日	清川村教育委員会	令和4年度「きよかわ学びづくり推進事業」における校内研究会（緑中学校）	校内教職員	授業研究会
103	11月9日	第61回広島県へき地小規模校研究大会現地実行委員会	第61回広島県へき地小規模校研究大会（安芸太田大会）	県内小中学校教職員及びプロジェクト参加教員	授業研究会
104	11月9日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」国語部会における授業研究会	プロジェクト参加教員	専門研修
105	11月9日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」家庭部会における授業研究会	プロジェクト参加教員	専門研修
106	11月10日	鳥根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」松江農林高校授業研究会	限内で協働学習を推進する立場の教員及び校内教員	授業研究会
107	11月10日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」農業部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
108	11月11日	鳥根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」大田高校授業研究会	限内で協働学習を推進する立場の教員及び校内教員	授業研究会
109	11月11日	埼玉県東部教育事務所	授業エッセイを目標とする授業研究会	東部地区小中教員（研修参加者）	専門研修
110	11月26日	CoREF	令和4年度 第6回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
111	11月13日	京都市立西院小学校	第4回校内授業研究会	校内教職員	授業研究会
112	11月13日	飯塚市教育委員会	次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの活用推進事業に係る校内授業研究会（飯塚小学校）	校内教職員	授業研究会
113	11月15日	埼玉県立総合教育センター	令和4年度県立高等学校等新任教員研修会（第3日）	埼玉県立高等学校新任教員、鳥根指導主事等	管理職研修
114	11月16日	川口市立領家中学校	川口市教育委員会委嘱研究発表会	校内外教員100名	一般向け
115	11月16日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」情報部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
116	11月16日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」数学部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
117	11月18日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」農業部会における授業研究会	プロジェクト参加教員	専門研修
118	11月21日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」保健体育部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
119	11月21日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」外国語部会における教科部会ミーティング	プロジェクト参加教員	専門研修
120	11月22日	山形県教育センター	令和3年度確かな学力育成講座C	小中高校教員	専門研修
121	11月22日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」理科部会における授業研究会	プロジェクト参加教員	専門研修
122	11月24日	安芸太田町教育委員会	令和4年度安芸太田町加小中学校研修・道徳教育推進協議会（第2回）	町内教職員	授業研究会
123	11月25日	飯塚市教育委員会	令和4年度 飯塚市協働学習推進に係る研修会第2回（市立瀧田小学校）	限内で協働学習を推進する立場の教員	専門研修
124	11月25日	埼玉県教育庁	国際バカロレア等特色ある教育検討事業（@埼玉県立鶴ヶ谷高等学校）	本事業運営協力員、高校教育指導課担当者	授業研究会
125	11月28日	埼玉県教育庁	国際バカロレア等特色ある教育検討事業（@埼玉県立新郷高等学校）	本事業運営協力員、高校教育指導課担当者	授業研究会
126	11月28日	久喜市立江面小学校	校内授業研究会	校内教職員及び市内教職員	授業研究会
127	11月29日	飯塚市教育委員会	次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの活用推進事業に係る校内授業研究会（立岩小学校）	校内教職員	授業研究会
128	11月28日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」情報部会における授業研究会	プロジェクト参加教員	専門研修
129	11月29日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」保健体育部会における授業研究会	プロジェクト参加教員	専門研修
130	11月30日	浜田市教育委員会	浜田市協働学習研究指定校公開授業（三陽中学校）	市内小中学校教職員	授業研究会
131	12月2日	京都市立西院小学校	研究発表会事前授業研究会	校内教職員	校内研修
132	12月2日	埼玉県教育委員会	令和4年度「未来を拓く「学び」プロジェクト」数学部会における授業研究会	プロジェクト参加教員	専門研修
133	12月6日	延岡市学校教育研究所	令和4年度 延岡市学校教育研究所常任研究教育研究発表大会小学校部会	延岡市学校教育研究所常任研究員及び市内教員	授業研究会
134	12月6日	クラーク記念国際高等学校	「知識構成型ジグソー法」研修Ⅱ	校内教職員	専門研修
135	12月8日	豊後高田市教育委員会	「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習・指導方法改善実践研究会（戴屋学園）	校内教職員	授業研究会
136	12月9日 12月10日	有田川町教育委員会	令和4年度「新しい学びプロジェクト」公開研究授業及び教科別研修会	限内及びプロジェクト参加教員	専門研修
137	12月17日	CoREF	令和4年度 第7回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
138	12月15日	十文字学園女子大学	大学問題研究会	大学教職員	専門研修
139	12月20日	清風学園 清風中学校・高等学校	校内授業研究会	校内教職員	授業研究会
140	12月20日	鳥根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」大田高校授業研究会	限内で協働学習を推進する立場の教員及び校内教員	授業研究会
141	12月21日	鳥根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」情報科学高校授業研究会	限内で協働学習を推進する立場の教員及び校内教員	授業研究会
142	1月7日	CoREF	令和4年度 第8回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修
143	1月18日	埼玉県教育委員会	令和4年度 高等学校初任者研修 授業力向上研修	県内高等学校初任者	年次研修
144	1月19日	安芸太田町教育委員会	令和4年度 授業研究会（T授業）	校内教職員	授業研究会
145	1月20日 1月24日	京都市立学校新しい学びプロジェクト研究協議会	令和4年度「新しい学びプロジェクト」公開研究授業及び教科別研修会	限内及びプロジェクト参加教員	専門研修
146	1月22日	独立行政法人国際協力機構（JICA）	2022年度教師海外研修代替国内研修（JICA東京主催）	関係教員	専門研修
147	1月23日	久喜市立江面小学校	校内授業研究会	校内教職員及び市内教職員	授業研究会
148	1月24日	飯塚市教育委員会	次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの活用推進事業に係る校内授業研究会（立岩小学校）	校内教職員	授業研究会
149	1月25日	飯塚市教育委員会	次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの活用推進事業に係る校内授業研究会（飯塚小学校）	校内教職員	授業研究会
150	1月30日	埼玉県教育局県立学校部高校教育指導課	令和4年度「国際バカロレア等特色ある教育検討事業」における「第3回特色ある教育課程編成研究会」	本事業運営協力員、高校教育指導課担当者	専門研修
151	2月4日	新しい学びプロジェクト研究協議会 CoREF	令和4年度 新しい学びプロジェクト第2回教科部会	プロジェクト参加教員	専門研修
152	2月5日	新しい学びプロジェクト報告会協議会 CoREF	令和4年度 新しい学びプロジェクト報告会	プロジェクト参加教員参加教員及び一般	専門研修
153	2月1日	安芸太田町教育委員会	加計小学校授業研究及び令和4年度第4回安芸太田町「学びの変革」推進協議会	町内教職員	授業研究会
154	2月3日	鳥根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」出雲高校授業研究会	限内で協働学習を推進する立場の教員及び校内教員	授業研究会
155	2月7日	鳥根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」瀬野高校授業研究会	限内で協働学習を推進する立場の教員及び校内教員	授業研究会
156	2月7日	瀬戸（OKAYAMA）新しい学びプロジェクト	令和4年度 瀬戸（OKAYAMA）新しい学びプロジェクト 総括会議	プロジェクト参加教員	専門研修
157	2月8日	清川村教育委員会	令和4年度「きよかわ学びづくり推進事業」における校内研究会（緑中学校）	校内教職員	授業研究会
158	2月9日	安芸太田町教育委員会	次世代の学校・教育現場を見据えた先端技術・教育データの活用推進事業に係るオンデマンド授業研究会	プロジェクト参加教員参加教員	授業研究会
159	2月10日	鳥根県教育委員会	令和4年度「授業力向上プロジェクト」情報科学高校授業研究会	限内で協働学習を推進する立場の教員及び校内教員	授業研究会
160	2月15日	コネット教育総合研究所	私学マネジメント定例セミナー	会員、一般	専門研修
161	3月4日	CoREF	令和4年度 第9回本郷学習科学セミナー	関係小中高校教員/指導主事	専門研修

表 28：令和4年度の研修実施状況一覧（2/2）